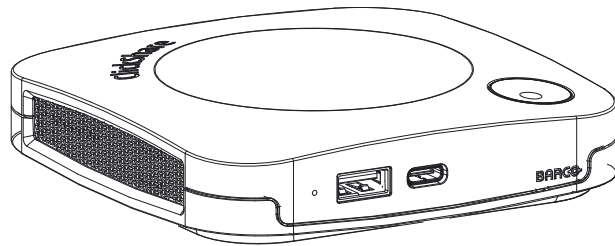


# CX-20



## 設置マニュアル

**Barco NV**

Beneluxpark 21, 8500 Kortrijk, Belgium  
[www.barco.com/en/support](http://www.barco.com/en/support)  
[www.barco.com](http://www.barco.com)

**Registered office: Barco NV**

President Kennedypark 35, 8500 Kortrijk, Belgium  
[www.barco.com/en/support](http://www.barco.com/en/support)  
[www.barco.com](http://www.barco.com)

## Copyright ©

All rights reserved. 本文書のいかなる部分もコピー、複製、翻訳が禁止されています。Barco から事前の書面による通知がある場合を除いて、他の方法で、記録、転送、検索システムへの保存も認められていません。

### 商標

本書に記載されているブランド名と製品名は、各所有者の商標、登録商標、または著作権である場合があります。これらのブランド名および製品名は、いずれも説明上、または例として挙げたものであり、その製品やメーカーを宣伝するものではありません。

### 商標

USB タイプ C™ および USB C™ は、USB Implementers Forum の商標です。

### HDMI 商標に関する注記事項

 HDMI、HDMI High Definition Multimedia Interface、HDMI ロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc の商標または登録商標です。

### 製品セキュリティ問題対応

グローバルな技術リーダーである Barco は、Barco の知的財産権を保護しながら、お客様に安全なソリューションとサービスを提供することに努めています。製品のセキュリティの問題があると、製品のセキュリティ問題対応プロセスが即座に開始されます。特定のセキュリティ問題に対処したり、Barco の製品のセキュリティ上の問題を報告するには、<https://www.barco.com/psirt> に記載されている詳細な連絡先までお知らせください。Barco は、当社の顧客を保護するために、Barco が製品の分析を行い、修正プログラムや緩和策を出すまで、セキュリティ上の脆弱性を公開したり確認したりいたしません。

### 特許保護

[www.barco.com/about-barco/legal/patents](http://www.barco.com/about-barco/legal/patents) を参照してください

### 保証と補償

Barco は、法的に規定された保証条件の一部として、いかなる問題もなく製造されていることを保証します。受領時に、購入者は、輸送中に発生した損傷、ならびに材料および製造上の欠陥に関して直ちに出荷されたすべての製品を点検しなければなりません。Barco に対しては、いかなる苦情も書面で直ちに通知しなければなりません。

保証期間は、リスクの転送日に開始しますが、特別なシステムおよびソフトウェアの場合、リスクの転送から30日以内の使用開始日に開始します。正当な不平の通知があった場合、Barco は、適切な期間内に自らの裁量により故障を修理するか、交換することができます。この措置が不可能である、またはうまくいかないことが判明した場合、購入者は、購入価格の値引きまたは契約の解除を要求することができます。他のすべての請求、特に直接的または間接的な損害賠償に関連するもの、および Barco が提供するソフトウェアおよび他のサービスは、システムまたは独立したサービスの構成要素であり、これらの操作に起因する損害は、書面で保証された特性の不在、または Barco の意図または重大な過失またはその一部に損害が起因することが証明されなければ無効とみなされます。

購入者または第三者が Barco から納品された商品の改造または修理を行った場合、または商品が誤って取り扱われた場合、特にシステムが誤って操作された場合、またはリスク転送後に商品が契約で合意されていない影響を受ける可能性がある場合、購入者のすべての保証請求は無効になります。保証範囲に含まれていないものは、購入者が提供するプログラムや特殊な電子回路に起因するシステム障害、例えばインタフェースです。通常の損耗や通常のメンテナンスも Barco の保証の対象ではありません。

このマニュアルで規定されている環境条件およびサービス・保守規則は、お客様が遵守しなければなりません。

### BarcoClickShare製品向けユーザーライセンス契約<sup>1</sup>

本製品向けユーザーライセンス契約 (EULA) は、本文書に付属するBARCO GENERAL EULAと共に、ソフトウェア利用の諸条件について規定します。

ソフトウェアを開いたりダウンロードして使用したりする前に本文書をよくお読みください。

1: EULAの翻訳とEULAの英語のテキストの間に相違または不一致が見られる場合には、英語のテキストの解釈が優先されます。

本ライセンス契約に記載される条件に同意できない場合には、ライセンスに合意しないでください。またソフトウェアのすべてまたはその一部をインストール、ダウンロード、アクセスまたはコピー/使用することも認められません。

## 1.資格の付与

Barco ClickShare(「ソフトウェア」)は、対象のドキュメンテーションでさらに詳細に記載されているように、各ソフトウェアコンポーネントを含む、ワイヤレスのプレゼンテーションソリューションを提供します。

本ソフトウェアは、ClickShareベースユニットおよびボタン、または認定されたClickShareアプリケーション(それぞれ「Barco ClickShare製品」)のダウンロードに対する購入の完了、および関連購入価格の支払いを条件として、使用できます。

- 条件

Barco ClickShare製品の最初の使用日から、かかるBarco ClickShare製品をお客様が操作する限り、本EULAの条件でソフトウェアを使用できます。

- 導入および使用

かかる製品のためにBarcoによって発行されるドキュメンテーションに従い、Barco ClickShare製品に関して、ソフトウェアは単独で使用されるものとします。

## 2.サポート

ソフトウェアは、Barcoの保証の付帯事項に記載されている保証条件が適用されます。ソフトウェアのアップグレードおよびアップデートの規定を含むメンテナンス、およびヘルプデスクのサポートが、Barcoの条件、さらには現行の保証の付帯事項において、お客様がオプションを選択することにより利用可能です。

製品の販売時点またはBarco ClickShare製品および/またはソフトウェアの保証期間中においては、より高いメンテナンスおよびサポートレベルが得られます。

より高いメンテナンスおよびサポートレベルについて、注文し、追加でお支払いされる場合、初回のお買い上げに含めることができます。中断なくメンテナンスおよびサポート契約を維持することを、強く推奨します。Barcoは、お客様による中断後にメンテナンスを再開しない権利を保有しています。

## 3.使用条件

本文書に付属するBarco EULAに記載の通り、本ソフトウェアを使用できます。

本製品向けEULAの条項は、矛盾または不一致が生じる場合には、Barcoの一般的EULAに優先します。

(故意ではないまたはその他の)不履行(例えば、実際の使用が本契約で許可されている使用範囲を超える場合)が生じる場合、Barcoは、不履行が救済されるまでソフトウェアに対するアクセスを停止するオプションを有するものとし、不履行が救済されない場合には本文書に記載されるようにライセンス契約を終了させる場合があります。

## 4.プライバシー

お客様は、ソフトウェアによって処理される個人データの管理者です。したがって、お客様は、(特にお客様が提供または制御するコンポーネントについて)適用対象の全データ保護法の順守、プライバシー保護およびセキュリティ措置を実施および維持することに単独で責任を負います。Barcoは、この点に関し一切の保証をしないものとします。

Barcoは、このアプリケーション(<http://www.barco.com/en/about-barco/legal/privacy-policy/clickshare-app>)による個人データの処理について記載する、モバイルデバイスのClickShareソフトウェアアプリケーションの特定のプライバシーポリシーを作成しています。

## 5.その他の項目

- オープンソースコンポーネント

本ソフトウェアには、オープンソースライセンスによりリリースされているソフトウェアコンポーネントが含まれています。

使用されているサードパーティのコンポーネント一覧は、Barcoウェブサイト(「My Barco」セクション)またはその他の(オンラインによる)手段により、ソフトウェアのREADMEファイルに示されています。

対象のライセンス条件、著作権表示、および関係する場合、本文書に付属するBarco EULAに記載のように、ソースコードアクセス条件が適用されます。

- データの保持

機能的情報を使用および保持するBarcoの権利(EULAのセクション10.2)は、本EULAの契約後も有効であり続けるものとします。

## Barco ClickShare製品向けプライバシーポリシー

お客様は、ソフトウェアによって処理される個人データの管理者です。したがって、お客様は、(特にお客様が提供または制御するコンポーネントについて)適用対象の全データ保護法の順守、プライバシー保護およびセキュリティ措置を実施および維持することに単独で責任を負います。Barcoは、この点に関し一切の保証をしないものとします。Barcoは、このアプリケーション(<http://www.barco.com/en/about-barco/legal/privacy-policy/clickshare-app>)による個人データの処理について記載する、モバイルデバイスのClickShareソフトウェアアプリケーションの特定のプライバシーポリシーを作成しています。

ソフトウェアを通じ、Barcoは、(i)ソフトウェアによって接続されている製品の機能および機能性、および/または(ii)お客様により提供されるまたはソフトウェアの利用により生成されるように、技術的な情報(「機能的情報」)を収集することがあります。Barcoは、市場評価、その製品の査定および改善、研究開発の実行というBarcoの正当な権利に基づいて、製品およびサービスの開発および向上、製品およびサービスのお客様の組織への提供、サードパーティへのかかる機能的情報へのアクセスの許可のために、分析目的でかかる機能的情報を利用することがあります。Barcoによる機能的情報から派生する全てのノウハウ、発明および作業物は、Barcoの独占的所有物となります。

## オープンソースソフトウェア条項

本製品には、オープンソースライセンスでリリースされているソフトウェアコンポーネントが含まれています。ソースコードのコピーは、Barcoカスタマーサポート担当者にリクエストすることで入手可能です。

各オープンソースのソフトウェアコンポーネントおよび関連するドキュメンテーションのすべては、暗示的な商業上の可能性の保証、特定用途に対する適合性を含む、しかしそれに限定されない、明示的または黙示的な保証を一切しない「現状のまま」で提供されてします。いかなる場合も、そのような損失の可能性が忠告されていた場合でも、原因の如何を問わず、またこのオープンソースソフトウェアを使用することにより生じた規約、無過失責任、または不法行為の一切の法理に基づき、著作権所有者またはその他の貢献者は、直接的、偶発的、間接的な損失の責任を負わないものとします。詳細情報は、それぞれ特定のオープンソースのライセンスを参照してください。

各オープンソースのソフトウェアコンポーネントの著作権は、ドキュメンテーション、ソースコード、READMEファイルなどで示される場合があるように、最初の著作権所有者、他の貢献者、および/または受託者に属します。これらの著作権を削除、隠ぺい、いかなる形式でも変更することはできません。

各オープンソースソフトウェアライセンスの条件に従うことを承認しているものとします。

本ソフトウェアの開発において、以下のオープンソースソフトウェアが使用されました：

パッケージ	バージョン	ソースサイト
alsa-lib	1.1.7	<a href="ftp://ftp.alsa-project.org/pub/lib">ftp://ftp.alsa-project.org/pub/lib</a>
alsa-utils	1.1.7	<a href="ftp://ftp.alsa-project.org/pub/utils">ftp://ftp.alsa-project.org/pub/utils</a>
libsamplerate	0.1.9	<a href="http://www.mega-nerd.com/SRC">http://www.mega-nerd.com/SRC</a>
libsndfile	1.0.28	<a href="http://www.mega-nerd.com/libsndfile/files">http://www.mega-nerd.com/libsndfile/files</a>
ncurses	6.1	<a href="http://ftpmirror.gnu.org/ncurses">http://ftpmirror.gnu.org/ncurses</a>
avahi	0.7	<a href="https://github.com/lathiat/avahi/releases/download/v0.7">https://github.com/lathiat/avahi/releases/download/v0.7</a>
dbus	1.12.16	<a href="https://dbus.freedesktop.org/releases/dbus">https://dbus.freedesktop.org/releases/dbus</a>
expat	2.2.7	<a href="http://downloads.sourceforge.net/project/expat/expat/2.2.7">http://downloads.sourceforge.net/project/expat/expat/2.2.7</a>
libselinux	2.8	<a href="https://raw.githubusercontent.com/wiki/SELinuxProject/selinux/files/releases/20180524">https://raw.githubusercontent.com/wiki/SELinuxProject/selinux/files/releases/20180524</a>
libsepol	2.8	<a href="https://raw.githubusercontent.com/wiki/SELinuxProject/selinux/files/releases/20180524">https://raw.githubusercontent.com/wiki/SELinuxProject/selinux/files/releases/20180524</a>
pcre	8.42	<a href="https://ftp.pcre.org/pub/pcre">https://ftp.pcre.org/pub/pcre</a>
python3	3.7.4	<a href="https://python.org/ftp/python/3.7.4">https://python.org/ftp/python/3.7.4</a>
bluez5_utils-headers	5.50	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/linux/bluetooth">https://cdn.kernel.org/pub/linux/bluetooth</a>

パッケージ	バージョン	ソース サイト
libffi	v3.3-rc0	<a href="https://github.com/libffi/libffi/archive/v3.3-rc0">https://github.com/libffi/libffi/archive/v3.3-rc0</a>
libzlib	1.2.11	<a href="http://www.zlib.net">http://www.zlib.net</a>
libdaemon	0.14	<a href="http://0pointer.de/lennart/projects/libdaemon">http://0pointer.de/lennart/projects/libdaemon</a>
libglib2	2.56.4	<a href="http://ftp.gnome.org/pub/gnome/sources/glib/2.56">http://ftp.gnome.org/pub/gnome/sources/glib/2.56</a>
elfutils	0.176	<a href="https://sourceware.org/elfutils/ftp/0.176">https://sourceware.org/elfutils/ftp/0.176</a>
bzip2	1.0.8	<a href="https://sourceware.org/pub/bzip2">https://sourceware.org/pub/bzip2</a>
util-linux	2.33	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/util-linux/v2.33">https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/util-linux/v2.33</a>
linux-pam	1.3.1	<a href="https://github.com/linux-pam/linux-pam/releases/download/v1.3.1">https://github.com/linux-pam/linux-pam/releases/download/v1.3.1</a>
flex	2.6.4	<a href="https://github.com/westes/flex/files/981163">https://github.com/westes/flex/files/981163</a>
readline	8.0	<a href="http://ftpmirror.gnu.org/readline">http://ftpmirror.gnu.org/readline</a>
bc	1.06.95	<a href="http://alpha.gnu.org/gnu/bc">http://alpha.gnu.org/gnu/bc</a>
bellagio	0.9.3	<a href="http://downloads.sourceforge.net/project/omxil/omxil/Bellagio%200.9.3">http://downloads.sourceforge.net/project/omxil/omxil/Bellagio%200.9.3</a>
bitstream	1.4	<a href="https://get.videolan.org/bitstream/1.4">https://get.videolan.org/bitstream/1.4</a>
bluez5_utils	5.50	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/linux/bluetooth">https://cdn.kernel.org/pub/linux/bluetooth</a>
libical	1.0.1	<a href="https://github.com/libical/libical/releases/download/v1.0.1">https://github.com/libical/libical/releases/download/v1.0.1</a>
eudev	3.2.7	<a href="http://dev.gentoo.org/~blueness/eudev">http://dev.gentoo.org/~blueness/eudev</a>
kmod	25	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/kernel/kmod">https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/kernel/kmod</a>
bridge-utils	1.6	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/net/bridge-utils">https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/net/bridge-utils</a>
busybox	1.29.3	<a href="http://www.busybox.net/downloads">http://www.busybox.net/downloads</a>
dosfstools	4.1	<a href="https://github.com/dosfstools/dosfstools/releases/download/v4.1">https://github.com/dosfstools/dosfstools/releases/download/v4.1</a>
e2fsprogs	1.44.5	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/linux/kernel/people/tytso/e2fsprogs/v1.44.5">https://cdn.kernel.org/pub/linux/kernel/people/tytso/e2fsprogs/v1.44.5</a>
iproute2	4.19.0	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/net/iproute2">https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/net/iproute2</a>
iptables	1.8.2	<a href="https://netfilter.org/projects/iptables/files">https://netfilter.org/projects/iptables/files</a>
netcat	0.7.1	<a href="http://downloads.sourceforge.net/project/netcat/netcat/0.7.1">http://downloads.sourceforge.net/project/netcat/netcat/0.7.1</a>
ntp	4.2.8p13	<a href="https://www.eecis.udel.edu/~ntp/ntp_spool/ntp4/ntp-4.2">https://www.eecis.udel.edu/~ntp/ntp_spool/ntp4/ntp-4.2</a>
libedit	20180525-3.1	<a href="http://www.thrysoee.dk/editline">http://www.thrysoee.dk/editline</a>
libbsd	0.10.0	<a href="https://libbsd.freedesktop.org/releases">https://libbsd.freedesktop.org/releases</a>
libevent	2.1.8-stable	<a href="https://github.com/libevent/libevent/releases/download/release-2.1.8-stable">https://github.com/libevent/libevent/releases/download/release-2.1.8-stable</a>
libopenssl	1.1.1c	<a href="https://www.openssl.org/source">https://www.openssl.org/source</a>
pciutils	3.5.5	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/software/utils/pciutils">https://cdn.kernel.org/pub/software/utils/pciutils</a>
unzip	60	<a href="ftp://ftp.info-zip.org/pub/infozip/src">ftp://ftp.info-zip.org/pub/infozip/src</a>
usbutils	010	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/usb/usbutils">https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/usb/usbutils</a>
libusb	1.0.22	<a href="https://github.com/libusb/libusb/releases/download/v1.0.22">https://github.com/libusb/libusb/releases/download/v1.0.22</a>
c-ares	1.15.0	<a href="http://c-ares.haxx.se/download">http://c-ares.haxx.se/download</a>

パッケージ	バージョン	ソース サイト
CA 証明書	20190110	<a href="http://snapshot.debian.org/archive/debian/20190513T145054Z/pool/main/c/ca-certificates">http://snapshot.debian.org/archive/debian/20190513T145054Z/pool/main/c/ca-certificates</a>
cairo	1.15.12	<a href="http://cairographics.org/snapshots">http://cairographics.org/snapshots</a>
fontconfig	2.13.1	<a href="http://fontconfig.org/release">http://fontconfig.org/release</a>
freetype	2.9.1	<a href="http://download.savannah.gnu.org/releases/freetype">http://download.savannah.gnu.org/releases/freetype</a>
libpng	1.6.37	<a href="http://downloads.sourceforge.net/project/libpng/libpng16/1.6.37">http://downloads.sourceforge.net/project/libpng/libpng16/1.6.37</a>
libdrm	2.4.97	<a href="https://dri.freedesktop.org/libdrm">https://dri.freedesktop.org/libdrm</a>
libpthread-stubs	0.4	<a href="http://xcb.freedesktop.org/dist">http://xcb.freedesktop.org/dist</a>
pixman	0.34.0	<a href="http://xorg.freedesktop.org/releases/individual/lib">http://xorg.freedesktop.org/releases/individual/lib</a>
collectd	5.7.2	<a href="http://collectd.org/files">http://collectd.org/files</a>
libgcrypt	1.8.4	<a href="https://gnupg.org/ftp/gcrypt/libgcrypt">https://gnupg.org/ftp/gcrypt/libgcrypt</a>
libgpg-error	1.33	<a href="https://www.gnupg.org/ftp/gcrypt/libgpg-error">https://www.gnupg.org/ftp/gcrypt/libgpg-error</a>
lm-sensors	V3-5-0	<a href="https://github.com/lm-sensors/lm-sensors/archive/V3-5-0">https://github.com/lm-sensors/lm-sensors/archive/V3-5-0</a>
crda	4.14	<a href="https://git.kernel.org/pub/scm/linux/kernel/git/mcgrof/crda.git/snapshot">https://git.kernel.org/pub/scm/linux/kernel/git/mcgrof/crda.git/snapshot</a>
libnl	3.4.0	<a href="https://github.com/thom311/libnl/releases/download/libnl3_4_0">https://github.com/thom311/libnl/releases/download/libnl3_4_0</a>
cryptsetup	2.0.6	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/cryptsetup/v2.0">https://cdn.kernel.org/pub/linux/utils/cryptsetup/v2.0</a>
json-c	0.13.1	<a href="https://s3.amazonaws.com/json-c_releases/releases">https://s3.amazonaws.com/json-c_releases/releases</a>
lvm2	2.02.183	<a href="ftp://sources.redhat.com/pub/lvm2">ftp://sources.redhat.com/pub/lvm2</a>
libaio	0.3.111	<a href="https://releases.pagure.org/libaio">https://releases.pagure.org/libaio</a>
popt	1.16	<a href="http://rpm5.org/files/popt">http://rpm5.org/files/popt</a>
dhcp	4.3.6	<a href="http://ftp.isc.org/isc/dhcp/4.3.6">http://ftp.isc.org/isc/dhcp/4.3.6</a>
dnsmasq	2.79	<a href="http://thekelleys.org.uk/dnsmasq">http://thekelleys.org.uk/dnsmasq</a>
dropbear	2018.76	<a href="https://matt.ucc.asn.au/dropbear/releases">https://matt.ucc.asn.au/dropbear/releases</a>
dvblast	3.4	<a href="https://get.videolan.org/dvblast/3.4">https://get.videolan.org/dvblast/3.4</a>
libev	4.24	<a href="http://dist.schmorp.de/libev/Attic">http://dist.schmorp.de/libev/Attic</a>
faad2	2.8.8	<a href="http://downloads.sourceforge.net/project/faac/faad2-src/faad2-2.8.0">http://downloads.sourceforge.net/project/faac/faad2-src/faad2-2.8.0</a>
fbv	1.0b	<a href="http://s-tech.elsat.net.pl/fbv">http://s-tech.elsat.net.pl/fbv</a>
giflib	5.1.4	<a href="http://downloads.sourceforge.net/project/giflib">http://downloads.sourceforge.net/project/giflib</a>
jpeg-turbo	2.0.1	<a href="https://downloads.sourceforge.net/project/libjpeg-turbo/2.0.1">https://downloads.sourceforge.net/project/libjpeg-turbo/2.0.1</a>
ffmpeg	4.1.3	<a href="http://ffmpeg.org/releases">http://ffmpeg.org/releases</a>
libva	2.4.0	<a href="https://github.com/intel/libva/releases/download/2.4.0">https://github.com/intel/libva/releases/download/2.4.0</a>
wayland	1.16.0	<a href="http://wayland.freedesktop.org/releases">http://wayland.freedesktop.org/releases</a>
libxml2	2.9.9	<a href="http://xmlsoft.org/sources">http://xmlsoft.org/sources</a>
libvorbis	1.3.6	<a href="http://downloads.xiph.org/releases/vorbis">http://downloads.xiph.org/releases/vorbis</a>

パッケージ	バージョン	ソース サイト
libogg	1.3.3	<a href="http://downloads.xiph.org/releases/ogg">http://downloads.xiph.org/releases/ogg</a>
libvpx	v1.7.0	<a href="https://github.com/webmproject/libvpx/archive/v1.7.0">https://github.com/webmproject/libvpx/archive/v1.7.0</a>
opus	1.3.1	<a href="https://downloads.xiph.org/releases/opus">https://downloads.xiph.org/releases/opus</a>
speex	1.2.0	<a href="https://downloads.xiph.org/releases/speex">https://downloads.xiph.org/releases/speex</a>
speexdsp	20e-d3452074664a-d07e380-e51321b148ac-ebdf20	<a href="https://git.xiph.org/speexdsp.git">https://git.xiph.org/speexdsp.git</a>
file	5.36	<a href="ftp://ftp.astron.com/pub/file">ftp://ftp.astron.com/pub/file</a>
gdb	8.1.1	<a href="http://ftpmirror.gnu.org/gdb">http://ftpmirror.gnu.org/gdb</a>
gnupg2	2.2.17	<a href="https://gnupg.org/ftp/gcrypt/gnupg">https://gnupg.org/ftp/gcrypt/gnupg</a>
libassuan	2.5.2	<a href="ftp://ftp.gnupg.org/gcrypt/libassuan">ftp://ftp.gnupg.org/gcrypt/libassuan</a>
libksba	1.3.5	<a href="ftp://ftp.gnupg.org/gcrypt/libksba">ftp://ftp.gnupg.org/gcrypt/libksba</a>
libnpth	1.6	<a href="https://www.gnupg.org/ftp/gcrypt/npth">https://www.gnupg.org/ftp/gcrypt/npth</a>
sqlite	3280000	<a href="https://www.sqlite.org/2019">https://www.sqlite.org/2019</a>
gssdp	1.0.2	<a href="http://ftp.gnome.org/pub/gnome/sources/gssdp/1.0">http://ftp.gnome.org/pub/gnome/sources/gssdp/1.0</a>
libsoup	2.62.3	<a href="http://ftp.gnome.org/pub/gnome/sources/libsoup/2.62">http://ftp.gnome.org/pub/gnome/sources/libsoup/2.62</a>
gst1-libav	1.14.4	<a href="https://gstreamer.freedesktop.org/src/gst-libav">https://gstreamer.freedesktop.org/src/gst-libav</a>
gst1-plugins-base	1.14.4	<a href="https://gstreamer.freedesktop.org/src/gst-plugins-base">https://gstreamer.freedesktop.org/src/gst-plugins-base</a>
gstreamer1	1.14.4	<a href="https://gstreamer.freedesktop.org/src/gstreamer">https://gstreamer.freedesktop.org/src/gstreamer</a>
gst1-plugins-bad	1.14.4	<a href="https://gstreamer.freedesktop.org/src/gst-plugins-bad">https://gstreamer.freedesktop.org/src/gst-plugins-bad</a>
wayland-protocols	1.17	<a href="http://wayland.freedesktop.org/releases">http://wayland.freedesktop.org/releases</a>
gst1-plugins-good	1.14.4	<a href="https://gstreamer.freedesktop.org/src/gst-plugins-good">https://gstreamer.freedesktop.org/src/gst-plugins-good</a>
libv4l	1.16.3	<a href="https://linuxtv.org/downloads/v4l-utils">https://linuxtv.org/downloads/v4l-utils</a>
qt5base	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
icu	60.2	<a href="http://download.icu-project.org/files/icu4c/60.2">http://download.icu-project.org/files/icu4c/60.2</a>
libinput	1.12.5	<a href="http://www.freedesktop.org/software/libinput">http://www.freedesktop.org/software/libinput</a>
libevdev	1.6.0	<a href="http://www.freedesktop.org/software/libevdev">http://www.freedesktop.org/software/libevdev</a>
mtdev	1.1.4	<a href="http://bitmath.org/code/mtdev">http://bitmath.org/code/mtdev</a>
pcre2	10.32	<a href="https://ftp.pcre.org/pub/pcre">https://ftp.pcre.org/pub/pcre</a>
gst1-vaapi	1.14.4	<a href="https://gstreamer.freedesktop.org/src/gstreamer-vaapi">https://gstreamer.freedesktop.org/src/gstreamer-vaapi</a>
htop	2.2.0	<a href="http://hisham.hm/htop/releases/2.2.0">http://hisham.hm/htop/releases/2.2.0</a>
hwdata	v0.308	<a href="https://github.com/vcrhonek/hwdata/archive/v0.308">https://github.com/vcrhonek/hwdata/archive/v0.308</a>



パッケージ	バージョン	ソース サイト
input-event-daemon	v0.1.3	<a href="https://github.com/gandro/input-event-daemon/archive/v0.1.3">https://github.com/gandro/input-event-daemon/archive/v0.1.3</a>
iperf3	3.6	<a href="https://downloads.es.net/pub/iperf">https://downloads.es.net/pub/iperf</a>
iw	4.14	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/software/network/iw">https://cdn.kernel.org/pub/software/network/iw</a>
jansson	2.12	<a href="http://www.digip.org/jansson/releases">http://www.digip.org/jansson/releases</a>
jose	10	<a href="https://github.com/latchset/jose/releases/download/v10">https://github.com/latchset/jose/releases/download/v10</a>
jsoncpp	1.8.4	<a href="https://github.com/open-source-parsers/jsoncpp/archive/1.8.4">https://github.com/open-source-parsers/jsoncpp/archive/1.8.4</a>
libarchive	3.3.3	<a href="http://www.libarchive.org/downloads">http://www.libarchive.org/downloads</a>
libconfig	v1.7.2	<a href="https://github.com/hyperrealm/libconfig/archive/v1.7.2">https://github.com/hyperrealm/libconfig/archive/v1.7.2</a>
libcurl	7.65.3	<a href="https://curl.haxx.se/download">https://curl.haxx.se/download</a>
libestr	0.1.10	<a href="http://libestr.adiscon.com/files/download">http://libestr.adiscon.com/files/download</a>
libfastjson	v0.99.8	<a href="https://github.com/rsyslog/libfastjson/archive/v0.99.8">https://github.com/rsyslog/libfastjson/archive/v0.99.8</a>
libhttpparser	v2.9.0	<a href="https://github.com/nodejs/http-parser/archive/v2.9.0">https://github.com/nodejs/http-parser/archive/v2.9.0</a>
liblogging	1.0.6	<a href="http://download.rsyslog.com/liblogging">http://download.rsyslog.com/liblogging</a>
libnspr	4.20	<a href="https://ftp.mozilla.org/pub/mozilla.org/nspr/releases/v4.20/src">https://ftp.mozilla.org/pub/mozilla.org/nspr/releases/v4.20/src</a>
libnss	3.42.1	<a href="https://ftp.mozilla.org/pub/mozilla.org/security/nss/releases/NSS_3_42_1_RTM/src">https://ftp.mozilla.org/pub/mozilla.org/security/nss/releases/NSS_3_42_1_RTM/src</a>
libopusenc	0.2.1	<a href="https://downloads.xiph.org/releases/opus">https://downloads.xiph.org/releases/opus</a>
libpcap	1.9.0	<a href="http://www.tcpdump.org/release">http://www.tcpdump.org/release</a>
libqrencode	4.0.0	<a href="http://fukuchi.org/works/qrencode">http://fukuchi.org/works/qrencode</a>
libsha1	0.3	<a href="https://github.com/dottedmag/libsha1/archive/0.3">https://github.com/dottedmag/libsha1/archive/0.3</a>
libtool	2.4.6	<a href="http://ftpmirror.gnu.org/libtool">http://ftpmirror.gnu.org/libtool</a>
libuv	v1.25.0	<a href="https://github.com/libuv/libuv/archive/v1.25.0">https://github.com/libuv/libuv/archive/v1.25.0</a>
libxkbcommon	0.8.2	<a href="http://xkbcommon.org/download">http://xkbcommon.org/download</a>
libyaml	0.2.1	<a href="http://pyyaml.org/download/libyaml">http://pyyaml.org/download/libyaml</a>
libzip	1.5.1	<a href="http://www.nih.at/libzip">http://www.nih.at/libzip</a>
lighttpd	1.4.53	<a href="http://download.lighttpd.net/lighttpd/releases-1.4.x">http://download.lighttpd.net/lighttpd/releases-1.4.x</a>
logrotate	3.13.0	<a href="https://github.com/logrotate/logrotate/archive/3.13.0">https://github.com/logrotate/logrotate/archive/3.13.0</a>
memtester	4.3.0	<a href="http://pyropus.ca/software/memtester/old-versions">http://pyropus.ca/software/memtester/old-versions</a>
monit	5.25.3	<a href="http://mmonit.com/monit/dist">http://mmonit.com/monit/dist</a>
netsnmp	5.8	<a href="https://downloads.sourceforge.net/project/net-snmp/net-snmp/5.8">https://downloads.sourceforge.net/project/net-snmp/net-snmp/5.8</a>
nodejs	8.15.1	<a href="http://nodejs.org/dist/v8.15.1">http://nodejs.org/dist/v8.15.1</a>
opkg	0.3.6	<a href="http://downloads.yoctoproject.org/releases/opkg">http://downloads.yoctoproject.org/releases/opkg</a>
opus-tools	0.2	<a href="https://downloads.xiph.org/releases/opus">https://downloads.xiph.org/releases/opus</a>
opusfile	0.11	<a href="https://downloads.xiph.org/releases/opus">https://downloads.xiph.org/releases/opus</a>

パッケージ	バージョン	ソース サイト
php	7.3.9	<a href="http://www.php.net/distributions">http://www.php.net/distributions</a>
portaudio	v190600_20161030	<a href="http://www.portaudio.com/archives">http://www.portaudio.com/archives</a>
powertop	2.9	<a href="https://01.org/sites/default/files/downloads/powertop">https://01.org/sites/default/files/downloads/powertop</a>
protobuf	v2.6.1	<a href="https://github.com/google/protobuf/archive/v2.6.1">https://github.com/google/protobuf/archive/v2.6.1</a>
python-pyyaml	4.2b4	<a href="https://files.pythonhosted.org/packages/a8/c6/a8d1555e795dbd0375c3c93b576ca13bbf139db51ea604afa19a2c35fc03">https://files.pythonhosted.org/packages/a8/c6/a8d1555e795dbd0375c3c93b576ca13bbf139db51ea604afa19a2c35fc03</a>
python-serial	3.4	<a href="https://files.pythonhosted.org/packages/cc/74/11b04703ec416717b247d789103277269d567db575d2fd88f25d9767fe3d">https://files.pythonhosted.org/packages/cc/74/11b04703ec416717b247d789103277269d567db575d2fd88f25d9767fe3d</a>
qt5declarative	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5xmlpatterns	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5graphical-effects	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5imageformats	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5multimedia	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5quickcontrols	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5quickcontrols2	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5serialport	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5svg	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5tools	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5webchannel	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5websockets	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
qt5webengine	5.12.4	<a href="https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules">https://download.qt.io/archive/qt/5.12/5.12.4/submodules</a>
webp	1.0.1	<a href="http://downloads.webmproject.org/releases/webp">http://downloads.webmproject.org/releases/webp</a>
ramspeed	2.6.0	<a href="http://www.alasir.com/software/ramspeed">http://www.alasir.com/software/ramspeed</a>
rsync	3.1.3	<a href="http://rsync.samba.org/ftp/rsync/src">http://rsync.samba.org/ftp/rsync/src</a>
rsyslog	8.22.0	<a href="http://rsyslog.com/files/download/rsyslog">http://rsyslog.com/files/download/rsyslog</a>
strace	4.26	<a href="https://strace.io/files/4.26">https://strace.io/files/4.26</a>
tcpdump	4.9.2	<a href="http://www.tcpdump.org/release">http://www.tcpdump.org/release</a>
tpm-tools	1.3.9.1	<a href="http://downloads.sourceforge.net/project/trousers/tpm-tools/1.3.9.1">http://downloads.sourceforge.net/project/trousers/tpm-tools/1.3.9.1</a>
trousers	0.3.14	<a href="http://downloads.sourceforge.net/project/trousers/trousers/0.3.14">http://downloads.sourceforge.net/project/trousers/trousers/0.3.14</a>
tzdata	2018e	<a href="http://www.iana.org/time-zones/repository/releases">http://www.iana.org/time-zones/repository/releases</a>

パッケージ	バージョン	ソース サイト
weston	5.0.0	<a href="http://wayland.freedesktop.org/releases">http://wayland.freedesktop.org/releases</a>
wireless-regdb	2019.06.03	<a href="https://cdn.kernel.org/pub/software/network/wireless-regdb">https://cdn.kernel.org/pub/software/network/wireless-regdb</a>
wireless_tools	30.pre9	<a href="https://hewlettpackard.github.io/wireless-tools">https://hewlettpackard.github.io/wireless-tools</a>
xkeyboard-config	2.23.1	<a href="http://www.x.org/releases/individual/data/xkeyboard-config">http://www.x.org/releases/individual/data/xkeyboard-config</a>
zip	30	<a href="ftp://ftp.info-zip.org/pub/infozip/src">ftp://ftp.info-zip.org/pub/infozip/src</a>
splashutils	1.5.4.4	<a href="http://dev.gentoo.org/~spock/projects/gensplash/archive">http://dev.gentoo.org/~spock/projects/gensplash/archive</a>
libresample	0.1.3	<a href="ftp://ftp.ubuntu.com/ubuntu/pool/universe/libr/libresample">ftp://ftp.ubuntu.com/ubuntu/pool/universe/libr/libresample</a>
ta-arm-eabi	5_4-2016q3-20160926	<a href="https://launchpad.net/gcc-arm-embedded/5.0/5-2016-q3-update/+download">https://launchpad.net/gcc-arm-embedded/5.0/5-2016-q3-update/+download</a>
alsa-plugins	1.1.1	<a href="ftp://ftp.alsa-project.org/pub/plugins">ftp://ftp.alsa-project.org/pub/plugins</a>
arphic-uming-fonts	20080216	<a href="http://archive.ubuntu.com/ubuntu/pool/main/t/ttf-arphic-uming">http://archive.ubuntu.com/ubuntu/pool/main/t/ttf-arphic-uming</a>
dejavu-fonts	2.34	<a href="http://downloads.sourceforge.net/project/dejavu/dejavu/2.34">http://downloads.sourceforge.net/project/dejavu/dejavu/2.34</a>
sazanami-fonts	20040629	<a href="http://sourceforge.jp/projects/efont/downloads/10087">http://sourceforge.jp/projects/efont/downloads/10087</a>
unfonts	1.0	<a href="http://kldp.net/frs/download.php/1425">http://kldp.net/frs/download.php/1425</a>
liblockfile	1.09	<a href="http://snapshot.debian.org/archive/debian/20151026T153523Z/pool/main/libl/liblockfile">http://snapshot.debian.org/archive/debian/20151026T153523Z/pool/main/libl/liblockfile</a>
lockfile-progs	0.1.17	<a href="http://snapshot.debian.org/archive/debian/20141023T043132Z/pool/main/l/lockfile-progs">http://snapshot.debian.org/archive/debian/20141023T043132Z/pool/main/l/lockfile-progs</a>
mmc-utils	37c86e60-c0442fef570-b75cd81aeb1d-b4d0cbafd	<a href="git://git.kernel.org/pub/scm/linux/kernel/git/cjb/mmc-utils.git">git://git.kernel.org/pub/scm/linux/kernel/git/cjb/mmc-utils.git</a>
usbmount	0.0.22	<a href="http://snapshot.debian.org/archive/debian/20141023T043132Z/pool/main/u/usbmount">http://snapshot.debian.org/archive/debian/20141023T043132Z/pool/main/u/usbmount</a>
json	1.8.4-cs2	<a href="http://json.org/">http://json.org/</a>
flexnet	1.0.5	<a href="https://www.flexerasoftware.com/monetize/products/flexnet-licensing.html">https://www.flexerasoftware.com/monetize/products/flexnet-licensing.html</a>
qca6174a-30	4.5.25.38	<a href="https://source.codeaurora.org/external/wlan/qcaclid-2.0/">https://source.codeaurora.org/external/wlan/qcaclid-2.0/</a>
wpa_supplicant	a5ffe45908ca-e43925bb5c-b13d98251-c802b4717	<a href="http://w1.fi/hostap.git">http://w1.fi/hostap.git</a>
wpa_passphrase	a5ffe45908ca-e43925bb5c-b13d98251-c802b4717	<a href="http://w1.fi/hostap.git">http://w1.fi/hostap.git</a>
wpa_cli	a5ffe45908ca-e43925bb5c-b13d98251-c802b4717	<a href="http://w1.fi/hostap.git">http://w1.fi/hostap.git</a>

パッケージ	バージョン	ソース サイト
hostapd	a5ffe45908ca-e43925bb5c-b13d98251-c802b4717	<a href="http://w1.fi/hostap.git">http://w1.fi/hostap.git</a>
hostapd_cli	a5ffe45908ca-e43925bb5c-b13d98251-c802b4717	<a href="http://w1.fi/hostap.git">http://w1.fi/hostap.git</a>
xz	5.1.1	<a href="https://tukaani.org/xz">https://tukaani.org/xz</a>
libsrp	2.1.2	<a href="https://github.com/secure-remote-password/stanford-srp/tree/master/libsrp">https://github.com/secure-remote-password/stanford-srp/tree/master/libsrp</a>
libfdk-aac	0.1.4	<a href="https://github.com/mstorsjo/fdk-aac">https://github.com/mstorsjo/fdk-aac</a>
libalac	4	<a href="https://github.com/macOSforge/alac">https://github.com/macOSforge/alac</a>
mDNSResponder	878.30.4	<a href="https://opensource.apple.com/source/mDNSResponder">https://opensource.apple.com/source/mDNSResponder</a>
nlohmann::json	3.7.3	<a href="https://github.com/nlohmann/json">https://github.com/nlohmann/json</a>
azure-iot-c-sdk	2019-10-07	<a href="https://github.com/Azure/azure-iot-sdk-c">https://github.com/Azure/azure-iot-sdk-c</a>
angular	7.2.0	<a href="https://github.com/angular/angular.git">https://github.com/angular/angular.git</a>
bcrypt	3.0.6	<a href="https://github.com/kelektiv/node.bcrypt.js">https://github.com/kelektiv/node.bcrypt.js</a>
bcryptjs	2.4.3	<a href="https://github.com/dcodeIO/bcrypt.js">https://github.com/dcodeIO/bcrypt.js</a>
body-parser	1.18.3	<a href="https://github.com/expressjs/body-parser">https://github.com/expressjs/body-parser</a>
bootstrap	4.3.1	<a href="https://getbootstrap.com/">https://getbootstrap.com/</a>
bunyan	1.8.12	<a href="https://github.com/trentm/node-bunyan">https://github.com/trentm/node-bunyan</a>
bunyan-prettystream	0.1.3	<a href="https://github.com/trentm/node-bunyan">https://github.com/trentm/node-bunyan</a>
bunyan-syslog	0.3.2	<a href="https://github.com/trentm/node-bunyan">https://github.com/trentm/node-bunyan</a>
chromedriver	77.0.0	<a href="https://github.com/giggio/node-chromedriver">https://github.com/giggio/node-chromedriver</a>
Core-js	2.5.4	<a href="https://github.com/zloirock/core-js">https://github.com/zloirock/core-js</a>
cors	2.8.5	<a href="https://github.com/expressjs/cors">https://github.com/expressjs/cors</a>
dbus-native	0.4.0	<a href="https://github.com/sidorares/dbus-native">https://github.com/sidorares/dbus-native</a>
express	4.16.4	<a href="https://github.com/expressjs/express">https://github.com/expressjs/express</a>
generate-password	1.4.2	<a href="https://github.com/brendanashworth/generate-password">https://github.com/brendanashworth/generate-password</a>
inversify	5.0.1	<a href="http://inversify.io/">http://inversify.io/</a>
jquery	3.4.1	<a href="https://jquery.com/">https://jquery.com/</a>
js-yaml	3.12.0	<a href="https://github.com/nodeca/js-yaml">https://github.com/nodeca/js-yaml</a>
moment	2.24.0	<a href="http://momentjs.com/">http://momentjs.com/</a>

パッケージ	バージョン	ソース サイト
morgan	1.9.1	<a href="https://github.com/expressjs/morgan">https://github.com/expressjs/morgan</a>
multer	1.4.1	<a href="https://github.com/expressjs/multer">https://github.com/expressjs/multer</a>
ngx-cookie-service	2.2.0	<a href="https://github.com/7leads/ngx-cookie-service">https://github.com/7leads/ngx-cookie-service</a>
npm	6.10.2	<a href="https://docs.npmjs.com">https://docs.npmjs.com</a>
passport	0.4.0	<a href="http://github.com/jaredhanson/passport">http://github.com/jaredhanson/passport</a>
passport-http	0.3.0	<a href="http://github.com/jaredhanson/passport-http">http://github.com/jaredhanson/passport-http</a>
popper.js	1.15.0	<a href="https://popper.js.org">https://popper.js.org</a>
reflect-metadata	0.1.13	<a href="http://rbuckton.github.io/reflect-metadata">http://rbuckton.github.io/reflect-metadata</a>
rxjs	6.3.3	<a href="https://github.com/ReactiveX/RxJS">https://github.com/ReactiveX/RxJS</a>
swagger-parser	6.0.5	<a href="https://github.com/APIDevTools/swagger-parser">https://github.com/APIDevTools/swagger-parser</a>
swagger-ui-express	4.0.1	<a href="https://github.com/scottie1984/swagger-ui-express">https://github.com/scottie1984/swagger-ui-express</a>
tslib	1.9.0	<a href="http://typescrip-lang.org">http://typescrip-lang.org</a>
ws	7.1.1	<a href="https://github.com/websockets/ws">https://github.com/websockets/ws</a>
zone.js	0.8.26	<a href="https://github.com/angular/zone.js">https://github.com/angular/zone.js</a>
uboot	f44ca27357563-e9ed43f1ff76d3-bd8dd14f4747e	<a href="https://github.com/rockchip-linux/u-boot">https://github.com/rockchip-linux/u-boot</a>
linux	805e544f539-b96d-e96388960173-bb673dab5a9dd	<a href="https://github.com/rockchip-linux/kernel">https://github.com/rockchip-linux/kernel</a>
avb-vbmeta	21e95266704-e572ced1c633-bbc4aea9f42afa0a5	<a href="https://android.googlesource.com/platform/external/avb/+21e95266704e572ced1c633bbc4aea9f42afa0a5/avbtool">https://android.googlesource.com/platform/external/avb/+21e95266704e572ced1c633bbc4aea9f42afa0a5/avbtool</a>
bootcontrol	b18c9afdb7d02-e1249cee5c-b430dc9f15a3c-cc27	<a href="https://github.com/rockchip-linux/avb/tree/master/boot_control">https://github.com/rockchip-linux/avb/tree/master/boot_control</a>
libavb	7617e69a524a-cc1a50a8a98-b257d1374ea6f-e4a4	<a href="https://github.com/rockchip-linux/avb/tree/master/libavb">https://github.com/rockchip-linux/avb/tree/master/libavb</a>
libavb-ab	7617e69a524a-cc1a50a8a98-b257d1374ea6f-e4a4	<a href="https://github.com/rockchip-linux/avb/tree/master/libavb_ab">https://github.com/rockchip-linux/avb/tree/master/libavb_ab</a>
libavb-user	7617e69a524a-cc1a50a8a98-b257d1374ea6f-e4a4	<a href="https://github.com/rockchip-linux/avb/tree/master/libavb_user">https://github.com/rockchip-linux/avb/tree/master/libavb_user</a>

パッケージ	バージョン	ソース サイト
rockchip-linux-bin	d6676eb02c8-a1b4966df7d8-c4bb203ea25fc98b2	<a href="https://github.com/rockchip-linux/bin">https://github.com/rockchip-linux/bin</a>
rockchip-tee-user	1e3bdb582-c52707d71e5c-be29ca1064d7-c04b696	<a href="https://github.com/rockchip-linux/rk_tee_user">https://github.com/rockchip-linux/rk_tee_user</a>
rockchip-binary	04e55089bb4b-bade7c50d9-b54b5a1cf-a70771cd6	<a href="https://github.com/rockchip-linux/rkbin">https://github.com/rockchip-linux/rkbin</a>
rockchip-gstreamer1	59c3bdd06-a22844957fe20-f47c998bb8255-bedd2	<a href="https://github.com/rockchip-linux/gstreamer-rockchip">https://github.com/rockchip-linux/gstreamer-rockchip</a>
rockchip-mpp	862b0d89363-e18e45e5db5c-c6c316a173c5-ac2e7	<a href="https://github.com/rockchip-linux/mpp">https://github.com/rockchip-linux/mpp</a>
rockchip-libmali	f226-e982386287a4-df669e2832d9d-dd613d4153b	<a href="https://github.com/rockchip-linux/libmali">https://github.com/rockchip-linux/libmali</a>
rockchip-linux-rga	72e7764a9f-e358e6ad50e-b1b21176c-c95802c7fb	<a href="https://github.com/rockchip-linux/linux-rga">https://github.com/rockchip-linux/linux-rga</a>
NXP-SDK	2.5.0	<a href="https://www.nxp.com/support/developer-resources/software-development-tools/mcuxpresso-software-and-tools/mcuxpresso-software-development-kit-sdk:MCUXpresso-SDK?tab=Design_Tools_Tab">https://www.nxp.com/support/developer-resources/software-development-tools/mcuxpresso-software-and-tools/mcuxpresso-software-development-kit-sdk:MCUXpresso-SDK?tab=Design_Tools_Tab</a>
unlz4	-	<a href="https://github.com/lz4/lz4/blob/dev/lib/lz4.h">https://github.com/lz4/lz4/blob/dev/lib/lz4.h</a>
ring-buff	-	<a href="https://code.google.com/archive/p/ring-buff">https://code.google.com/archive/p/ring-buff</a>
wpa_supplicant	2.6	<a href="http://w1.fi/wpa_supplicant">http://w1.fi/wpa_supplicant</a>

## EN55032-CISPR32 クラス B ITE (情報技術装置)

これは、クラス B の製品です。国内環境では、本製品は無線干渉を引き起こす場合があります、ユーザーは適切な手段を講じる必要があります。

本装置がラジオまたはテレビ受信を妨害している場合、次の中から 1 つ以上の対策をとることができます。

- ラジオまたはテレビの受信アンテナの向きを変える。
- 受信機に対する本装置の位置を変える。
- 本装置を別のコンセントに接続し、本装置と受信機が別の分岐回路上になるようにする。
- ケーブルコネクタをネジで本装置に取り付ける。

## アメリカ連邦通信委員会 (FCC) の干渉に関する宣言

製品の準拠を管轄する当事者による明示的な承認を受けずに変更または修正を行った場合、ユーザーはこの装置を操作する権利を失う場合があるので注意してください。

本機器はテスト済みで、FCC 法規の Part 15 に該当する Class B デジタル装置の制限に準拠していることが分かっています。これらの制限は、住居での設置において生じる妨害からの適切な保護を目的として確立されました。本装置は無線周波エネルギーを発生、使用、放射する可能性があり、手順に従わないで使用すると、無線のコミュニケーションに対する妨害を起こすことがあります。ただし、特定の設置において妨害が起こらないという保証はありません。

機器をオン・オフに切り替えることにより、本装置がラジオまたはテレビの電波受信を妨害していることが確認された場合は、次の中から 1 つ以上の対策をとることをお勧めします。

- 受信アンテナの配置を変えるか、または移動する。
- 装置と受信機の間隔を広げる。
- 受信機が接続されているサーキットのコンセントと別のコンセントに装置をつなぐ。
- 販売店またはしかるべき経験を有するラジオ/テレビ技術者に相談する。

また、FCC が作成したブックレット「How to Identify and Resolve Radio-TV Interference Problems (ラジオ・テレビへの干渉問題を特定および解決する方法)」も参考になります。このブックレットは、U.S. Government Printing Office, Washington D.C. 20402 U.S.A. から入手できます。

本装置の製造元または登録者による明示的な承認を受けずに変更または修正を行った場合、アメリカ連邦通信委員会の規制に基づき、ユーザーは本装置を操作する権利を失う場合があります。

FCC 規制に準拠するには、本装置でシールドケーブルを使用する必要があります。許可されていない装置またはシールドが付いていないケーブルを使って操作すると、ラジオおよびテレビ受信の干渉を起こす原因となる可能性があります。

**FCC RF 放射線被ばくに関する宣言：**この装置は 802.11a モードで動作可能です。5.15 - 5.25 GHz の周波数範囲で動作する 802.11a 装置については、アメリカ国内の Mobile Satellite Services (MSS) への有害な干渉を削減するために屋内での動作が制限されます。802.11a モード (5.15 - 5.25 GHz バンド) で装置を動作することができる WiFi Access Points は、屋内での使用に限り最適化されます。WiFi ネットワークがこのモードで動作できる場合は、WiFi の屋内での使用を制限し、連邦規則に違反せず Mobile Satellite Services を保護してください。

1. このトランスミッターは、他のアンテナまたはトランスミッターと同じ場所に置いたり、併用したりしないでください。
2. この装置は、管理されていない環境に対して規定された RF 放射線被ばく限度に準拠しています。この装置は、放射物と人体の間隔を最低 20 cm 離して設置および操作してください。

Base Unit FCC ID: 2AAED-R9861511

Button FCC ID (モデル R9861600D01C): 2AAED-R9861600D01

ClickShare Button 2AAED-R9861600D01 は検査され、FCC RF 放射ガイドラインに準拠しています。報告されている最大 SAR 値は 1.19 W/kg です。

ClickShare Button 2AAED-R9861600D01 は、放射物と人体の間隔を最低 5 mm 離して設置および操作してください。

## カナダ産業省 (IC) 通知

この装置はカナダ産業省のライセンス免除 RSS 規格に準拠しています。操作は次の 2 つの条件に基づきます：(1) この装置は干渉の原因となってはならない。(2) この装置は望ましくない動作の原因となる干渉を含み、受信する干渉を許容しなければならない。

## Radio Frequency (RF) 放射情報

Barco ワイヤレス装置の放射出力電源は、カナダ産業省 (IC) ラジオ周波数放射制限以下です。Barco ワイヤレス装置は、通常の操作中に人が接触する可能性を最小限にする方法で使用する必要があります。

注意：高周波照射への暴露。

1. カナダの RF 曝露コンプライアンス要件を満たすために、このデバイスとそのアンテナは、他のアンテナまたは送信機と一緒に配置したり、動作させたりしないでください。
2. RSS 102 RF 曝露コンプライアンス要件を満たすために、このデバイスのアンテナとすべての人との間に少なくとも 20 cm の離隔距離を維持する必要があります。

Base Unit IC: IC: 21559-R9861511

Button IC (モデル R9861600D01C): 21559-R9861600D01

## IC アンテナについての声明文

カナダ産業省の規則の下、このラジオ送信機は、カナダ産業省によって送信者に対して承認されているタイプおよび最大(または少ない)利得のアンテナを使用した場合に限って操作できます。他人へのラジオ干渉の可能性を少なくするため、アンテナのタイプとその利得が、等価等方放射電力 (e.i.r.p.) が問題のない通信の必要値を超えないように選択する必要があります。

このラジオ送信機 23575-R9861511 は、最大許容利得および示された各アンテナタイプで求められるアンテナインピーダンスで、以下にリストしたアンテナタイプで操作することがカナダ産業省によって承認されています。アンテナタイプはこのリストには含まれず、そのタイプに示された最大利得を超える利得を持つことは、この装置の使用では厳格に禁止されています。

### 屋内使用のみの警告

5,150 ~ 5,250Mhz の帯域での操作は、同一チャンネルの移動体衛星システムへの有害な干渉の可能性を低減するために屋内使用のみとしてください。

### 認証情報 ( SAR )

このデバイスは、カナダ産業省によって制定された電波への暴露の要件を満たすようにも設計されています。

カナダで採用されている SAR 制限は、組織 1 グラムに対して平均で 1.6 W/kg です。このデバイスタイプについて IC に報告される最高の SAR 値は、この制限に適合しています。

携帯型の曝露条件で使用する場合、このデバイスタイプの IC に報告される最高の SAR 値は 1.15 W/kg です。

## Informations concernant l'exposition aux fréquences radio (RF)

La puissance de sortie émise par l'appareil de sans fil Barco est inférieure à la limite d'exposition aux fréquences radio d'Industry Canada (IC). Utilisez l'appareil de sans fil Barco de façon à minimiser les contacts humains lors du fonctionnement normal.

### Avertissement: L'exposition aux rayonnements fréquences radio

1. Pour se conformer aux exigences de conformité RF canadienne l'exposition, cet appareil et son antenne ne doivent pas être co-localisés ou fonctionnant en conjonction avec une autre antenne ou transmetteur.
2. Pour se conformer aux exigences de conformité CNR 102 RF exposition, une distance de séparation d'au moins 20 cm doit être maintenue entre l'antenne de cet appareil et toutes les personnes.

IC Unité de Base: 23575-R9861511

IC Button (model R9861600D01C): 21559-R9861600D01

## Déclaration d'antenne d'Industrie Canada (IC)

Conformément à la réglementation d'Industrie Canada, le présent émetteur radio peut fonctionner avec une antenne d'un type et d'un gain maximal (ou inférieur) approuvé pour l'émetteur par Industrie Canada. Dans le but de réduire les risques de brouillage radioélectrique à l'intention des autres utilisateurs, il faut choisir le type d'antenne et son gain de sorte que la puissance isotrope rayonnée équivalente (p.i.r.e.) ne dépasse pas l'intensité nécessaire à l'établissement d'une communication satisfaisante.

Le présent émetteur radio 23575-R9861511 a été approuvé par Industrie Canada pour fonctionner avec les types d'antenne énumérés ci-dessous et ayant un gain admissible maximal et l'impédance requise pour chaque type d'antenne. Les types d'antenne non inclus dans cette liste, ou dont le gain est supérieur au gain maximal indiqué, sont strictement interdits pour l'exploitation de l'émetteur.

### Utilisation à l'intérieur seulement

La bande 5 150-5 250 MHz est réservés uniquement pour une utilisation à l'intérieur afin de réduire les risques de brouillage préjudiciable aux systèmes de satellites mobiles utilisant les mêmes canaux.

## Informations de certification (DAS)

Cet appareil est également conçu pour satisfaire aux exigences concernant l'exposition aux ondes radioélectriques établies par Industrie Canada.



Le seuil du DAS adopté par le Canada est de 1.6 W/kg pour 1g de tissu. La plus grande valeur de DAS signalée à IC pour ce type d'appareil ne dépasse pas ce seuil.

La valeur maximale de DAS signalée à IC pour ce type d'appareil lors du test dans des conditions d'exposition portative est de 1.15 W/kg.



# 「設置ガイド」のイ ントロダクション

# 1

1.1	説明書 .....	20
1.2	記号およびフォント .....	20

## 1.1 説明書

### 説明書について

この設置ガイドは、会議室に CX-20 を設置する方法について説明しています。また、すべてを動作可能にする方法についても説明します。CX-20 の設定方法についても詳しく説明します。

### 入手可能なシステム説明書

設置マニュアルの次に、ユーザーガイド、安全ガイド、API ガイドおよびサービスマニュアルが、Barco の Web サイト [www.barco.com/clickshare](http://www.barco.com/clickshare) で提供されています。

「安全ガイド」の印刷物は、ご購入時の CX-20 の箱に同梱されています。








CX-20 のバージョンによって、本マニュアルに記載される図の一部が異なる場合がありますが、機能には一切影響ありません。

## 1.2 記号およびフォント

### 記号の概要

マニュアルでは次のアイコンが使用されます:

	注意
	警告
	情報、用語定義。用語についての一般情報
	メモ: では記載事項についての追加的な情報を提供します。
	ヒント: では記載事項についての追加的なアドバイスを提供します。

### フォントの概要

- ボタンは太字で表記します (例: **OK**)。
- メニュー項目は、斜体で表記します。
- ステップに関連する注記、ヒント、警告、注意は、斜体で表記します。
- 手順に関連する注記、ヒント、警告、注意は、対応するアイコンに続く 2 行の間に太字で表記します。

# CX-20 の仕様

# 2

## 2.1 CX-20 について

### CX-20 セット

Conferencing Button を使用すると、数秒で、会議室のカメラ、マイク、サウンドバー、その他の AV 周辺機器に自動的に接続され、より臨場感のある会議体験が得られます。すべてがノート PC の一部になります。

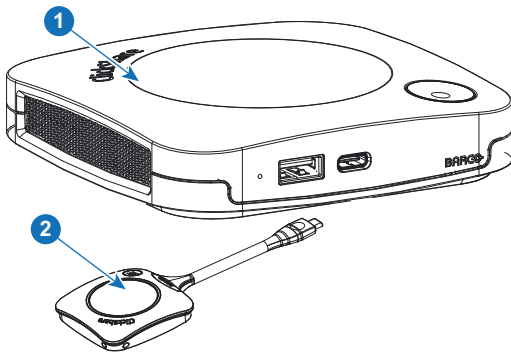
この CX-20 は、プレゼンターがプレゼンテーションをすぐにスクリーンに表示できるようにするだけでなく、会議の他の出席者もより積極的に参加できるようにします。その結果、会議の効率性が向上し、より優れた意思決定をすることが可能です。

このセットは、ノート PC、デスクトップ タブレット、またはスマートフォン OS と互換性があります。あらゆる会議プラットフォームで動作し、Conferencing Button を使用すると、ほとんどのブランドの周辺機器（スピーカー、マイク、Web カメラ、サウンドバー）と即座に接続できます。

現在、市場には 6 種類のセットがあります。WiFi 規制により、各セットはそれぞれ特定の地域で販売されています。

### コンポーネント CX-20 セット

スタンダード CX-20 セットには、Base Unit および 1 コンファレンシング Button が含まれています。製品の購入場所によって、Base Unit のソフトウェアは異なります。必要に応じて、追加の Conferencing Button および Button を保管するためのトレイを購入していただくことも可能です。



画像 2-1

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1 | Base Unit                     |
| 2 | コンファレンシング Button <sup>2</sup> |

### 同梱アクセサリ

製品を購入する国によって、以下の地域別アクセサリも CX-20 の箱に同梱されています。

製品	梱包物	同梱アクセサリ
R9861512xx <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R9861511</li> <li>1x R9861600D01C</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AC クリップ タイプ A、C、G、I の DC アダプター<sup>4</sup></li> <li>壁取り付けシステム</li> <li>印刷された安全マニュアル</li> </ul>
R9861600D01C <sup>5</sup>	1x R9861600D01C <sup>5</sup>	

お客様の国で使用できる適切な地域別アクセサリについては、現地販売代理店にお問い合わせください。

2: さらに Button と呼ばれる  
 3: xx=EU, CN, NA, US, ZH, RW,  
 4: 同梱の AC クリップは地域によって異なる場合があります  
 5: 米国の場合、R9861600D01CUS

## 2.2 CX-20 の仕様

### Base Unit

寸法 (HxWxD)	34 mm x 135 mm x 135 mm
電源	標準 110/220 V AC プラグ
消費電力	動作: 5 ~ 10W、最大 24W
重量	900 gr
オペレーティング・システム	Windows 8/8.1/10。macOS 10.13以降。 Android v9以降 ( ClickShareアプリ ) *。 iOS 12以降 ( ClickShareアプリ ) *。
ビデオ出力	4K UHD (3840*2160) @ 30Hz. HDMI 1.4b
オーディオ出力	USB, HDMI
USB	1 X USB-A、1 X USB-C
ClickShare Buttons	1
ClickShare App	デスクトップとモバイル*
Native protocols	Airplay、Google Cast、Miracast*
ノイズレベル	最大 25dBA @ 0-30°C 最大 30dBA @ 30-40°C
認証プロトコル	WPA2-PSK in stand alone mode WPA2-PSK or IEEE 802.1X using the ClickShare Button in network integration mode
無線伝送プロトコル	IEEE 802.11 a/g/n/ac and IEEE 802.15.1
接続距離	Max. 30m (100 ft) between ClickShare Button and ClickShare Base Unit Frequency band 2.4 GHz and 5 GHz (DFS)
周波数帯域	2.4 GHz および 5 GHz (一部の地域で DFS チャンネル対応)
接続	1x イーサネット LAN 1 Gbit 1x USB Type-C 2.0 (フロント)、1x USB Type A 2.0 (フロント)
適用温度範囲	操作: 0°C から +40°C (+32°F から +104°F) 最大: 35°C (95°F) ただし 3000m 保管: -20°C から +60°C (-4°F から +140°F)
湿度	保管: 0~90%相対湿度、結露なし 動作: 0~85%相対湿度、結露なし
盗難防止システム	ケンジントン ロック
証明書	FCC/CE
Touch screen support & Interactivity	/
Room Dock (peripheral support)	あり
Local view & moderation	ルーム ディスプレイのみのローカルビュー
ネットワーク接続	LAN および Wi-Fi*

Management and reporting	あり
保証	1年間が標準 SmartCare による 5年のカバレッジ
*	* コンフィグレーションによっては、今後のファームウェアアップデートで利用できるようになります。

## コンファレンシング Button

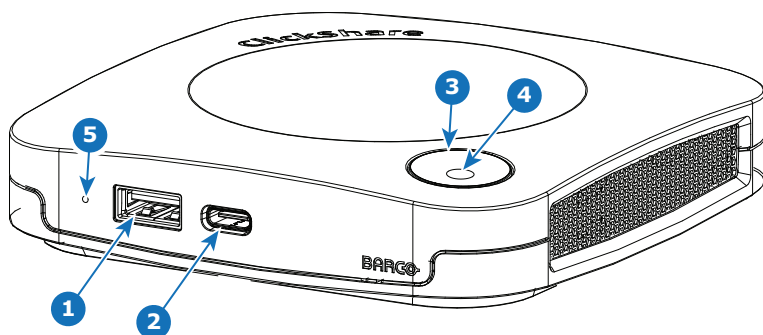
重量	60 グラム - 0.132 ポンド
周波数帯域	2.4 GHZ および 5 GHz
無線伝送プロトコル	IEEE 802.11 a/b/g/n/ac
認証プロトコル	スタンドアロンモードで WPA2-PSK ネットワーク統合モードで WPA2-PSK または IEEE 802.1X
端子	USB-C タイプ
寸法 (HxWxD)	14.6 mm x 59.3 mm x 161.39 mm / 0.57" x 2.354" x 6.354"
消費電力	USB を装備 5V DC 350mA (通常) 500mA (最大)

## 2.3 Base Unit について

### Base Unit 機能

Base Unit は、Button からワイヤレス入力を受信し、会議室のディスプレイのコンテンツおよび Base Unit に接続された周辺機器（スピーカー、マイク、Web カメラ、サウンドバー）をコントロールします。さらに、カメラおよび / またはエコーキャンセリングスピーカーフォンから Button に向けてコンテンツを送信します。

Base Unit は会議室のテーブルの上に置いたり、壁や天井に取り付けたりすることができます。Base Unit の設置方法に関する手順は、「設置ガイド」を参照してください。



画像 2-2

- |   |                            |
|---|----------------------------|
| 1 | USB Type-A ポート ( USB 2.0 ) |
| 2 | USB Type-C ポート ( USB 2.0 ) |
| 3 | ステータス LED リング              |
| 4 | 待機 Button                  |



## USBポート

両方の USB ポート ( USB Type-C™ x1 と USB Type-A x 1 ) は USB カメラまたは USB エコーキャンセリングスピーカーフォンを Base Unit と接続するために使用されます。また、これらのポートは Button をペアリングしたり、両方が XMS 経由で実行されたりしない場合にソフトウェアを更新します。

Base Unit に Button を接続すると、Button は Base Unit とペアリングされます。Base Unit は、Button のソフトウェアおよびファームウェアが最新のものであるかどうかを確認します。最新のものでない場合は、Base Unit がソフトウェアおよび / またはファームウェアをアップデートします。

これらのポートのいずれかに接続するために、コンバーターが必要になる場合があります。

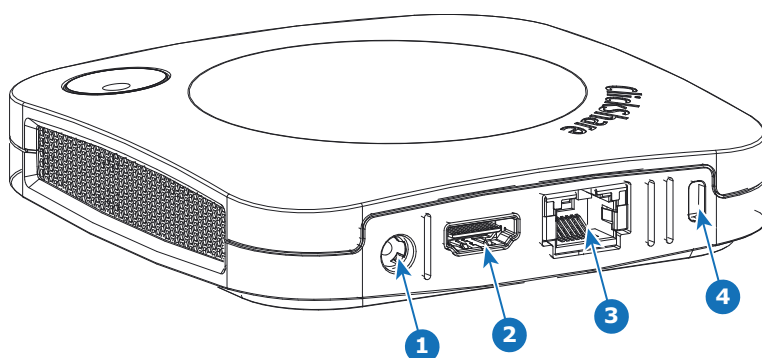
## ステータス LED リング

Base Unit の電源ボタン周辺にある LED リングの色は、システムのステータスを示します。

LED の動作	説明
赤色で点灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>Button からのコンテンツを受信し、ディスプレイにストリーミングしています。</li> <li>Base Unit の起動プロセスの最初のフェーズが進行中です。</li> </ul>
白色で点滅	<ul style="list-style-type: none"> <li>システムが起動中 (第 2 フェーズが進行中) です。</li> <li>Button のペアリングが進行中です。</li> <li>Base Unit のソフトウェアアップデート</li> </ul>
白色でゆっくり点滅	<ul style="list-style-type: none"> <li>ECO スタンバイ モード</li> </ul>
白色で点灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>起動状態 (ディスプレイに起動メッセージ表示) です。</li> <li>Button のペアリングとソフトウェアの更新が完了したら、Base Unit から Button を取り外すことができます。</li> </ul>
赤色で点滅	<ul style="list-style-type: none"> <li>エラーが発生しました。</li> </ul>
消灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディープ スタンバイ/オフ</li> </ul>

## Base Unit の背面レイアウト

接続パネルは、Base Unit の背面にあります。



画像 2-3

- |   |                 |
|---|-----------------|
| 1 | 電源接続            |
| 2 | HDMI 出力         |
| 3 | LAN Ethernet 接続 |
| 4 | Kensington ロック  |

## 機械的固定ポイント

機械的固定ポイントは、Base Unit の底部にあります。

## アンテナ

アンテナは CX-20 に内蔵されています。

## Base Unit の底面レイアウト

Barco の部品番号、リビジョン番号、製造日 (週-年)、および製造番号が記載された製造番号ラベル。  
適用される認可ロゴが記載された製品ラベル。

製品ラベルの記載内容:

- Barco のロゴ
- 製品名
- Barco の部品番号
- 電源定格
- 適用される規格のマーク (CE、CCC、UL など)
- 廃棄規則のマーク
- 製造国

# 紹介

# 3

3.1	環境条件の確認	28
3.2	基本ワークフロー	28

## 3.1 環境条件の確認

### 環境条件の確認

装置の周りに大量のホコリがあるような環境で装置を設置する場合には、装置に清潔な空気が届く前にホコリを取り除くことを強くお勧めします。装置から大量のホコリを避けるまたはブロックする装置または構造が必要です。不可能な場合は、装置を清潔な空気のある環境に再設置することを考慮してください。

装置を害のある環境または汚染された空気から保護するのは、機器の所有者であるお客様の責任です。製造元は、装置が不注意な方法、誤った方法、マニュアルに従わない使用方法で使用された場合は、修理を拒否する権利を保有しています。

### 環境温度条

最高動作温度: +40°C または 40.00°C

最低動作温度: +0°C または 0.00°C

保管温度: -10°C ~ 60°C ( -10.00°C ~ 140°F )

### 湿度条件

保管時: 0 ~ 90% 相対湿度 (結露しないこと)

動作時: 0 ~ 85% 相対湿度 (結露しないこと)

### 環境

ラジエーターや温風ダクトなど発熱源に近い場所や、直射日光、過剰なホコリや湿度の影響を受ける場所に装置を設置しないでください。部屋の熱気は天井に向かって上がることにご注意してください。設置場所近くの温度がこの範囲を超えていないことを確認します。

## 3.2 基本ワークフロー

### CX-20 を使う前に

1. ClickShare コンポーネントおよびアクセサリを箱から取り出します。  
CX-20 の箱の梱包物に関する詳細は、22 ページ、CX-20 について をご参照ください。 を参照してください。
2. 2 つの設置方法のいずれかで Base Unit を会議室に設置します。  
設置手順の詳細は、29 ページ、CX-20 設置 をご参照ください。 を参照してください。
3. Base Unit とディスプレイ 36 ページ、Base Unit へのビデオ信号の接続 をご参照ください。 間のビデオ信号を接続します。
4. いずれかの 37 ページ、カメラ接続 をご参照ください。 がある場合、USB カメラを Base Unit に接続します。
5. Base Unit を主電源に接続します。  
詳しくは、39 ページ、電源接続 をご参照ください。 を参照してください。
6. Base Unit とローカルネットワークをネットワークケーブルで接続します ( Base Unit がインターネットに接続され、アップデートサーバに到達可能であることを確認します )。
7. デバイスをオンラインまたはオフラインで登録します。



CX-20 の使用方法に関する詳細は、「CX-20 ユーザーガイド」を参照してください。このマニュアルは、Barco の Web サイト [www.barco.com/clickshare](http://www.barco.com/clickshare) でダウンロードできます。

# CX-20 設置

# 4

4.1	Base Unit の設置方法	30
4.2	ClickShare 会議システムのインストールに関するガイドライン	30
4.3	テーブル マウント	30
4.4	壁または天井への取り付け	31
4.5	スタンドアロンセットアップ	32
4.6	ネットワーク接続セットアップ	33
4.7	専用ネットワークセットアップ	34
4.8	設備の整った会議室（オーディオのみ、またはカメラのみ）	35
4.9	Base Unit へのビデオ信号の接続	36
4.10	カメラ接続	37
4.11	コンテンツ音声の接続	37
4.12	エコーキャンセルスピーカーフォンオーディオ接続	38
4.13	LAN 接続	38
4.14	電源接続	39
4.15	初めての起動	39
4.16	Base Unit の最初のセットアップ	40
4.17	XMS Cloud への登録	41
4.18	デバイスを登録せずに使用	43
4.19	ClickShare 装置の基本構成	46

## 4.1 Base Unit の設置方法



最適な性能を確保するため、Base Unit はディスプレイの近くに設置し、Base Unit と Button の間に障害物を置かないようにしてください。



Base Unit を金属エンクロージャ内に設置しないでください。

### 機器の設置

Base Unit は、以下の 2 つの方法で会議室に設置できます。

- テーブルマウント
- ウォールマウント
- シーリングマウント

### スタンドアロンまたはネットワーク統合

Base Unit は、スタンドアロンユニットとして使用することも、企業ネットワークに統合することもできます。

- すぐに使用可能
- イーサネットリンクですぐに使用可能

### 会議室のセットアップ

- 会議室の完全なセットアップ
- オーディオのみの会議室のセットアップ
- ビデオのみの会議室のセットアップ

## 4.2 ClickShare 会議システムのインストールに関するガイドライン

### 概要

- Base Unit を最新の状態に保ちます。最適な体験を提供し、システム全体のセキュリティを確保するために、無料アップデートは複数回利用できます。
- Base Unit をネットワークに接続することをお勧めします（有線イーサネット接続または無線接続）。
- 高品質で低遅延のワイヤレス会議には、会議 Button と Base Unit の間の直接接続を使用することをお勧めします。
- 金属製のシエルを取り付けないように、Base Unit を開いた状態で取り付けます。
- 最適なユーザ体験を実現するために、ClickShare および AirPlay や Miracast などのカスタムサービスは、さまざまな方法でプレゼンスと近接検出を実行しています。これらのメカニズムを最大限に活用するには、ClickShare Base Unit を会議室内に設置することを強くお勧めします。このときは、閉じたキャビネットではなく、ディスプレイの近くに設置してください。
- カメラやオーディオデバイスは、必ず USB 経由で Base Unit に接続してください。

## 4.3 テーブル マウント

### 概要

Base Unit を会議室テーブルの上に直接置きます。

Base Unit の総重量は 530 g です。

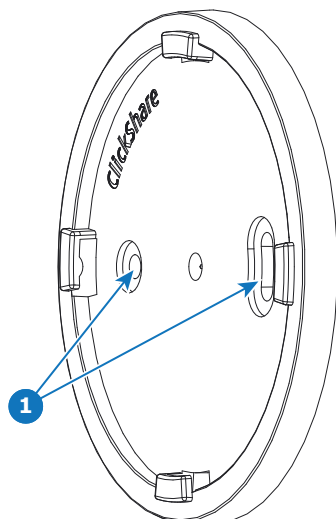
## 4.4 壁または天井への取り付け

### 壁または天井への取り付けについて

壁面または天井に CX-20 を取り付けるには、取り付けベースを使用します。このベースにはキー型のネジ穴があり、ベースを壁や天井に固定したり、粘着性のあるレイヤーを使用したりしてベースを取り付けることができます。デバイスの場所を決定したら、次の手順に従ってデバイスを取り付けます。

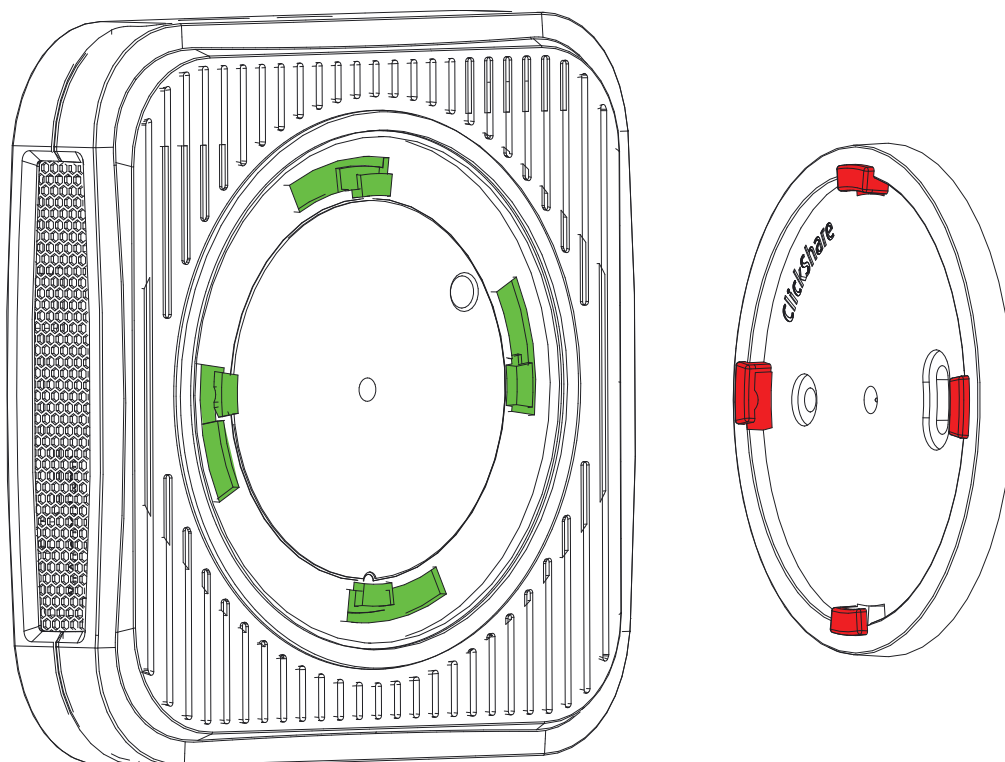
### ネジで取り付け

1. パッケージから取り付けベースを取り出します。
2. 壁面または天井に取り付けベースを置き、ネジ穴 (1) に印を付けます。



画像 4-1

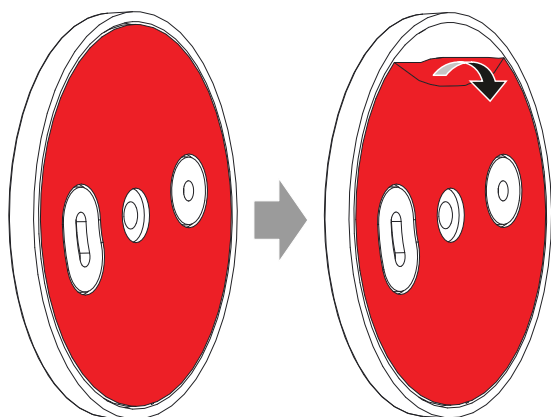
3. 使用するアンカーのサイズより少し小さいドリルビットを選択して、ぴったりとフィットさせます。
4. 印が付いている箇所に穴を開けます。
5. プラスチック製のネジアンカーをハンマーでドリル穴に差し込みます (必要な場合。壁または天井のタイプによって異なります)。
6. 天井または壁に取り付けベースを置き、ネジを締め付けます。
7. デバイスを取り付けベースに置き、ロックされるまで時計回りに回します。



画像 4-2

### 接着層で取り付けます

1. 取り外し可能な保護フィルムをはがします。



画像 4-3

2. 選択した場所にベースを貼り付けます。
3. デバイスを取り付けベースに置き、(画像 4-2) がロックされるまで時計回りに回します。

## 4.5 スタンドアロンセットアップ

### 概要

このセットアップは、設置の点で最も簡単であり、一時的なセットアップや、一元管理やサードパーティの統合が不要な組織で使用できます。

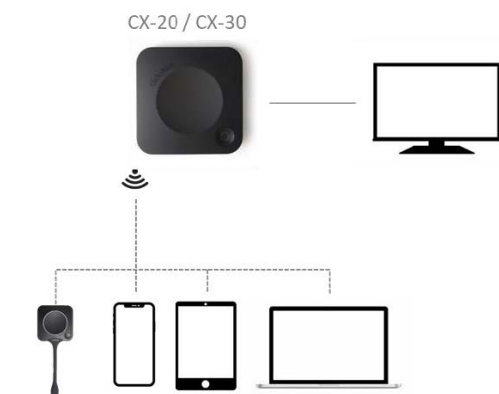
ClickShare Base Unit と Button は、企業ネットワークに統合されていなくても、すぐに使用できます。更新して登録するには、Base Unit を少なくとも 1 回はインターネットに接続する必要があります。ユーザは、ClickShare アプリまたは Miracast を使用するか、Airplay または Google Cast を使用してモバイルデバイスを使用して、ClickShare Button 経由で Base Unit に直接接続できます。



ClickShare Button を使用すると、インターネットに接続したままにできます。ClickShare デスクトップアプリ、ClickShare モバイルアプリ、AirPlay、Chromecast と共有するユーザは、Base Unit のアクセスポイントに接続する必要があり、デバイスがデータ (3G/4G) を同時に使用できる場合にのみインターネットにアクセスできます。このためには、Base Unit のアクセスポイントがオフになっていないこと、表示されていること、および誰でも接続できることが必要です。

Miracast 経由での共有は、CX-50 を使用している場合にのみ、WiFi 経由で直接できます。

ClickShare Base Unit および Button をすぐに使用できることは、一時的なセットアップ、ビジターセンター、およびネットワーク統合の必要や可能性がない中小規模の設置に最適です。このセットアップでは、最小限の設置作業で、共有データをエンタープライズネットワークから完全に分離します。Base Unit の更新および設定は、手動で行う必要があります。



画像 4-4

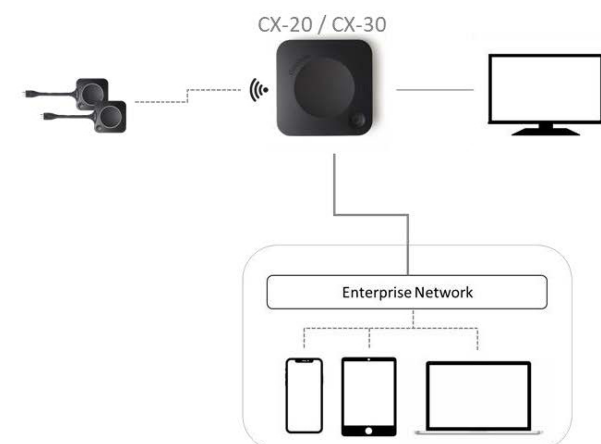
## 4.6 ネットワーク接続セットアップ

### 概要

これは、従業員にシームレスな操作性を提供する最もシンプルな設置法です。一時的なセットアップ、ビジターセンター、ネットワーク統合の必要がない小規模から中規模の設置、社内会議室、フラットなネットワークトポロジを持つ企業、または ClickShare Button がシステムへの主要な方法である場合に推奨されるセットアップです。

このデフォルトモードで、ClickShare Button および Base Unit は、すぐに使用でき、ユーザは、インターネット接続を失うことなく、Base Unit が接続されているネットワーク経由で ClickShare デスクトップアプリ、ClickShare モバイルアプリ、AirPlay、Google Cast と Base Unit に共有できます。

ClickShare Button を使用すると、ゲストはゲスト LAN に接続したままインターネット接続を維持できます。ゲストモバイルデバイスは通常、Base Unit に直接接続する必要があり、デバイスがデータ (3G/4G) を同時に使用できる場合にのみインターネットにアクセスできます。



画像 4-5

## 4.7 専用ネットワークセットアップ

### 概要

このインストールでは、Base Unit との間のすべての接続を制御できる、分離ネットワークセットアップが提供されます。この専用 AV (または ClickShare) ネットワークまたは VLAN を使用すると、接続されている物理 LAN または仮想 LAN 間で接続が発生しないように、または帯域幅、セキュリティおよび遅延に関するビジネス要件を確保するために、他のすべての IP トラフィックからすべての ClickShare トラフィックを分離するために、より詳細なアクセス制御を行うことができます。

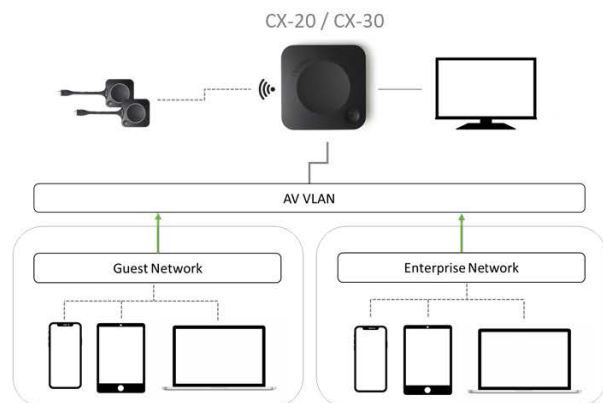
このセットアップでは、組織のネットワークトポロジとセキュリティ要件によって、設定が大きく異なる場合があります。ここでは、Base Unit が専用の AV VLAN に配置される簡単な設定について説明します。これは、組織内で一般的に使用される方法です。

このセットアップでは、ClickShare Button および Base Unit は、すぐに直接操作できます。専用ネットワークに Base Unit がインストールされているため、ネットワーク上で、ClickShare デスクトップアプリ、ClickShare モバイルアプリ、AirPlay、Google Cast を使用できるようにするには、ファイアウォール構成が必要です。

ゲスト WiFi または従業員 WiFi からの接続を許可するようにファイアウォールが構成されていない場合、ユーザは Base Unit のワイヤレスアクセスポイントに接続して、ClickShare デスクトップアプリ、ClickShare モバイルアプリ、AirPlay および Chromecast を使用できます。また、デバイスがデータ (3G/4G/5G) を同時に使用できる場合のみ、インターネットにアクセスできます。このためには、Base Unit のアクセスポイントがオフになっていないこと、表示されていること、および誰でもに接続できることが必要です。モバイルユーザは、スタンドアロンセットアップで説明するエクスペリエンスに限定されます。Miracast の場合、Base Unit は、Miracast に WiFi で直接接続するように設定する必要があります。

Base Unit を企業ネットワークに接続すると、一元管理にエクスペリエンス管理スイート (XMS) を使用したり、自動更新機能を使用したりしてインストールベースを最新の状態に保つことができます。

ネットワークに接続されている Base Unit は、SNMP を介して監視でき、Overture や Crestron などの他のサードパーティ製システムによって制御および監視できます。また、ClickShare 会議 REST API を介してインターフェイスすることもできます。



画像 4-6

### コンフィギュレーターを使用して設定する方法

1. Base Unit を接続し、ClickShare コンフィギュレーター を参照してログインします。
2. システムメニューの *Button* を選択し、設定の編集をクリックします。

ドロップダウンメニューから外部アクセスポイントを選択し、優先認証モードを選択して詳細を入力します。

[Save changes (変更の保存)] をクリックします。詳しくは、90 ページ、*Button* をご参照ください。を参照してください。

3. *Button* と Base Unit を再度ペアリングします。
4. オプションで、Base Unit の WiFi をアクセスポイントに設定することも、オフに設定することもできます。詳細は、以下を参照してください。

## XMS による設定

1. XMS にログインし、*Base Units* タブに移動します。
2. デバイスリストで、ネットワーク統合モードを導入する Unit を選択します。
3. コンフィギュレータードロップダウンリストを開き、ネットワーク統合を選択します。
4. ネットワーク統合モードの認証モードのいずれか一つを選択し、詳細を入力します。
5. ClickShare ボタンを更新された Base Unit と再ペアリングし、新しい設定を適用します。  
XML の使用方法に関する詳細は、XML のユーザガイドを参照してください。

## 4.8 設備の整った会議室 ( オーディオのみ、またはカメラのみ )

### 設備の整った会議室

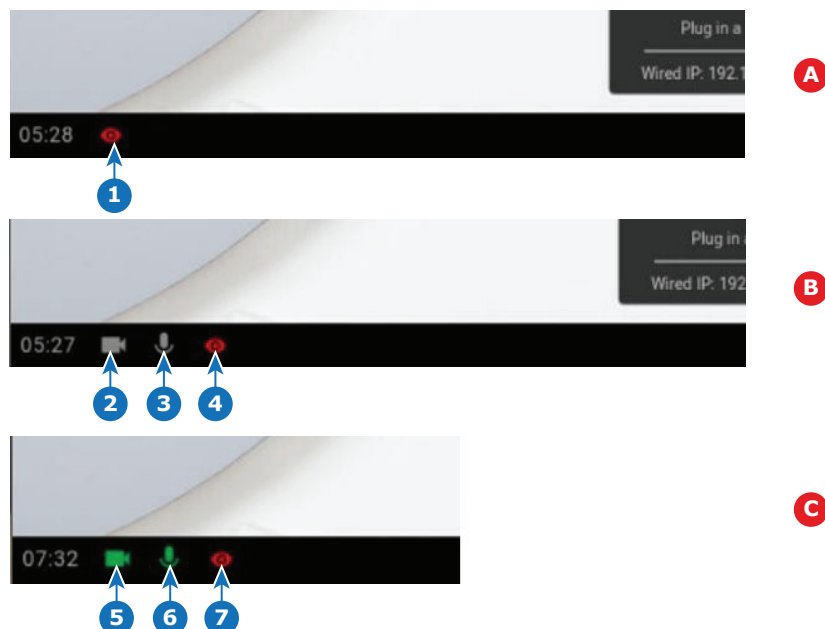
会議室内では、次のコンポーネントを使用できます。

- 最大解像度 720p の USB カメラ。
- USB 経由で接続されたスピーカー / マイクシステム。

Button と接続すると、会議室のスピーカーフォン、マイク、およびカメラのワイヤレスをラップトップに接続し、ビデオ会議通話で会議室のより良い機器を使用できます。

ほとんどのビデオ会議ツールでは、会議室の周辺機器 ( カメラとスピーカーフォン ) の選択は自動的に行われます。

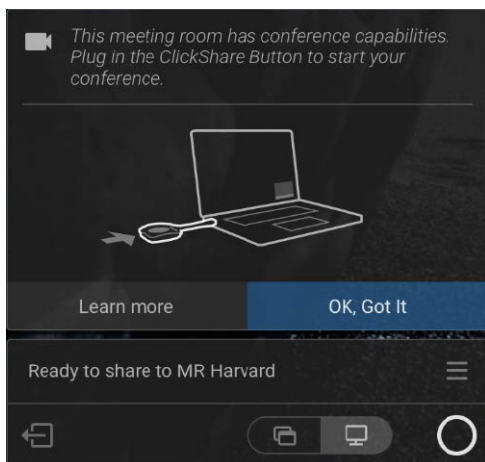
壁紙のアイコンは、室内の周辺機器の可用性とステータスを示します。いずれかの会議室が Base Unit に接続されておらず、オーディオのみの会議室またはビデオのみの会議室の作成ができる場合は、対応するアイコンは壁紙に表示されません。



画像 4-7

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>A</b> 周辺機器が接続されていません。ローカルビューがアクティブです</p> <p><b>B</b> カメラとスピーカーフォンが接続されていますがローカルビューのみです</p> <p><b>C</b> カメラとスピーカーフォンが接続されてアクティブで、ローカルビューがアクティブです</p> <p><b>1</b> ローカルビューがアクティブです</p> <p><b>2</b> カメラが接続されていますが、アクティブではありません</p> | <p><b>3</b> スピーカーフォンが接続されていますが、アクティブではありません</p> <p><b>4</b> ローカルビューがアクティブです</p> <p><b>5</b> カメラが接続され、アクティブです</p> <p><b>6</b> スピーカーフォンが接続されていてアクティブで、ミュートされていません</p> <p><b>7</b> ローカルビューがアクティブです</p> |
|--|---|

ClickShare会議で使用できるClickShareデスクトップアプリを使用して会議室に接続すると、接続時に通知が表示され、無線会議機能を使用するには ClickShare Button が必要であることが通知される場合があります。この通知は、ClickShare デスクトップアプリを使用してワイヤレス会議対応の会議室に初めて 5 回接続したときのみ表示されます。通知を閉じるには、了解しました Button をクリックします。



画像 4-8

接続に ClickShare Button を使用しない場合の制限事項：

ClickShare デスクトップアプリを使用して接続している場合、ClickShare Button プラグインを使用しないと、エクスペリエンスは、ClickShare で利用できるコラボレーション機能に制限されます。ClickShare Button が接続されるまで、会議室のカメラ、会議室のスピーカー、マイク、またはスピーカーフォンをワイヤレス会議に使用できません。

### オーディオのみの会議室

オーディオのみの会議室には、USB で接続されたスピーカー / マイクシステムが備わっています。

Button または ClickShare デスクトップアプリに接続すると、会議室のスピーカーフォンとマイクをラップトップに接続して会議通話で使用できます。

### ビデオのみ会議室

ビデオのみ会議室には、Base Unit に接続された USB カメラのみが接続されています。

## 4.9 Base Unit へのビデオ信号の接続


### ビデオ信号の接続について

Base Unit にはスクリーンを 1 台接続できます。

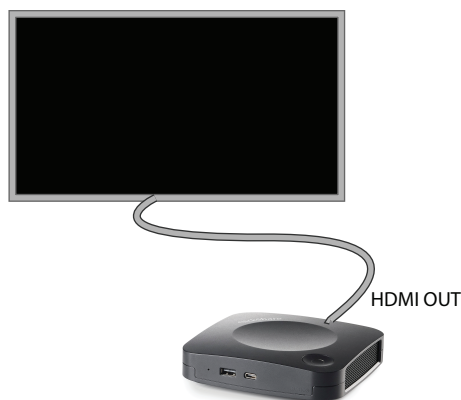
ディスプレイを接続するには、Base Unit とディスプレイ間を HDMI で接続します。

### 接続するには

1. ディスプレイケーブルを使って、Base Unit をディスプレイに接続します。

 **Note:** ディスプレイケーブルは、購入時の ClickShare の箱には同梱されていません。

ディスプレイ構成を設定する際、HDMI ケーブルをディスプレイに接続します。必要に応じて、ディスプレイポートまたはディスプレイ側の DVI ポートにアダプターを接続します。



画像 4-9 ディスプレイの接続

## 4.10 カメラ接続

### USB カメラについて

最大 720p の解像度を持つ USB カメラは、Base Unit に接続できます。サポートされるカメラのリストは、Barco の Web サイトにあります。

#### 接続するには

1. USB 経由でカメラを Base Unit に接続します。

Base Unit に接続されているカメラは、Button を接続するとアクセス可能になります。ドライバは必要ありません。すべてのカメラが「ClickShare Camera」として表示されます。

## 4.11 コンテンツ音声の接続

### コンテンツ音声について (スピーカーフォンが接続されていない場合)

ClickShare ボタンは、ユーザーのラップトップの音声出力をキャプチャし、それをビデオ信号とともに Base Unit に送信します。音声は、ミニジャックソケット (3.5mm) からライン レベルで、TOSLINK ソケットまたは HDMI 接続を使用して出力できます (コンフィギュレータで設定可能)。

音声信号をビデオ信号とともに送信するかどうかは、ユーザーが決定できます。このオプションは、ラップトップのスピーカーまたはヘッドフォンをコントロールする際に使用するのと同じツール (オペレーティングシステムの音声コントロール、またはラップトップのキーボードにあるボタン (ミュート/ミュート解除、ボリュームを調整するボタンなど)) を使って選択できます。

音声信号とビデオ信号は、ユーザーがコンテンツを共有しているときに同期されます。

### コンテンツ音声について (スピーカーフォンが接続されている場合)

ユーザーのラップトップでキャプチャされたコンテンツ音声は、共有 Button を介して Base Unit に伝送され、スピーカーフォンが接続された USB ポートに送信されます。

### HDMI 経由の音声 (スピーカーフォンが接続されていない場合)

ディスプレイが HDMI を使用して接続されていて、それが音声をサポートしている場合、音声を別途接続する必要はありません。音声信号は、ビデオ信号とともにディスプレイに送信されます。

Base Unit に USB スピーカーフォンを接続すると、すべての音声が出力されます。別途音声システムが付いている場合も。

## サウンドが送信されない場合

一部の Windows 環境では、サウンドが送信されません。これは次のように解決できます (Windows のバージョンによって異なる)。

たとえば、Windows 7 の場合：

1. システムトレイにあるサウンドアイコンを右クリックし、[デフォルト装置] を選択します。[サウンド] ウィンドウが開きます。
2. [スピーカー ClickShare]、[規定値に設定] を選択し、[適用] をクリックします。

たとえば、Windows 10 の場合：

1. システムトレイのサウンドアイコンをクリックし、上矢印をクリックして機能を開きます。
2. 希望の装置を選択します。

## 4.12 エコーキャンセルスピーカーフォンオーディオ接続

### エコーキャンセルスピーカーフォンのオーディオについて

Base Unit に接続されたエコーキャンセルスピーカーフォンによるオーディオキャプチャは、Button に送信され、リモート会議で使用できます。Button から Base Unit に伝送されるコンテンツオーディオは、スピーカーフォンに送信されます。

Button とスピーカーフォン間の双方向オーディオ伝送です。

### USB スピーカーフォンのサポート

サポートされるスピーカーフォンのリストは、Barco の Web サイトにあります。

### エコーキャンセルスピーカーフォンの接続方法

1. USB 経由でスピーカーフォンデバイスを Base Unit に接続します。

USB スピーカーフォンが Base Unit に接続されている場合、すべてのオーディオが出力されます。別のオーディオシステムがコンテンツオーディオに接続されている場合でも。

## サウンドが送信されない場合

一部の Windows 環境では、サウンドが送信されません。これを解決するには、以下の手順に従ってください：

たとえば、Windows 7 の場合

1. システムトレイにあるサウンドアイコンを右クリックし、[デフォルト通信デバイス] を選択します。[サウンド] ウィンドウが開きます。
2. [エコーキャンセリングスピーカーフォン] を選択し、[規定値に設定] を選択し、[適用] をクリックします。

たとえば、Windows 10 の場合

1. システムトレイのサウンドアイコンをクリックし、上矢印をクリックして、可能性を開きます。
2. 目的のデバイスを選択します。

## 4.13 LAN 接続

### LAN 接続について

Base Unit は、ローカルネットワークまたはラップトップに直接接続できます。

最大許容 LAN 速度：1000 Mbit

LAN 接続と XMS クラウドを使用して設定、監視、追加機能を行うことを強くお勧めします。また、LAN 接続により、ClickShare アプリや Airplay などのネイティブ共有プロトコルを使用する際のユーザエクスペリエンスも大幅に向上します。

## 接続方法

1. RJ-45 コネクタ付きのネットワークケーブルを LAN ポートに挿入します。
2. そのケーブルを LAN に接続します。

## 4.14 電源接続

### 電源について

この製品には、外部電源アダプターが付属しています。出力レートは 12 VDC 2A です。



注意: Base Unit が給電されると起動します。その後電源ボタンは、スイッチのオン/オフを切り替えるのに使用できません。

### 外部電源アダプターを接続するには

1. 電源アダプターのバレル端子を Base Unit の電源入力に差し込みます。
2. ClickShare の電源アダプターにある電源入力アダプター部 (米国、オーストラリア、インド、中国、欧州、または英国) をクリック音がするまでスライドします。1 つを使用  
お住まいの国に適合するもの。



画像 4-10 電源アダプター

3. 電源ケーブルをコンセントに接続します。

## 4.15 初めての起動

### 起動方法

Base Unit を使用するには、次の手順が必要です。

1. スクリーン、すべての USB 装置および電源を Base Unit に接続します。
2. 更新が完了すると、Base Unit が再起動します。
3. Base Unit を初めて起動するには、インターネットアクセスが必要です。Base Unit が最新のファームウェアバージョンに更新されます。
4. XMS クラウドに装置を登録して構成します。
5. Buttons と Base Unit をペアリングします。
6. Base Unit を使用する準備が整いました。

## 4.16 Base Unit の最初のセットアップ

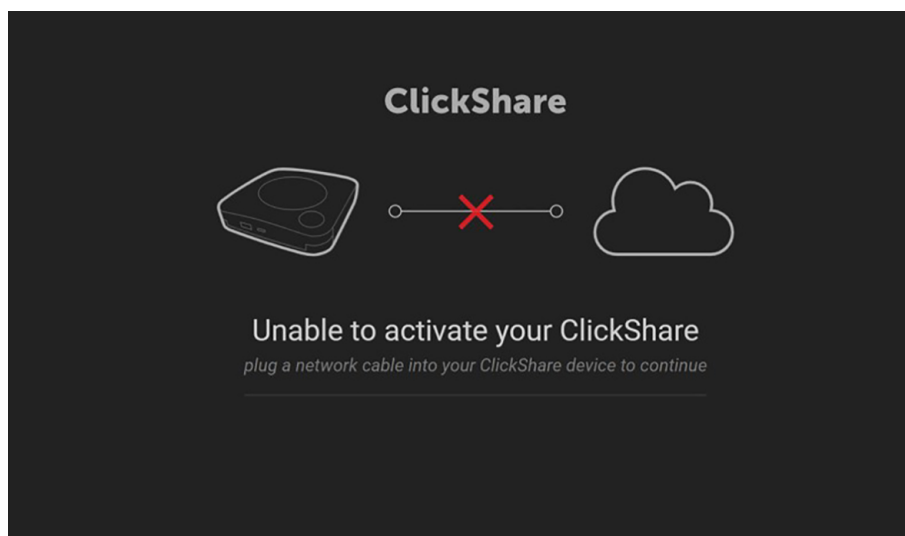


設置が完了したら、最初のセットアップ手順から始めて、装置をアクティブ化して構成します。

### 優先ワークフロー

1. 電源と HDMI ケーブルを接続します。

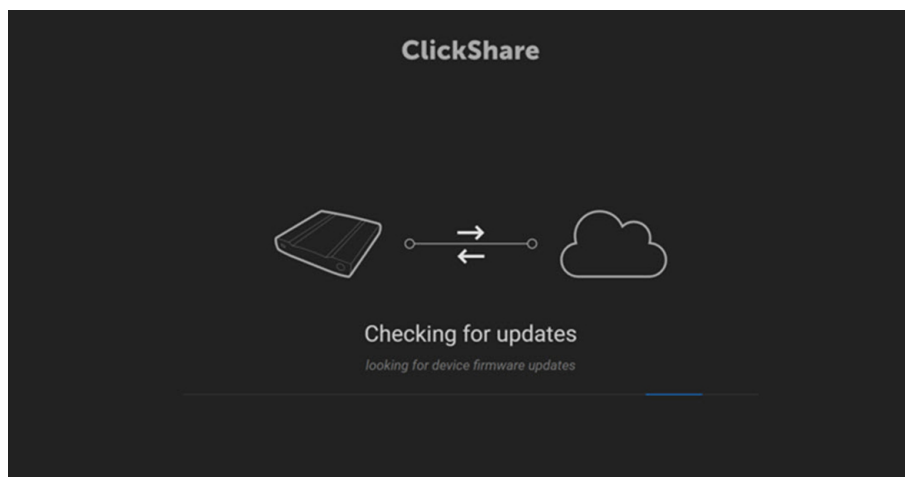
Base Unit が起動します。



画像 4-11

2. ネットワークケーブルを接続します。

システムが更新をチェックします。



画像 4-12

更新が利用可能な場合は、Base Unit がダウンロード、アップデート、および再起動します

更新がない場合は、次の手順に進みます

3. XMS クラウドへの登録を開始します。



## 4.17 XMS Cloud への登録

### 登録について

装置がインターネットに接続され、更新されたら、装置の登録を開始できます。5年間の SmartCare 保証を得るには、装置を登録する必要があります。

登録は、

- XMS クラウドに対してエンドカスタマー (推奨フロー) またはリセラーにより行ことができます。

### XMS クラウドへのオンライン

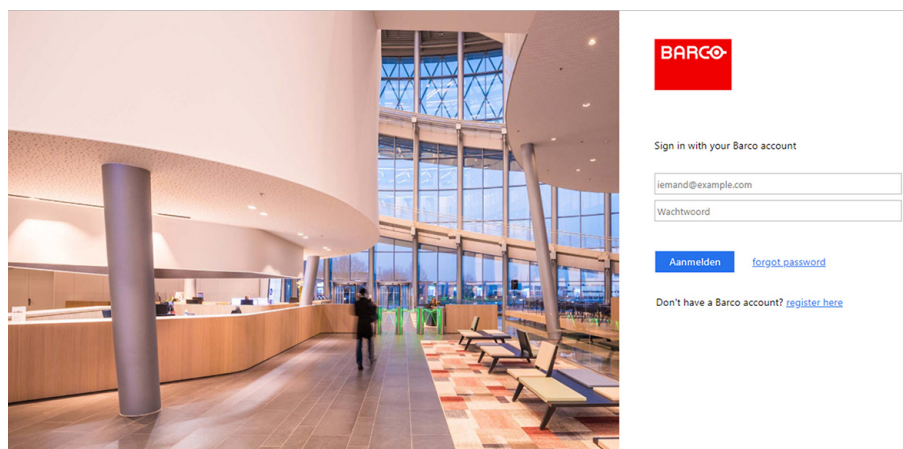
1. ソフトウェアの更新が完了して再起動が完了すると、お客様は <https://xms.cloud.barco.com/add> にアクセスするよう求められます。



画像 4-13

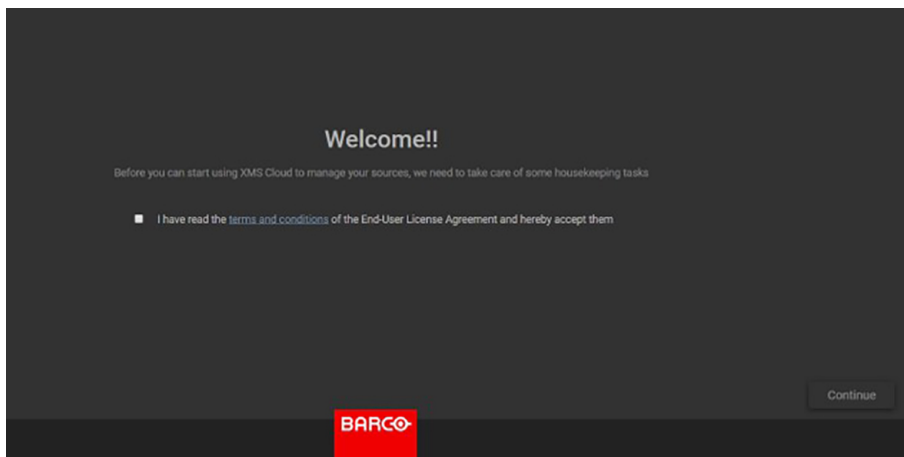
XML ログインページが表示されます。

2. Barco アカウントでログインします。Barco アカウントをまだお持ちでない場合は、[ここで登録] をクリックして指示に従ってください。



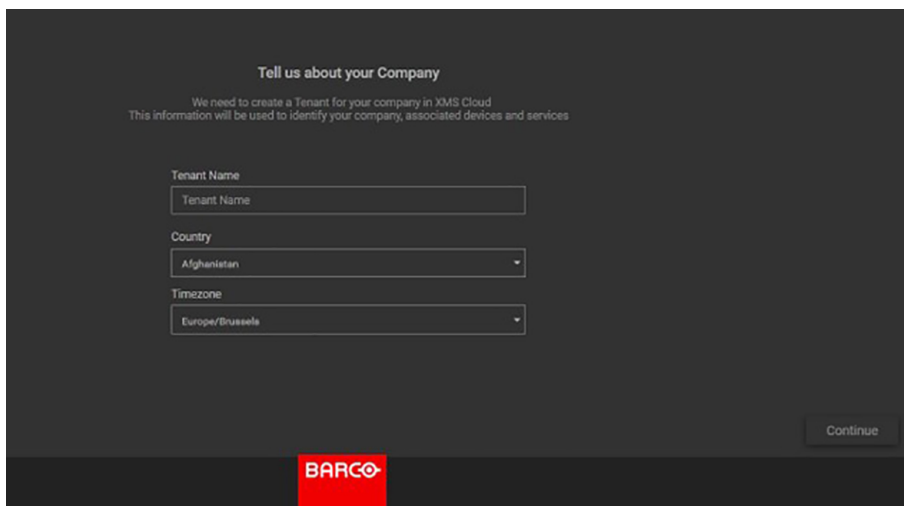
画像 4-14 サインインページ

3. [サインイン] をクリックします。  
XML クラウドのウェルカムページが表示されます。



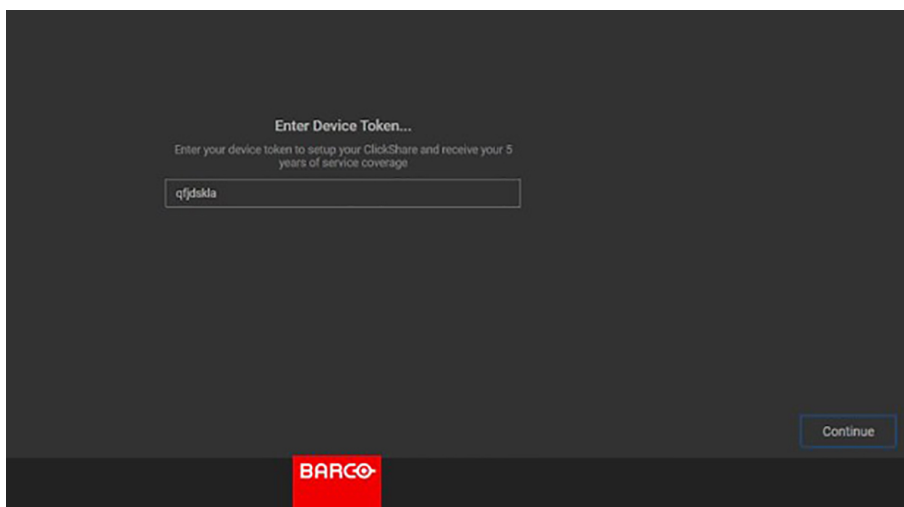
画像 4-15 XMS-cloud のウェルカムページ

4. エンドユーザーライセンス契約に同意して [続行] をクリックします。
5. 会社情報を入力し、[続行] をクリックします。



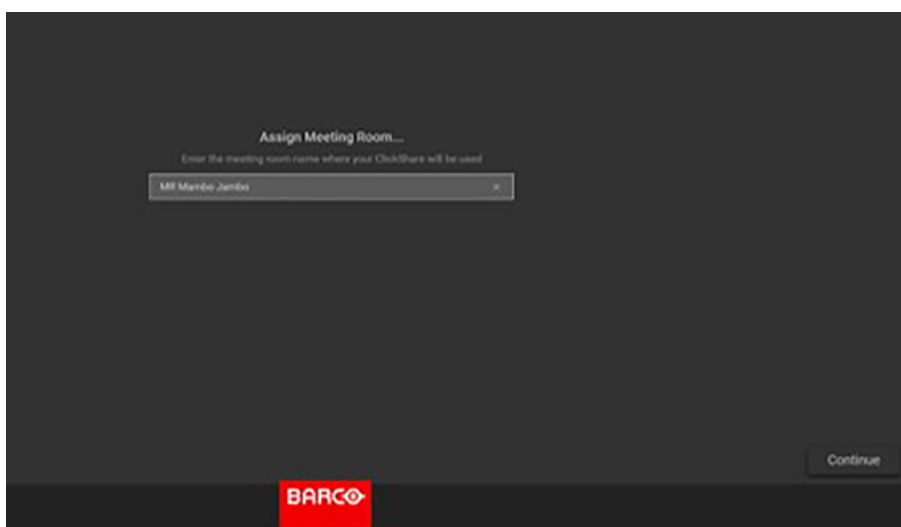
画像 4-16 会社情報

6. 装置トークンを入力して装置を設定し、5年間のサービス保証を取得します。装置トークンは ClickShare スクリーンに表示されます (画像 4-13 参照)。  
[続行] をクリックします。



画像 4-17 装置トークンの入力

7. 会議室を割り当て、[続行] をクリックします。



画像 4-18 会議室の割り当て

装置が正常に登録されました。

8. Buttons のペアリングを開始して、装置の使用を開始します。



画像 4-19 Buttons のペアリングを開始します。

壁紙ページが表示されます。

## 4.18 デバイスを登録せずに使用

### オフラインを使用する理由

登録なしで製品を使用する理由はいくつかあります。

- 現時点で XMS サーバにアクセスできない場合
- XMS EULA に同意できない場合
- スマートケアパッケージが必要ない場合は、

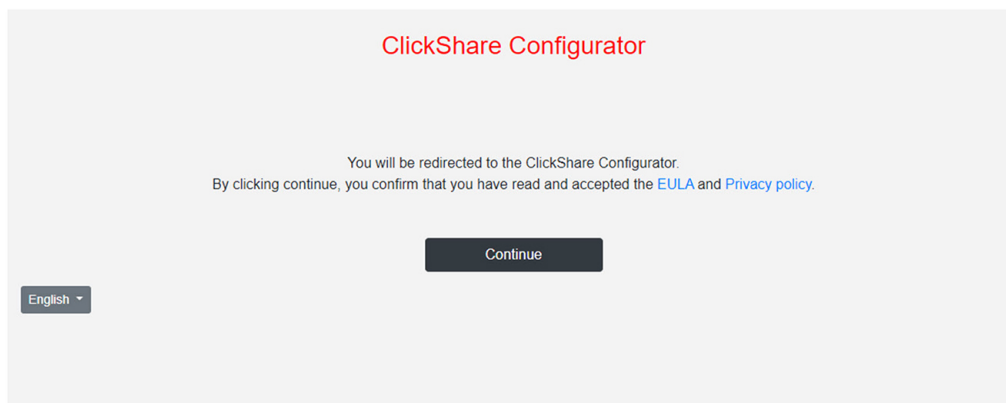
登録をスキップできます



エンドカスタマーは、6 か月間、XMS クラウドに Unit を登録して Smart Care パッケージをアクティブ化する必要があります

## 処理方法

1. 壁紙に記載されている手順に従って、デバイスの WiFi を接続します。  
デフォルトの SSID は ClickShare-<製造番号> です。  
パスワード : clickshare
2. WiFi 接続が確立されたら、デバイスのネットワーク設定に進みます。  
次の URL に移動します: <http://192.168.2.1>  
ClickShare コンフィギュレーターが起動します。

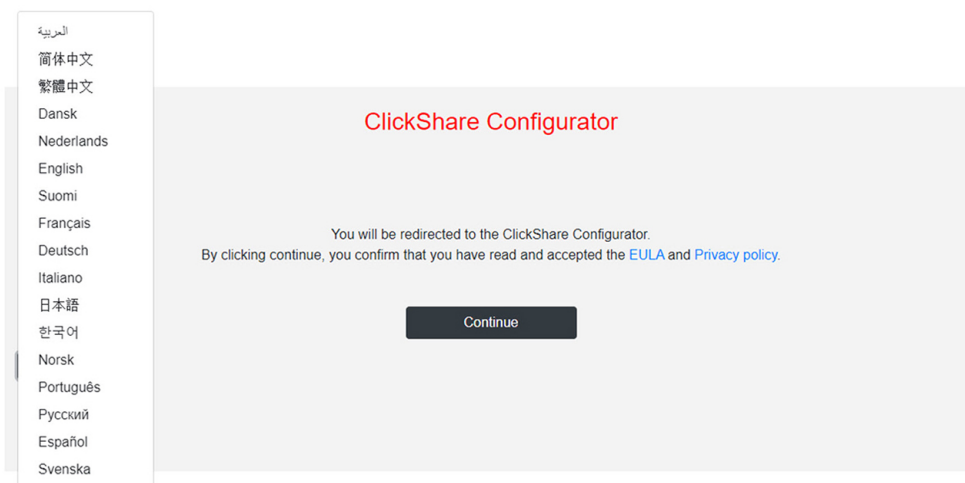


© 2019, Barco. All rights reserved.



画像 4-20 コンフィギュレーターの起動

3. 言語を変更するには、現在指示されている言語のドロップダウンボックスをクリックし、目的の言語を選択します。



© 2019, Barco. All rights reserved.



画像 4-21 コンフィギュレーター、言語選択

4. 続けるをクリックして開始します。  
登録メッセージが表示されます。

You have chosen to skip the product registration.

To enjoy Barco SmartCare, you (the final owner of this Base Unit) have to register this ClickShare unit within the next 6 months.  
SmartCare offers 5 years service coverage, free software updates and usage insights in XMS Cloud.  
If you do not register this unit, a standard 1-year warranty will apply.

Register Later 



画像 4-22 登録メッセージ

5. 後で登録をクリックします。
6. Buttons のペアリングを開始します。

#### Pair buttons

Please pair your buttons to start using your ClickShare.



画像 4-23 ペアリングの開始

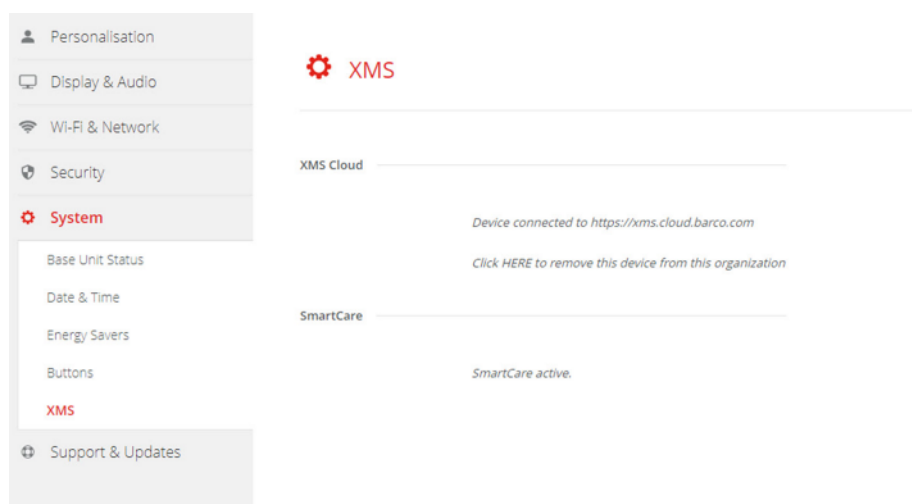
7. ネットワーク設定の構成を開始します。詳細は、46 ページ、*ClickShare* 装置の基本構成 をご参照ください。を参照してください。



5 年間の保証を取得するには、装置を登録する必要があります。

### コンフィギュレーターでの XMS Cloud の注意

コンフィギュレーターからシステム → XMS を参照すると、XMS Cloud 統合メッセージが表示され、登録方法と使用するトークンが示されます。



画像 4-24 XMS クラウドメッセージ

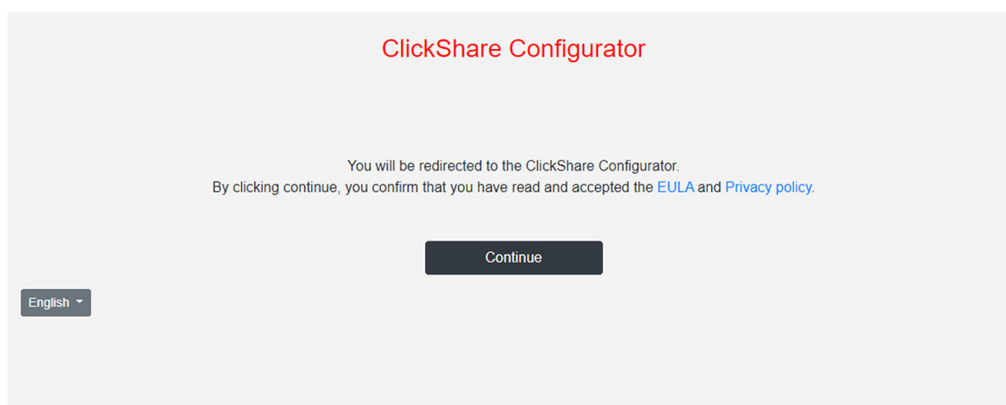
## 4.19 ClickShare 装置の基本構成



WiFi 経由で Base Unit に接続していることを確認してください。

### 設定方法

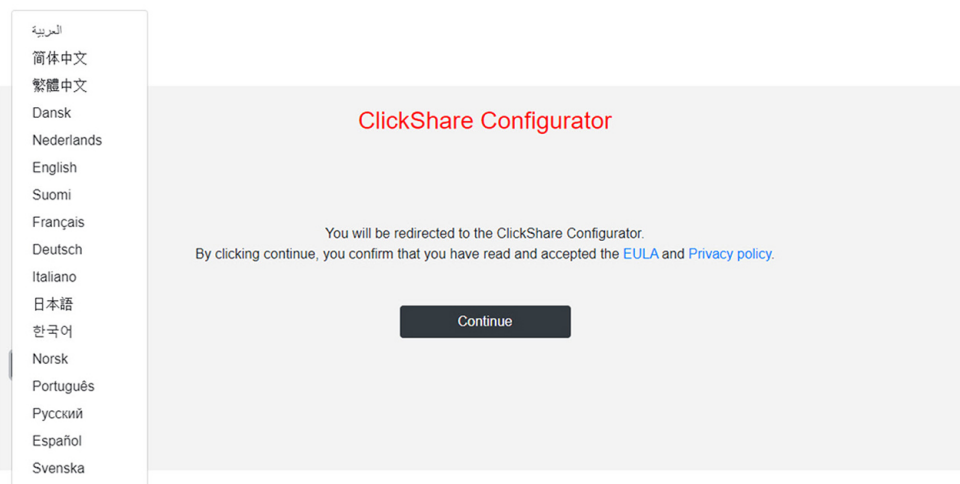
1. インターネットブラウザを開き、<http://192.168.2.1> にアクセス  
ClickShare Configurator が起動します。



© 2019, Barco, All rights reserved.

画像 4-25 コンフィギュレータの起動

2. 言語を変更するには、現在示されている言語のドロップダウンボックスをクリックし、目的の言語を選択します。

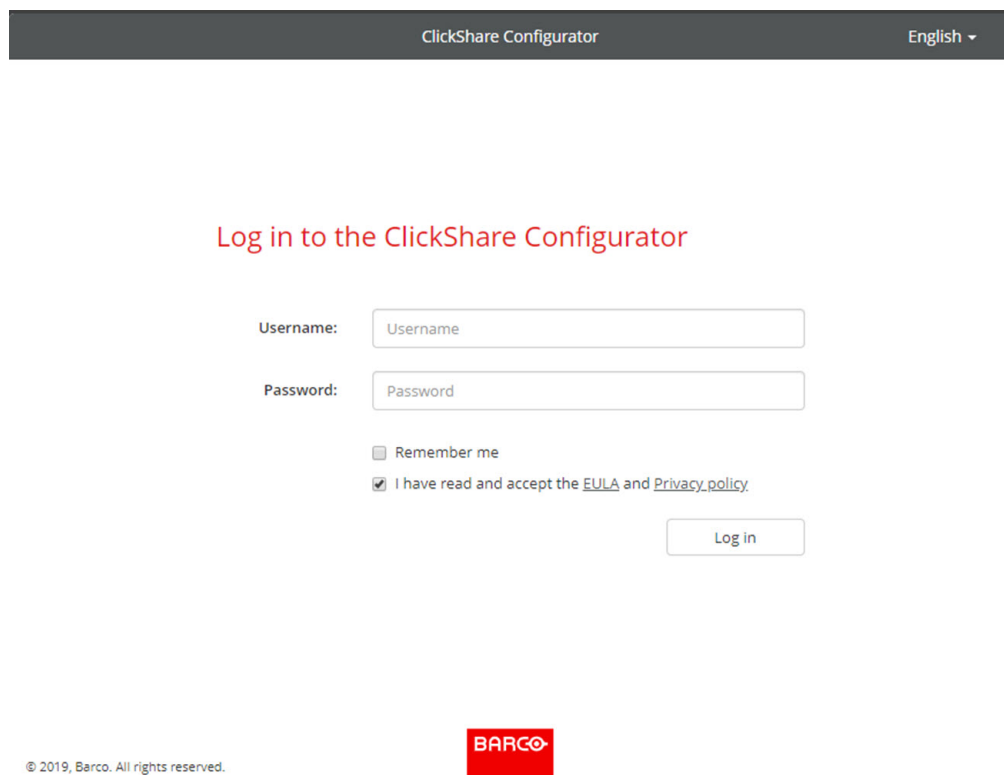


© 2019, Barco. All rights reserved.

BARCO

画像 4-26 コンフィギュレータ、言語選択

3. [続行] をクリックして開始します。  
登録メッセージが表示されます。
4. [Next (次へ)] をクリックして、続行します。  
コンフィギュレータログインページが表示されます。



© 2019, Barco. All rights reserved.

BARCO

画像 4-27 コンフィギュレータ、ログインページ

5. 次のデフォルトの認証情報でログインします。これらの認証情報は後で変更できます。  
ユーザー名: admin  
パスワード: admin  
「ClickShare コンフィグレーションウィザードへようこそ」ページが開きます。

6. [構成の開始 (Start configuration)] をクリックします。  
別のページに記載されている指示に従ってください。  
[次へ] をクリックして次のページに進み、[戻る] をクリックして前のページに戻ります。

7. 記入:

- 個人用設定
- スクリーンに表示されるテキストの言語
  - 会議室名
  - 場所の名前
  - ようこそメッセージ

- 
- システム
- タイムゾーンの選択
  - 日付と時間モードの設定、手動または NTP 経由。

- 
- セキュリティ
- 目的のセキュリティレベルの選択

---

パスワード ClickShare Configurator にログインするための新しいパスワードを入力します。

- 
- ネットワーク
- ネットワーク設定をセットアップします。
- 周波数帯域の選択
  - チャンネルの選択
  - 必要に応じて SSID を変更します。デフォルトの値は *ClickShare-<シリアル番号>* です。
  - ブロードキャスト SSID をオンまたはオフにする
  - 新しい WiFi パスフレーズを入力します。

これらすべての設定の詳細については、  
これで Base Unit が LAN 経由で通信できるようになりました。  
Buttons のペアリングを開始します。



# Button の準備

# 5

5.1	ペアリング .....	50
5.2	ClickShare Extension Pack .....	51
5.3	ClickShare Extension Pack インストーラ .....	51
5.4	ClickShare Windows 認定ドライバ .....	52
5.5	ClickShare デスクトップアプリ .....	52

## 5.1 ペアリング

### Button を Base Unit とペアリング

Button は、使用する前に、お使いの Base Unit に割り当てる必要があります。このプロセスをペアリングと呼びます。すべての Button は、使用する前に更新してペアリングする必要があります。

追加で Button を購入したり、Button を別の Base Unit に割り当てたりする必要がある場合は、Button を (再度) ペアリングする必要があります。Button のソフトウェアアップデートはバックグラウンドで実行され、ユーザがシステムを使用している間、ユーザに影響を与えることはありません。Base Unit ソフトウェアの古いバージョンにダウングレードまたはアップデートする場合は、Button を手作業でペアリングし、そのソフトウェアをアップデートする必要があります。



Button は、一度に 1 台の Base Unit にのみペアリングできます。  
Button は、最後にペアリングした Base Unit に常に接続します。

Button をペアリングするには、次の 2 つの方法があります。

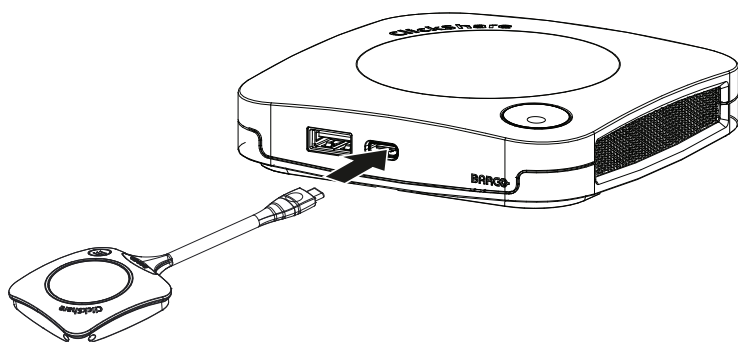
- Button を Base Unit に接続して。
- ラップトップで実行されている Button Manager アプリケーションを使用する。

接続で Button を Base Unit とペアリングするには、

1. 使用している Base Unit で利用できる USB ポートの 1 つに Button を挿入します (画像は例として示してあり、すべての USB コネクタを使用できます)。



Note: 一部のポートまたは Button では、コンバータを使用する必要があります。



画像 5-1 Button のペアリング

Button LED が円を描く間、Base Unit LED が点滅します。これはペアリングが進行中であることを示します。

Base Unit は、Button のソフトウェアが最新のものであるかどうかを自動的に確認します。Button のソフトウェアが最新のものでない場合は、Base Unit がアップデートします。これには時間がかかる場合があります。

ペアリング プロセスの結果は、以下のとおり通知されます:

- Button の LED が Base Unit で緑色になり、白の点灯状態になると、Button は Base Unit とペアリングされます。Button を Base Unit から取り外すことができます。

2. Base Unit から Button を取り外します。

これで Button を使用する準備が整いました。



画像 5-2

## 5.2 ClickShare Extension Pack

### 一般情報

ClickShare Extension Pack は、お客様の ClickShare のユーザーエクスペリエンスをアップグレードするためのツール集です。この Extension Pack には、ClickShare Launcher サービスと Extended Desktop 機能を有効にするドライバが含まれています (Windows 上のみ)。両方のツールがデフォルトでインストールされます。インストーラのデフォルト動作を変更するには、インストーラをコマンドラインパラメータで実行する必要があります。

ClickShare Extension Pack は、エンドユーザーが手動でインストールしたり、社内のラップトップイメージにあらかじめインストールしたり、SCCM や他のツールを使用して全社展開したりすることができます。

ClickShare Extension Pack は、Button および / または ClickShare デスクトップアプリと組み合わせて使用できます。

最新の拡張パックは、<http://www.barco.com/en/product/clickshare-extension-pack> からダウンロードできます。

## 5.3 ClickShare Extension Pack インストーラ

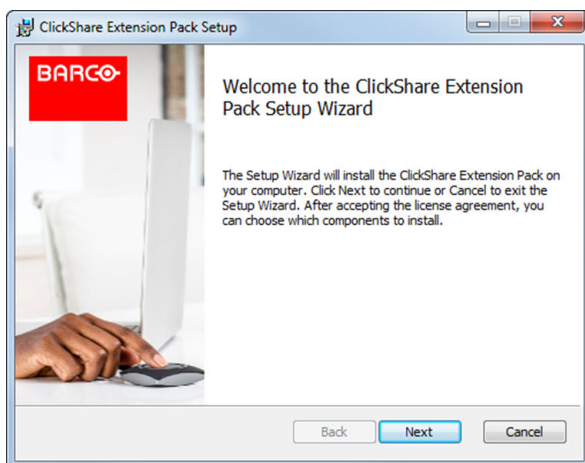
### インタラクティブセットアップ

この設定では、ユーザーが EULA を受け入れた後、自分のコンピュータに ClickShare Extension Pack をインストールするインストーラを実行します。

設定が終了すると、ClickShare ランチャーが自動的に開始されます。Extended デスクトップドライバは、ユーザーがコンピュータを再起動した後にのみ使用できます。

### 設定の開始

1. ClickShare Extension Pack をダウンロードします (<http://www.barco.com/en/product/clickshare-extension-pack> 経由でダウンロード)。
2. ダウンロードファイルを解凍します。
3. *ClickShare-Extension-Pack.msi* をクリックして、インストールを開始します。



画像 5-3

4. 次へをクリックし、ライセンス契約に同意し、次へをクリックして続行します。  
必要に応じて、オンスクリーンの使用説明に従ってください。

### サイレントセットアップ

この設定では、ユーザーまたは IT 管理者が Windows のコマンドプロンプトを使って Clickshare Extension pack をインストールします。サイレントインストールの例を以下に示します (バージョン番号は例に過ぎません。最新バージョンについては、必ず Barco の Web サイトを確認してください)。

## ランチャーのみインストール:

```
msiexec.exe /i ClickShare-Extension-Pack-01.00.02.0003.msi ACCEPT_EULA=YES
INSTALLFOLDER=C:\ LAUNCH_APP=YES /qn
```

## 拡張デスクトップのみインストール:

```
msiexec.exe /i ClickShare-Extension-Pack-01.00.02.0003.msi ACCEPT_EULA=YES
ADDLOCAL=ExtendedDesktopDriverFeature INSTALLFOLDER=C:\ LAUNCH_APP=YES /qn
```

## フルインストール (ランチャー + 拡張デスクトップ):

```
msiexec.exe /i ClickShare-Extension-Pack-01.00.02.0003.msi ACCEPT_EULA=YES
ADDLOCAL=ALL INSTALLFOLDER=C:\ LAUNCH_APP=YES /qn
```



コンピュータが再起動します。これは /norestart で抑制することができます。拡張デスクトップ機能が動作するには、後で再起動が必要になります。エンドユーザが再起動するかどうかを決定する必要がある場合は、/promptrestart /QBI+ を使用できます (基本 UI、キャンセルオプションなし、再起動を促すメッセージ)

## パラメータの説明

ACCEPT_EULA	このパラメーターは、インストーラーが EULA テキストを現状のまま受諾することを示します。インストールを続行するには、このパラメーターを YES に設定する必要があります。
INSTALLFOLDER	このパラメーターは、ClickShare ランチャーのインストール先ディレクトリーを指定します。指定しない場合のデフォルトのフォルダーは「Program Files」フォルダーです。
LAUNCH_APP	このパラメーターを「はい」に設定すると、インストール終了直後に ClickShare ランチャーアプリケーションが開始されます。それ以外の場合、Launcher アプリケーションは開始されません。
/qn	このパラメーターは、インストールがサイレントモードで行われることを示し、インストール中は一切ウィンドウが表示されないことを意味します。
ADDLOCAL	このパラメーターは、インストールの種類を示します。パラメーターを追加せずに、ランチャーのみインストールします。

## Windows 環境変数

使用する変数は「CLICKSHARE\_LAUNCHER\_CLIENT\_PATH」です。値は、クライアントソフトウェアへのパスにします。

## 5.4 ClickShare Windows 認定ドライバ

### 一般情報

Windows PC に Button を接続すると、ClickShare Windows 認定ドライバが自動的にインストールされます。

この Windows ドライバは、Button 上の実行ファイルを自動的に起動します。

少なくとも 1.16.0 のバージョンが必要であることに注意してください。古いバージョンが PC にインストールされている場合は、PC に挿入した Button で Windows 更新 更新の確認を起動します。

## 5.5 ClickShare デスクトップアプリ

### 一般情報

コンピュータに ClickShare デスクトップ アプリをインストールすると、会議室に入り、Button に接続することなく数秒で画面に表示できます。ClickShare アプリは、Button と組み合わせて使用できます。

ClickShare デスクトップ アプリは、コンテンツを共有するために会議室の画面に接続します。そのために存在検出技術が使用されます。ClickShare デスクトップアプリは、プレゼンス検出技術を使用して、ユーザに

最も近い会議室を決定します。会議室名をクリックするだけです。つまり、会議室に接続する前に、IP アドレスを入力したり、会議室の長いリストをスクロールしたりする必要はありません。

Outlook を主議題として使用すると、次の会議の概要もすぐに表示されます。Outlook で予定を検索したり招待したりする必要はありません。[参加] をクリックするだけで、会議通話に参加できます。

## 設置

ClickShare デスクトップ アプリが IT 環境に事前配置されていない場合は、管理者権限なしで、[www.clickshare.app](http://www.clickshare.app) からソフトウェアをダウンロードしてインストールできます。



# CX-20 構成

# 6

6.1	構成へのアクセス	57
6.2	ClickShare 構成ウィザード	60
6.3	画面に表示されるID	62
6.4	カスタマイズ、壁紙	64
6.5	個人用設定、独自の壁紙	65
6.6	構成ファイルの管理	67
6.7	ディスプレイと音声設定	68
6.8	周辺機器	69
6.9	WiFi 設定	69
6.10	LAN 設定	73
6.11	LAN 設定、有線認証	75
6.12	LAN 設定、EAP-TLS セキュリティモード	76
6.13	LAN 設定、EAP-TTLS セキュリティモード	78
6.14	LAN 設定、PEAP セキュリティモード	79
6.15	サービス、モバイル装置	80
6.16	サービス、ClickShare API、API を使用したリモート コントロール	82
6.17	サービス、SNMP	83
6.18	セキュリティ、セキュリティ レベル	84
6.19	セキュリティ、パスワード	85
6.20	Base Unit のステータス情報	86
6.21	日時の設定、手動	87
6.22	日時の設定、タイム サーバー	89
6.23	省電力設定	89
6.24	Button	90
6.25	XMSクラウド統合	91
6.26	ファームウェア更新	92
6.27	サポートとアップデート、トラブルシューティング、ログ設定	94
6.28	トラブルシューティング、すべての設定を消去	95
6.29	工場出荷時の設定にリセット	95

## 構成について

デバイスの設定は、以下で行うことができます

- XMS クラウド
- ローカルのコンフィギュレーター

XMS クラウドのコンフィギュレーターは、ローカルのコンフィギュレーターよりも（時間内で）複雑になります。そのため、XMS クラウド経由でデバイスを設定することをお勧めします。詳細については、XMS ドキュメントを参照してください。

次のトピックでは、ローカルコンフィギュレーターについて説明します。



一部のメニューでは、コンフィギュレーターが *WebUI* として表示されます。例えば *WebUI* パスワードは、構成に入力するためのパスワードです。



## 6.1 構成へのアクセス

### 構成へのアクセス



構成にアクセスするには、以下の 3 つの方法があります：

- LAN を使用
- PC および Base Unit 間の直接 Ethernet 接続。
- Base Unit のワイヤレスネットワークを使用

構成への初回アクセス時には、ClickShare Configuration Wizard が自動的に起動します。

本構成ウィザードは、メニューを使用するかわりに、構成を変更するためにいつでも開始できます。

### LAN を使用して構成にアクセスするには

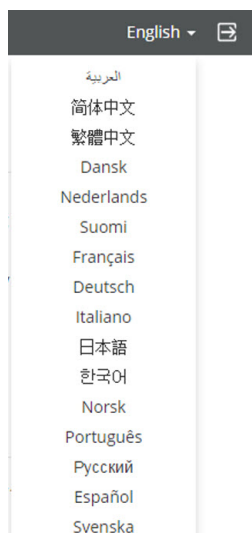
1. ブラウザーを開きます。
  -  **Note:** サポートするブラウザは、Internet Explorer、Firefox、Google Chrome、および Safari です。
2. デバイスの IP アドレスを参照します。
  -  **Note:** ネットワーク情報の表示が無効になっているために IP アドレスがわからない場合は、直接接続またはデバイスへのワイヤレス接続を介して接続し、有線 IP アドレスを検出します。

ログイン画面が表示されます。



画像 6-1 ログイン画面

3. 構成の言語を変更するには、現在選択されている言語の横にあるドロップダウンボックスをクリックし、目的の言語を選択します。



画像 6-2 構成で使用できる言語

以下の言語で表示できます。

- アラビア文字
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語
- デンマーク語
- オランダ語
- 英語
- フィンランド語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ノルウェー語
- ポルトガル語
- ロシア語
- スペイン語
- スウェーデン語

構成の言語が選択したものに変わります。

4. ユーザー名「admin」およびパスワードを入力し、EULA およびプライバシーポリシーを承諾して **[OK]** をクリックします。

デフォルトで、パスワードは「admin」に設定されています。

警告: コンフィギュレータにアクセスする他の誰かが ClickShare Base Unit の設定を変更できないように、最初の使用時にデフォルトパスワードを強力なパスワードに変更することを強く推奨します。 「セキュリティ、パスワード」項を参照してください。

コンフィギュレーターが開きます。



画像 6-3 起動画面

構成の言語は、インターフェイスのいずれのページでも変更できます。

この画面は、2つのウィンドウに分割されています。左側のウィンドウには選択ボタンがあり、右側のウィンドウでは選択した機能を構成します。

起動画面には以下が表示されます：

- 有線 IP アドレス
- ワイヤレス SSID
- 接続されている Button 数
- システムの状態



IP アドレスが見つからない場合 (画面を見ることができない場合など) は、Ethernet クロスオーバーケーブルを介して Base Unit を直接お使いのラップトップに接続し、固定 IP アドレス「192.168.1.23」を使って Web インターフェイスにアクセスしてください。お使いの LAN アダプターが 192.168.1.x の範囲に設定されていることを確認してください。


### 直接接続を使用して構成にアクセスするには

1. Ethernet ケーブルを使って、Base Unit をお使いのラップトップに接続します。
2. ラップトップでブラウザを開きます。
  - Note: サポートするブラウザは、Internet Explorer、Firefox、および Safari です。
3. <http://192.168.1.23> を参照してください。  
ログイン画面が表示されます。
4. ユーザー名「admin」およびパスワードを入力し、EULA を承諾して **[OK]** をクリックします。  
デフォルトで、パスワードは「admin」に設定されています。  
構成が開きます。有線 IP アドレスはスタートアップページに表示されます。

### Base Unit のワイヤレスネットワークを使用して構成にアクセスするには

1. ラップトップで、Base Unit のワイヤレス ネットワークに接続します。

Base Unit に接続するためのデフォルトの SSID およびパスワードは、「ClickShare-<製造ベース番号>」および「clickshare」です。

2. ラップトップでブラウザを開きます。
  -  Note: サポートするブラウザは、Internet Explorer、Firefox、および Safari です。
3. <http://192.168.2.1> を参照してください。  
ログイン画面が表示されます。
4. ユーザー名「admin」およびパスワードを入力し、EULA を承諾して **[OK]** をクリックします。  
デフォルトで、パスワードは「admin」に設定されています。  
構成が開きます。有線 IP アドレスはスタートアップページに表示されます。



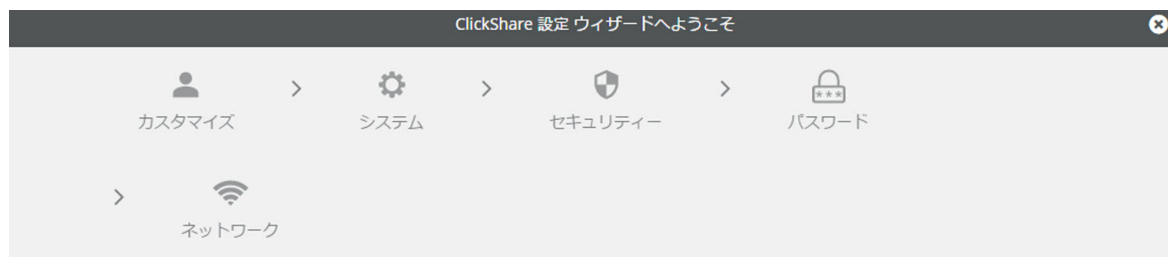
古いラップトップは 5 GHz 周波数帯域をサポートしないことがあります。お使いの Base Unit がその周波数範囲に設定されている場合、それらのラップトップはワイヤレスネットワークを使用して Base Unit に接続できません。

## 6.2 ClickShare 構成ウィザード

### 構成ウィザードについて

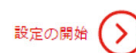
Base Unit の初回起動時、構成ウィザードが自動的に起動します。

Base Unit の構成に必要なすべての基本設定を、構成ウィザードで実行できます。構成ウィザードを完了すると、Base Unit を使用できます。



### ClickShare設定ウィザードへようこそ

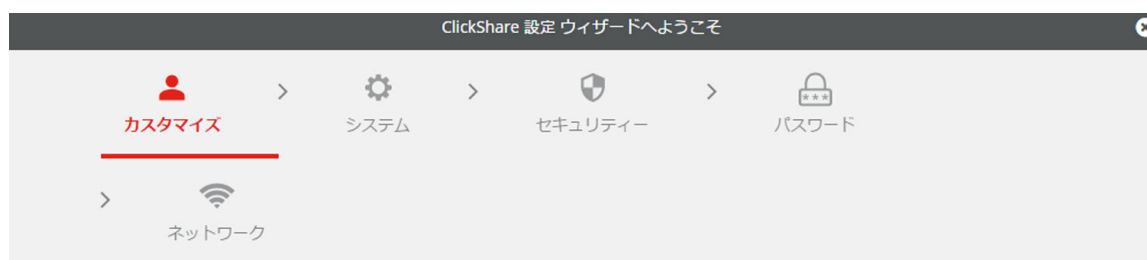
本ウィザードは ClickShare ベースユニットを設定する際の手順を案内します。  
「設定の開始」をクリックしてログインしてください。[閉じる]ボタンをクリックするといつでもウィザードを終了できます。



BARCO

画像 6-4 構成ウィザード

ウィザードを起動するには、**[構成を開始]** をクリックします。



## カスタマイズ

スクリーンに表示されるテキストの言語:

会議室名:

場所の名前:

ウェルカムメッセージ:

次へ

BARCO

画像 6-5 構成ウィザード、個人用設定

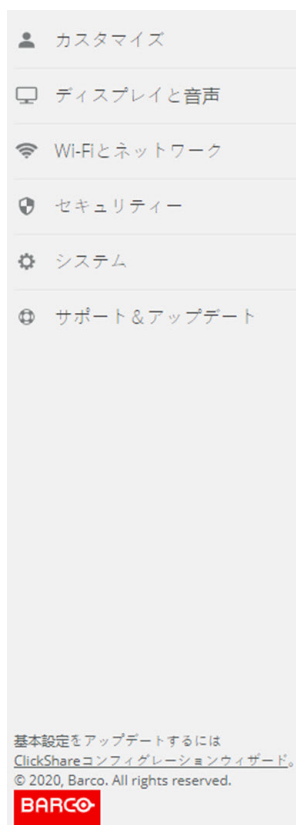
必須欄を入力し、[次へ]をクリックして続行します。

前のステップへ戻るには、[戻る]をクリックします。

特定のトピックについての詳細は、以下のトピックの1つを参照してください。

各画面の左下にある **ClickShare [構成ウィザード]** をクリックするだけで、いつでも ClickShare 構成ウィザードを起動し、構成を変更できます。

個人用設定	画面上テキスト言語	62 ページ、画面に表示されるIDを参照してください。
	会議室名、場所名、および歓迎メッセージ	62 ページ、画面に表示されるIDを参照してください。
システム	タイムゾーン、日時手動設定	87 ページ、日時の設定、手動を参照してください。
	NTP の使用	89 ページ、日時の設定、タイムサーバーを参照してください。
セキュリティ	レベル設定	84 ページ、セキュリティ、セキュリティレベルを参照してください。
パスワード	ClickShare 構成 (WebUI) パスワード	、を参照してください。
ネットワーク	周波数帯域、チャンネル Wi-Fi パスフレーズ	、を参照してください。



画像 6-6 構成ウィザード起動

## 各種設定

- 👤 壁紙の変更
⚙️ Base Unitのステータスを表示する。
- ⚙️ Buttonのステータスを表示する。
⚙️ 省エネ設定を変更する。
- 📄 ログファイルのダウンロード
🔧 コンフィグレーションウィザードを起動する。



## 6.3 画面に表示されるID

### デバイス識別について

以下のアイテムが設定できます:

- 画面上の言語。コンフィギュレーター言語とは別です。
- 会議室名
- 会議室の場所
- 会議室に表示されるウェルカムメッセージ
- ネットワーク情報を表示
  - チェックボックスをオンにする: 有線 IP アドレスやホスト名などの LAN 情報が表示されます。また Wi-Fi IP アドレスおよび SSID も表示されます。
  - チェックボックスをオフにする: LAN および WiFi 情報は表示されません (デフォルト設定)。



画像 6-7 オンスクリーン ID

## 画面上の言語選択

1. 構成にログインします。
2. [Personalisation (個人用設定)] → [On-Screen ID (オンスクリーン ID)] をクリックします。
3. オンスクリーン テキストの言語を選択します。[Language for on-screen text (オンスクリーン テキストで使用する言語)] の横にあるドロップダウン ボックスをクリックし、目的の言語を選択します。

以下の言語で表示できます。

- アラビア文字
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語
- デンマーク語
- オランダ語
- 英語
- フィンランド語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ノルウェー語
- ポルトガル語
- ロシア語
- スペイン語
- スウェーデン語

## 会議室名、場所、および歓迎メッセージ

1. 構成にログインします。
2. [Personalisation (個人用設定)] → [On-Screen ID (オンスクリーン ID)] をクリックします。
3. [Meeting room name (会議室名)] の横にある入力フィールドをクリックし、会議室の名前を入力します。

このテキストは、Button の共有準備が完了すると ([Ready to share on... (...で共有する準備ができました)] と表示されると)、ユーザの装置、Base Unit に接続された中央画面、ユーザの iOS 装置の AirPlay レシーバーの一覧に表示されます。

4. [Location name (場所名)] の横にある入力フィールドをクリックし、場所を入力します。
5. [Welcome message (歓迎メッセージ)] の横にある入力フィールドをクリックし、希望のメッセージを入力してください。

## 6.4 カスタマイズ、壁紙

### 壁紙について

CX-20 が起動すると背景 (壁紙) が表示されます。この背景壁紙の表示は、無効にすることが可能です。

デフォルトでは、2つの一般的な ClickShare 壁紙を使用できます。独自の背景 (壁紙) をアップロードすることも可能です。デフォルトの壁紙は、システムから削除できません。

### 壁紙の選択

1. 構成にログインします。
2. [Personalisation (個人用設定)] → [Wallpaper (壁紙)] をクリックします。



画像 6-8

[Wallpaper (壁紙)] 選択ペインが表示されます。現在選択されている壁紙は、赤色の枠付きで表示されます。

3. 選択可能な壁紙のいずれかを選択し、[Save Changes (変更の保存)] をクリックします。



**Note:** デフォルトでは、2つの一般的な Barco 壁紙がご利用いただけます。壁紙はスクリーンの縦横比に合わせて自動的にサイズ変更されます。

選択されている壁紙は、赤色の枠付きで表示されます。

壁紙を選択するウィンドウの上部に [Successfully applied changes (変更が適用されました)] というメッセージが表示されます。



また、独自の壁紙 (貴社のロゴなど) を追加することもできます。一覧に新しい壁紙を追加する方法の詳細は、65 ページ、個人用設定、独自の壁紙 をご参照ください。を参照してください。



## 壁紙のダウンロード

1. カーソルをダウンロードする壁紙の上に置き、右上隅にあるダウンロード記号をクリックします。



画像 6-9 壁紙のダウンロード

壁紙がお使いの PC にダウンロードされました。

## 壁紙の有効化 - 無効化

1. [Wallpaper (壁紙)] ペイン内で、[Show the wallpaper when no one is sharing their screen (画面が共有されていない場合のみ壁紙を表示する)] の横にあるチェックボックスをオンにします。

チェックボックスをオンにする: コンテンツが共有されていない場合のみ壁紙が表示されます。

チェックボックスをオフにする: コンテンツが共有されていない場合も壁紙は表示されません。コンテンツが共有されていない場合、Base Unit のビデオ出力は無効になります。この機能は、Base Unit がより大型の AK システムに統合されている場合に特に便利です。

## 6.5 個人用設定、独自の壁紙

### アップロード方法

1. 構成にログインします。
2. [Personalisation (個人用設定)] → [Wallpaper (壁紙)] をクリックします。  
[Wallpaper (壁紙)] 選択ペインが表示されます。現在選択されている壁紙は、赤色の枠付きで表示されます。
3. 何も無い場所にカーソルを置き、[Choose image (画像の選択)] をクリックします。



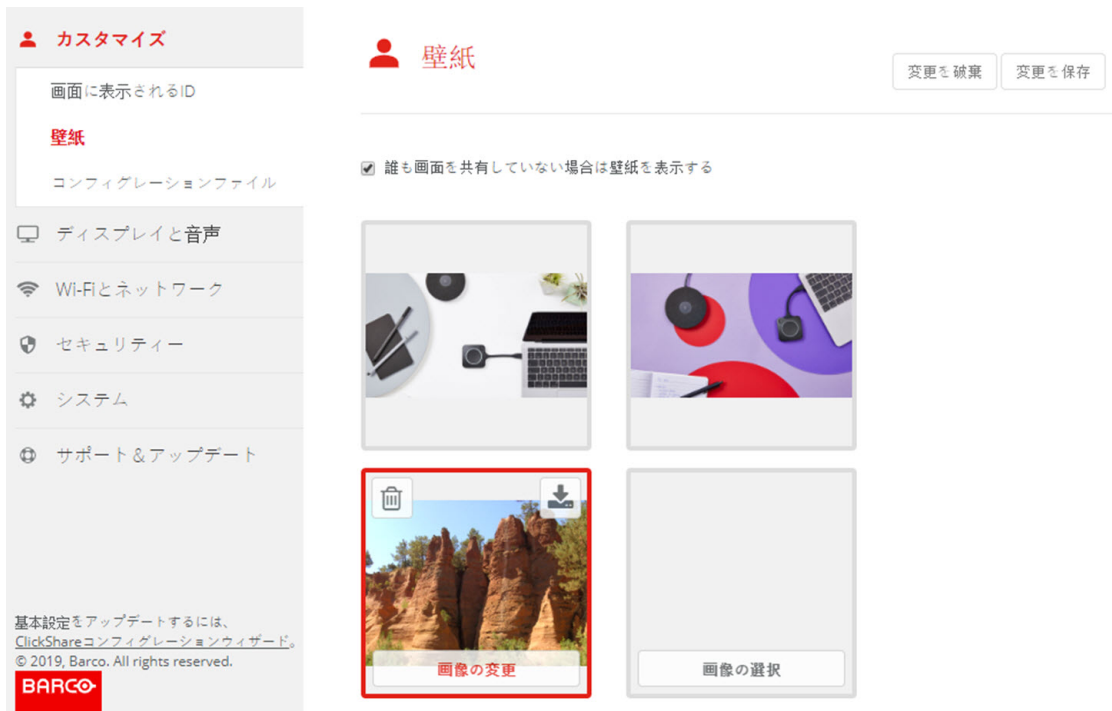
画像 6-10 独自の壁紙の選択

参照のためのウィンドウが開きます。

4. 目的の画像を参照し、[Open (開く)] をクリックしてその画像を読み込みます。  
ファイルのコンテンツが確認され、(形式およびサイズが) 有効である場合はファイルがアップロードされます。新しい壁紙が赤色の枠付きで表示されます。
5. [Save changes (変更の保存)] をクリックして独自の壁紙を適用します。  
ページの上部に [Successfully applied change (変更が適用されました)] というメッセージが表示されます。

## 独自の画像の変更

1. [Personalisation (個人用設定)] → [Wallpaper (壁紙)] をクリックします。
2. 現在の独自の画像にカーソルを置き、[Change image (画像の変更)] をクリックします。

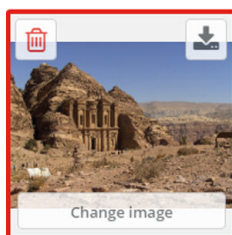


画像 6-11 画像の変更

3. 目的の画像を参照し、[Open (開く)] をクリックしてその画像を読み込みます。  
ファイルのコンテンツが確認され、(形式およびサイズが) 有効である場合はファイルがアップロードされます。新しい壁紙が赤色の枠付きで表示されます。
4. [Save changes (変更の保存)] をクリックして独自の壁紙を適用し、以前のファイルを置き換えます。  
ページの上部に [Successfully applied change (変更が適用されました)] というメッセージが表示されます。

## 独自の壁紙の削除

1. 現在の画像にカーソルを置き、ゴミ箱をクリックして画像を削除します。



画像 6-12 壁紙の削除

独自の壁紙が削除され、デフォルトの壁紙がアクティブ化されました。

## 6.6 構成ファイルの管理

### 構成ファイルの管理について

完全バックアップはダウンロードできますが、構成設定を別の Base Unit の位置にあり複製するために使用することはできません。そのため、ポータブルバージョンをダウンロードすることが可能です。この Portable Version は、別の Base Unit にある [Configuration Button (構成のアップロード)] ボタンを使用してアップロードできます。同じボタンを使用して、元の Base Unit で完全バックアップをアップロードできます。

Portable バックアップには以下が含まれています：

- 壁紙
- 壁紙の設定
- ログの設定
- すべてのディスプレイ設定
- OSD 言語
- 場所
- ウェルカムメッセージ
- WiFi チャンネル
- WiFi 周波数

### 構成ファイルを管理するには

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Personalisation (個人用設定)] → [Configuration Files (構成ファイル)] をクリックします。



画像 6-13 構成ファイル

3. 完全バックアップをダウンロードするには、[Full Backup (完全バックアップ)] をクリックします。  
すべての情報および履歴を含む xml ファイルがダウンロードされます。このファイルは、同じ Base Unit でのみ再使用可能です。
4. Portable Version をダウンロードするには、[Portable Version] をクリックします。

別の Base Unit で設定を複製するためのポータブル情報を含む xml ファイルがダウンロードされます。

5. 構成をアップロードするには、[Upload Configuration (構成のアップロード)] をクリックします。

参照のためのウィンドウが開きます。アップロードするファイル (xml ファイル) に移動し、[Open (開く)] をクリックするとアップロードされます。

完全バックアップは、バックアップが作成された Base Unit でアップロードできます。Portable Version は、同じモデルの別の Base Unit のいずれでもアップロードできます。



構成ファイルをアップロードすると、ソフトウェアの更新履歴とペアリングされた Button は失われます。ただし、Base Unit の SSID またはワイヤレスパスワードが変更されていない場合、ペアリングされた Button はそのまま機能します。

## 6.7 ディスプレイと音声設定

### 解像度

ディスプレイの出力解像度は [Auto (自動)] に設定されています。これは、CX-20 の出力解像度がディスプレイの解像度に合わせて自動的に調整されるということです。HDMI ディスプレイの場合は、ホットプラグ検出を利用できます。

### HDMI ホットプラグ表示検出

HDMI ホットプラグ表示検出を有効にするには、HDMI ホットプラグ表示検出の前にチェックボックスをオンにします。

### CEC

Consumer Electronics Control (CEC) は、ユーザーが 1 つのリモートコントロールのみを使用して、HDMI で接続されたデバイスをユーザーが命令および制御できるように設計された HDMI の機能です。

CEC を有効化するには、[CEC の有効化] の前のチェックボックスにチェックを入れます。

### オーディオ

音声出力を有効または無効にします。

音声出力を有効にするには、有効化の前にあるチェックボックスにチェックを入れます。

### スクリーンセーバーのセットアップ

1. コンフィギュレータにログインします。



画像 6-14

2. [Display & Audio (ディスプレイと音声)] → [Display & Audio (ディスプレイと音声)] をクリックします。
3. スクリーンセーバーをアクティブ化するには、目的の遅延時間になるまで、スライダーを左右にドラッグします。  
スライダーが最も左側に設定されている場合は、スクリーンセーバーはアクティブ化されません。
4. [Save changes (変更の保存)] をクリックします。

## 6.8 周辺機器

### 概要

ClickShare 会議室で、スピーカフォン、マイク、およびカメラのワイヤレスをラップトップに接続し、ビデオ会議通話で会議室のより良い機器を使用できます。

周辺機器ページには、接続されているデバイスとそのステータスの概要が表示されます。

### 入手方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. ディスプレイとオーディオ → 周辺機器 をクリックします。  
スピーカフォンデバイス、マイクとスピーカ、カメラデバイスのステータスの概要が表示されます。

## 6.9 WiFi 設定



**警告:** Base Unit を対象地域外で操作することは許可されていません。

### WiFi について

Base Unitにはワイヤレス接続を使用して接続できます。接続は、固定ワイヤレス IP アドレスを使って確立します。

ワイヤレス信号の伝搬力は弱くなっている場合があります。

Wi-Fi 設定 (Wi-Fi Settings) が選択され、動作モードがアクセスポイント (Access Point) の場合、現在の設定の概要が表示されます。



画像 6-15 Wi-Fi 設定

操作モードが オフ に設定されている場合。表示される情報は以下のとおりです: 「アクセスポイントを無効にする場合、Button を企業ネットワークに統合する必要があります。これはまだサポートされていません。」

ここをクリックし、Button 構成を開始します。詳細は、90 ページ、Button をご参照ください。を参照してください。

WiFi 設定を変更するには、[設定の編集 (Edit settings)] をクリックします。表示は、以前選択した動作モードによります。ここでは、[アクセスポイント (Access Point)] が選択されています。

画像 6-16 WiFi 設定、編集



IP アドレスを変更した後は、この Base Unit で使用している Button を再度ペアリングする必要があります。

## 動作モードの変更

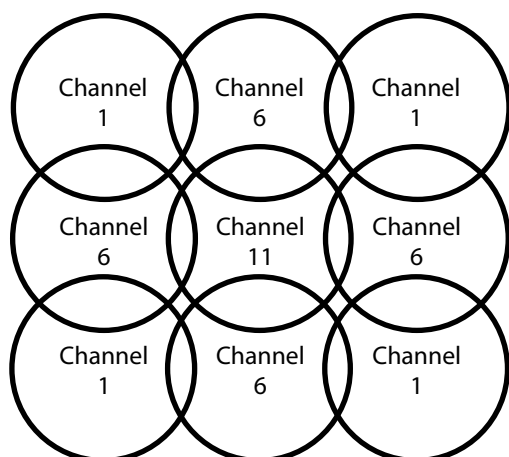
1. コンフィギュレータにログインします。
2. [WiFiとネットワーク (WiFi & Network)] → [WiFi 設定 (WiFi Settings)] をクリックします。
3. 設定の編集 をクリックします。
4. [動作モード (Operational Mode)] の隣にあるドロップダウンボックスをクリックし、目的のモードを選択します。

以下のオプションが利用できます：

- アクセスポイント: このトピックの次のブロックに進みます。
- オフ

## 周波数帯域とチャンネルの選択について

理想的な設定では、重複するチャンネルは、互いに範囲内にある 2 つの ClickShare Base Unit で使用しないでください。2.4 Ghz 帯域のチャンネルは互いに重複しているため、最良慣行は、単一フロアでチャンネル 1、6、および 11 を使用することです。上下の階では、たとえば図のパターンの中心にチャンネル 6 を配置することにより、階間の重なりを避けるためにチャンネルパターンがシフトされます。



画像 6-17

5 GHz チャンネルは、互いに重複せず、2.4 GHz チャンネルよりも非 Wi-Fi 装置で使用されることが少なくなります。さらに、5 GHz 信号は 2.4 GHz 信号よりも急速に減衰します。したがって、5 GHz チャンネルの使用が推奨されます。これにより、設置されている他の ClickShare ユニットおよび他の WLAN ユーザーに対する ClickShare システムの影響が制限されます。

### 周波数帯域とチャンネルの選択

1. ワイヤレス接続チャンネルを選択するには、ドロップダウンボックスをクリックして目的のチャンネルを選択します。

一覧で選択できるチャンネルは、Base Unit の地域版によって異なります。周波数帯域やワイヤレス接続チャンネルの変更する場合、Button を再度ペアリングする必要はありません。

理想的には、ワイヤレスサイト調査を実施した後に、ClickShare チャンネルを選択します。サイト調査では、干渉源とアクティブな RF システムをマッピングします。いくつかの Wi-Fi 調査ツールが市販されています。サイト調査の結果に基づき、各会議室で最も占有率の低いチャンネルを見つけて選択できます。

2. ワイヤレス接続の周波数帯域を選択するには、ドロップダウンボックスをクリックして適切な設定（「2.4 GHz」または「5 GHz」のいずれか）を選択します。

チャンネル選択ウィンドウの下に、現在のチャンネルで利用可能な帯域幅の指示が表示されます。十分な帯域幅が別のチャンネルで利用できるかどうかを確認するには、ドロップダウンでチャンネルを選択して変更内容を保存します。ページは新しい設定でリロードされ、約 1 分後にチャンネルのフィットが表示されます。結果を見るためにページをリロードする必要はありません。

一覧で選択できるチャンネルは、Base Unit の地域版によって異なります。周波数帯域やワイヤレス接続チャンネルの変更する場合、Button を再度ペアリングする必要はありません。

Intense を使用すると、別の WiFi チャンネルへの変更が表示され、別のチャンネルに変更されます。約 1 分後にページがリロードされます。

### SSID とパスワード

1. ワイヤレスネットワークのパブリック名 (SSID) を入力します。  
デフォルトの SSID は *ClickShare-  
<製造番号 Base Unit>* です。
2. この SSID をブロードキャストするには、[SSID のブロードキャストを有効化する (*Enable SSID broadcast*)] の前にあるチェックボックスをオンにします。
3. 新しい WiFi パスフレーズを入力し、そのパスワードを確認します。



注意: 他の誰かが Wi-Fi ネットワークにアクセスしないようにするには、最初の使用時に Wi-Fi パスワードを変更することを強くお勧めします。

### WiFi を使用した ClickShare コンフィギュレーターへのアクセス

1. WiFi を介したコンフィギュレーターへのアクセスを許可するには、[WebUI を WiFi 経由で利用可能にする] の前にあるチェックボックスをオンにします。




チェックボックスをオンにする: Wi-Fi を使用して構成にアクセスできます。

チェックボックスをオフにする: Wi-Fi を使用した構成へのアクセスはブロックされます。

## IP アドレスとサブネットマスク

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Wi-Fi とネットワーク (Wi-Fi & Network)] → [Wi-Fi 設定 (WiFi Settings)] をクリックします。
3. IP アドレスまたはサブネットマスクを変更するには、入力フィールドをクリックして、新しい IP アドレスまたはサブネットマスクの 4 つの数値を入力します。

 **Note:** 固定 IP アドレスを割り当てる場合、0.0.0.0 は指定できません。

## 6.10 LAN 設定

### LAN ネットワーク設定について

ネットワーク接続は、DHCP を介して、または固定 IP アドレスを手作業で入力することによって設定できます。

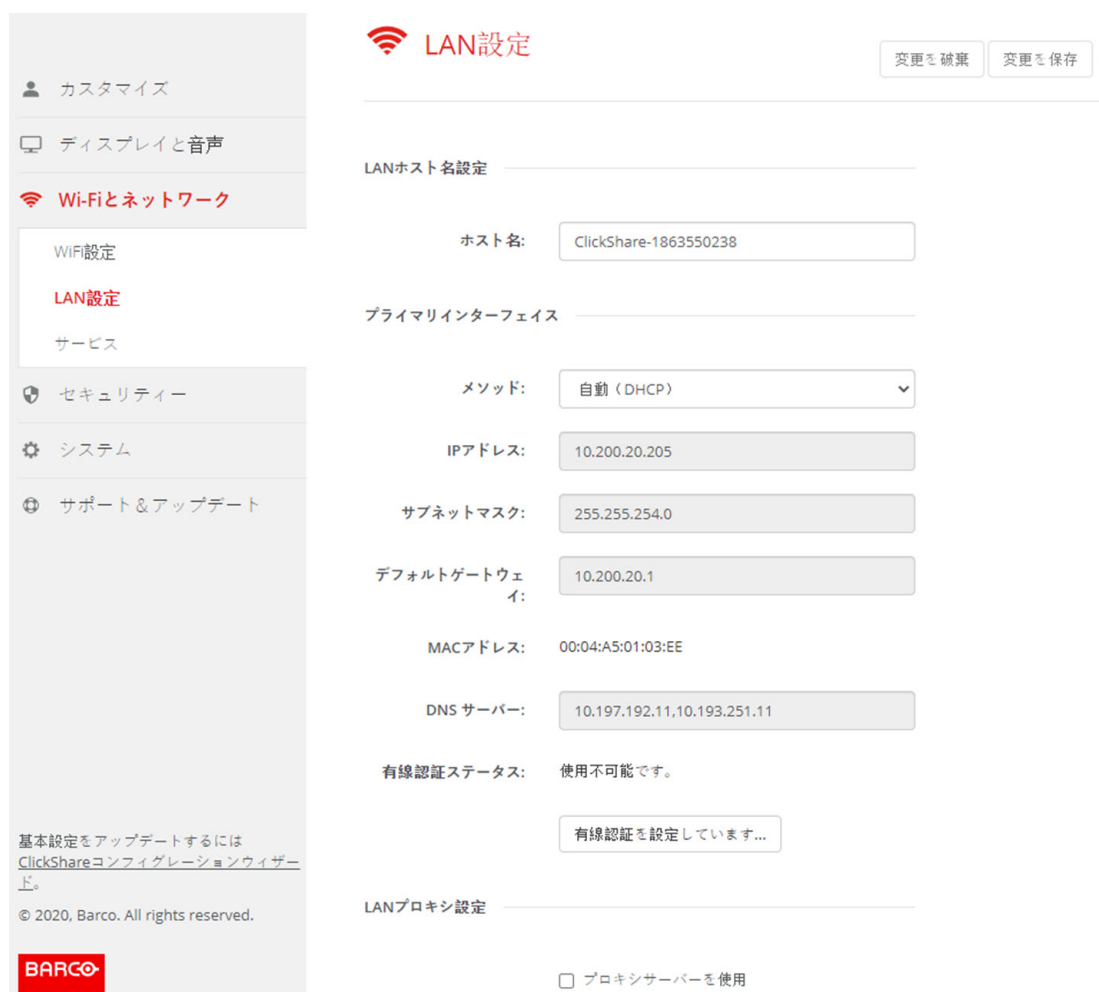
#### DHCP



動的ホスト構成プロトコル (Dynamic host configuration protocol)。DHCP とは、ネットワーク管理者が組織のネットワークの IP アドレスの管理と割り当てを集中的に行える通信プロトコルです。インターネットプロトコルを使用する場合、インターネットに接続可能な各コンピュータに一意的 IP アドレスが必要となります。組織でインターネットに接続可能なコンピュータを設定する際には、各コンピュータに IP アドレスを設定する必要があります。DHCP を使用しない場合、IP アドレスを各コンピュータに手作業で入力しなければならず、またコンピュータをネットワークの異なる部分の別の場所に移す際には再度 IP アドレスを入力しなければなりません。DHCP を使用すると、ネットワーク管理者は集中的に IP アドレスの監視と割り当てを行えます。また、コンピュータがネットワークの別の場所に接続されると、新しい IP アドレスが自動的に送信されません。

### ホスト名と方法


1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Wi-Fi とネットワーク (Wi-Fi & Network)] → [LAN 設定 (LAN Settings)] をクリックします。




画像 6-18 LAN 設定


3. [ホスト名 (Hostname)] の横にある入力フィールドをクリックし、Base Unit のホスト名を入力します。デフォルトのホスト名は「ClickShare-<製造番号 Base Unit>」です。
4. 方法を選択するには、[方法 (Method)] の横にあるドロップダウンボックスをクリックし、[自動 (DHCP) (Automatic (DHCP))] または [手動 (Manual)] を選択します。  
[自動 (DHCP)] を選択すると、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの各フィールドが灰色表示になり、現在使用している設定が自動的に入力されます。
5. [変更の保存 (Save changes)] をクリックして設定を適用します。

### 手動 (固定) IP アドレス

1. [方法 (Method)] の横にあるドロップダウンボックスをクリックし、[手動 (Manual)] を選択します。IP アドレス、サブネット、ゲートウェイの各入力フィールドがアクティブ化されます。
2. [IP アドレス (IP address)] 入力フィールドをクリックし、4 つの数値を入力します。  
 **Note:** 1 つのアドレスは、255 以下の値の 4 つの数値で構成されます。  
固定 IP アドレスを割り当てる場合は、0.0.0.0 以外を指定する必要があります。
3. [サブネットマスク (Subnet mask)] 入力フィールドをクリックし、ローカルサブネットとして 4 つの数値に値を入力します。
4. [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] 入力フィールドをクリックし、4 つの数値に値を入力します。このデフォルトゲートウェイは、ルーターの IP アドレスに設定します (ローカルサブネット上にある必要があります)。

- Note:** 0.0.0.0 以外である必要があります。  
 ローカルサブネット上にルーターが存在しない場合は、このフィールドをサブネット上の任意の IP アドレスに設定します。

- DNS サーバー 入力フィールドをクリックし、優先 DNS サーバー (最大 5) をコンマ区切りのリストで入力します。
- [変更の保存 (Save changes)] をクリックして設定を適用します。

 サブネットマスク 255.255.255.0 には IP アドレス 192.168.2.x、サブネットマスク 255.255.0.0 には IP アドレス 192.168.x.x を使用しないでください。

## プロキシサーバーを使用する

この設定は、インターネットアクセスを必要とする Base Unit の自動更新機能を利用する際に重要です。

- [プロキシサーバーを使用する (Use a proxy server)] の横にあるチェックボックスをオンにします。

プロキシサーバーを使用

サーバーアドレス:

サーバーポート (オプション):

ユーザー名 (オプション):

パスワード (オプション):

画像 6-19 プロキシ設定

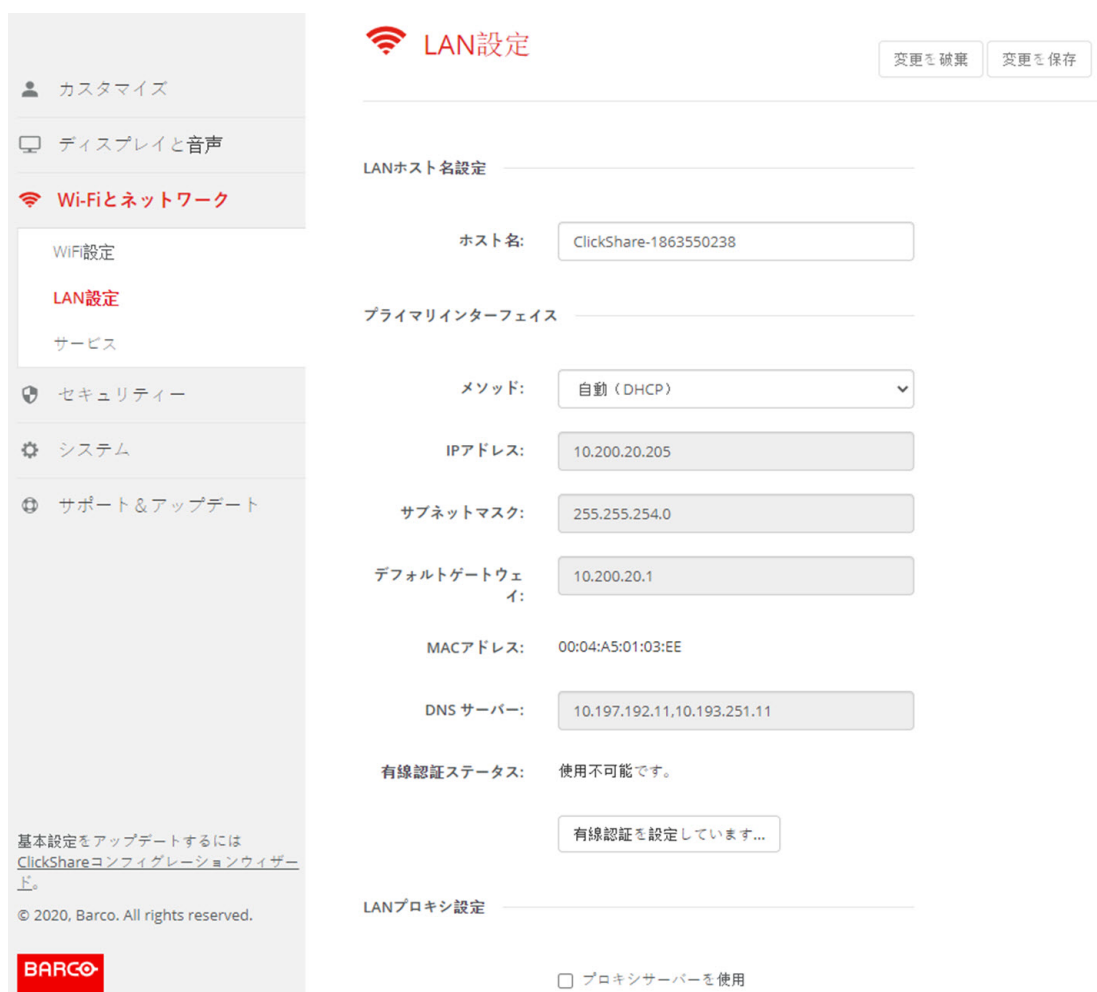
[プロキシ設定] の入力が可能になります。

- プロキシサーバーのアドレスを入力します。IP アドレスまたはホスト名を入力します。  
一部のプロキシサーバーではポート番号、ユーザー名、パスワードの入力が必須ですが、それ以外の場合はオプションです。
- オプションで、使用するサーバーポートを入力します。
- オプションで、ユーザー名を入力します。
- オプションで、パスワードを入力します。
- [変更の保存 (Save changes)] をクリックして設定を適用します。

## 6.11 LAN 設定、有線認証

### 設定方法

- 有線認証のセットアップ... をクリックします。。



画像 6-20 有線認証

設定ウィザードが起動します。

## 2. 認証方法を選択します。ドロップダウンをクリックし、希望の方法を選択します。

以下の方法が使用可能です。

- 認証なし：有線インターフェースには認証メカニズムは適用されません。
- EAP-TLS
- EAP-TTLS
- PEAP

## 6.12 LAN 設定、EAP-TLS セキュリティモード

### EAP-TLS について

EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) は、クライアントおよびサーバー間の相互認証を可能にする証明書に基づく EAP メソッドの 1 つです。サーバーおよびクライアント証明書を配布するための PKI (公開キーインフラストラクチャ) が必要です。一部の企業ではこれが大きな障害となり、その場合は代わりに EAP-TTLS および PEAP を利用します。規格では X.509 クライアントの証明書が厳格に求められているわけではありませんが、ClickShare を含むほとんどの実装ではそれが必須となっています。クライアント証明書を使って実装する場合、EAP-TLS は最も安全な EAP メソッドの 1 つであると考えられています。PEAP および EAP-TTLS と比較した場合の唯一の小さなデメリットは、ユーザー ID が実際の TLS ハンドシェイクが行われる前に暗号化されずに送信されることです。EAP-TLS には、SCEP を使用することで、または証明書を手動でアップロードすることで対応しています。

### EAP-TLS の設定方法

#### 1. 認証モード EAP-TLS を選択します。

画像 6-21 EAP-TLS

2. ドメインと ID を入力します。
3. 証明方法を選択します。ドロップダウンボックスをクリックし、希望の方法を選択します。
  - クライアントおよび CA 証明書を手動で提供する
  - SCEP 経由で自動登録

### 証明書を手動で提供

1. クライアント証明書をアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、目的のファイルを参照します。
 

許可されているファイル形式：

  - .pfx (PKCS#12)
  - .p12 (Base64 エンコード DER)

少なくともクライアント証明書と対応する秘密鍵を含める必要があります。
2. クライアント証明書のパスワードを入力します。
3. CA 証明書をアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、目的のファイルを参照します。
 

次の形式が許可されます。

  - .pem
  - .cer
  - .crt
  - .pb7 ( Base64 エンコード DER )

ファイルには、少なくともドメインのルート CA 証明書が含まれている必要があります。
4. 構成の保存

### SCEP の使用

簡易証明書登録プロトコル (SCEP) は、拡張可能な方法で証明書を発行および無効にすることができるプロトコルです。SCEP サポートにより、ClickShare Base Unit および Button の企業ネットワークへの統合がより迅速でスムーズになります。ほとんどの企業は Microsoft Windows Server およびそのアクティブ ディレクトリ (AD) を使用してユーザーおよび装置を管理しているため、当社の SCEP 実装は、Windows Server 2008 R2 および Windows Server 2012 の一部であるネットワーク デバイス登録サービス (NDES) で特に対

象とされています。NDES/SCEP 登録に使用できるパラメータを拡張することで、他の汎用サーバの初期サポートが利用できます。

画像 6-22 EAP-TLS — SCEP

SCEP ServerIP/ホスト名	これは、NDES サービスが稼働しているネットワークにある Windows Server の IP またはホスト名です。デフォルトでは、HTTP が使用されます。 例: http://myserver or http://10.192.5.1
SCEP ユーザー名	これは、NDES にアクセスし、チャレンジ パスワードを要求するために必要な許可が与えられている、お使いの Active Directory のユーザーです。このためにユーザーは、CA 管理者グループに属す (スタンドアロン CA の場合) か、所定の証明書テンプレートで登録許可を得る必要があります。
SCEP パスワード	企業ネットワークで認証に使用している ID に呼応するパスワードです。Base Unit ごとに、Button はそれぞれ、同じ ID およびパスワードを使用して企業ネットワークに接続します。

[構成の保存 (Save configuration)] をクリックして設定を保存します。

## 6.13 LAN 設定、EAP-TTLS セキュリティモード

### EAP-TTLS について

EAP-TTLS (トンネル化トランスポート層セキュリティ) は、Juniper Networks 社による EAP 実装です。EAP-TLS と同程度強力な認証を提供しますが、それぞれのユーザーに対して証明書を発行する必要はありません。証明書の発行を受ける代わりに、認証サーバーが発行された証明書の役割を果たします。ユーザー認証はパスワードによって行われますが、そのパスワード資格情報は、サーバー証明書に基づいて確立された安全に暗号化されたトンネル内で送信されます。

ユーザー認証は、既に企業 LAN で使用されているのと同じセキュリティ データベースに対して行われます。たとえば、SQL または LDAP データベースやトークン システムなどです。EAP-TTLS は通常クライアント証明書なしで企業環境において実装されるため、クライアント証明書の使用はサポートされていません。ユーザーごとにクライアント証明書を使用する場合は、EAP-TLS を使用することを推奨します。

### EAP-TTLS の設定方法

1. 認証モード EAP-TTLS を選択します。

画像 6-23 EAP-TTLS

## 2. ドメインと ID を入力します。

**ドメイン** 登録している企業ドメインは、Active Directory で定義されているものと一致している必要があります。

**ID** Active Directory のユーザアカウント IDで、企業ネットワークに接続する際に ClickShare Button が使用します。

## 3. パスワードを入力します。

LAN ネットワークで認証に使用している ID に呼応するパスワードです。Base Unit ごとに、それぞれの Button が同じ ID およびパスワードを使用して企業ネットワークに接続します。

## 4. オプションで、CA 証明書をアップロードします。

次の形式が許可されます。

- .pem
- .cer
- .crt
- .p7b ( Base64 エンコード DER )

ファイルには、少なくともドメインのルート CA 証明書が含まれている必要があります。

## 5. [Save configuration (構成の保存)] をクリックします。

# 6.14 LAN 設定、PEAP セキュリティモード

## PEAP の設定方法

### 1. 認証モード PEAP を選択します。

画像 6-24 PEAP

## 2. ドメインと ID を入力します。

ドメイン	登録している企業ドメインは、Active Directory で定義されているものと一致している必要があります。
ID	Active Directory のユーザアカウント IDで、企業ネットワークに接続する際に ClickShare Button が使用します。

## 3. 匿名 ID : 認証プロセス中に匿名 ID を使用するには、このフィールドを空のままにします。

## 4. パスワードを入力します。

LAN ネットワークで認証に使用している ID に呼応するパスワードです。Base Unit ごとに、それぞれの Button が同じ ID およびパスワードを使用して企業ネットワークに接続します。

## 5. オプションで、CA 証明書をアップロードします。

次の形式が許可されます。

- .pem
- .cer
- .crt
- .p7b ( Base64 エンコード DER )

ファイルには、少なくともドメインのルート CA 証明書が含まれている必要があります。

## 6. [Save configuration (構成の保存)] をクリックします。

# 6.15 サービス、モバイル装置

## ClickShare アプリ

ClickShareアプリはデフォルトで有効になっており、モバイルデバイスと Base Unit の接続が可能になります。



## Airplay を介したストリーミング情報について

情報をストリーミングして ClickShare に表示するには、その前にお使いの装置を Base Unit のワイヤレスネットワークに接続する必要があります。その後、お使いの装置で AirPlay をアクティブ化します。AirPlay をアクティブ化する方法の詳細については、お使いの装置のユーザーガイドを参照してください。

AirPlay のサポートされるバージョンは Barco の Web サイト [www.barco.com/clickshare](http://www.barco.com/clickshare) で入手できます。これらのプロトコルの非リリース版のサポートは、Barco により保証できません。

## Google Cast を介したストリーミングについて

情報をミラーリングして ClickShare に表示するには、その前にお使いの装置を Base Unit のワイヤレスネットワークに接続する必要があります。デバイスで Google Cast をアクティブ化すると、アクセスポイントの概要が与えられます。Google Cast の使用についての詳細は、デバイスのユーザーガイドを参照してください。

Google Cast のサポートバージョンは Barco の Web サイト [www.barco.com/clickshare](http://www.barco.com/clickshare) で入手できます。これらのプロトコルの非リリース版のサポートは、Barco により保証できません。

Google Cast は、パスコードに対応していません。



Google Cast は、Base Unit の時計が正しく設定されている場合のみ使用可能です。正しく設定されていない場合、Google Cast は Base Unit と接続できません。

## パスコードのタイプ選択

1. コンフィギュレータにログインします。
2. *WiFi & Network* (WiFiとネットワーク) → *Services* (サービス) をクリックします。



画像 6-25 サービス、モバイル装置

3. ClickShare アプリ経由でコンテンツを共有できるようにするために、ClickShare アプリ経由で共有がデフォルトで有効になっており、変更できません。

AirPlay を使用したストリーミングを許可するには、[AirPlay を使用してストリーミング (Streaming via AirPlay)] の前にあるチェックボックスをオンにします。

Google Cast を使用したストリーミングを許可するには、[Google Cast を使用してストリーミング (Streaming via Google Cast)] の前にあるチェックボックスをオンにします。

4. ドロップダウンボックスをクリックし、希望のパスコードのタイプを選択します。
  - パスコードなし
  - 数字のパスコード

## 6.16 サービス、ClickShare API、API を使用したリモートコントロール

### API 設定について

API は有効化または無効化できます。つまり、外部装置からユニットにアクセスしたり、そのアクセスをブロックしたりすることが可能です。

この機能は、デフォルトで有効化されています。

### API ドキュメント

API ドキュメントは、Base Unit に含まれています。API ドキュメントの表示をクリックするだけで、ドキュメントにアクセスできます。Base Unit に保存されているドキュメントにアクセスするには、ユーザー名とパスワードを入力します。



デフォルトのユーザー名とパスワードは、コンフィギュレーター ( admin/admin ) と同じです。これは、セキュリティ → パスワードで変更できます。

ClickShare API

API経由でのリモートコントロール

APIドキュメントの表示

画像 6-26 ClickShare API とドキュメント

### API を使用したリモートコントロールを有効にする方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. *WiFi & Network* ( *WiFi* とネットワーク ) → *Services* ( サービス ) をクリックします。
3. この機能を有効化するには、[ *Remote control via API* ( API を使用してリモート コントロールする ) ] の前にあるチェックボックスをオンにします。

このチェックボックスは、通常、デフォルトでオンになっています。

チェックボックスをオンにする: API を使用したリモート コントロールが可能になります。パスワードを使ってアクセスを保護できます。

チェックボックスをオフにする: API を使用したリモート コントロールは利用できません。

### API ドキュメントについて

サードパーティによる統合用の完全な API ドキュメントは、Base Unit に保存され、ユーザー名とパスワードで保護されます。

### API ドキュメントの表示方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. API ドキュメントの表示をクリックします。
3. ユーザー名およびパスワードを入力して [ **OK** ] をクリックします。  
ドキュメントはクリック可能な HTML ページとして表示されます。

## 6.17 サービス、SNMP

### SNMP について

Simple Network Management Protocol (SNMP) は、IP ネットワーク上の管理対象デバイスに関する情報を収集および整理し、その情報を変更してデバイスの動作を変更するためのインターネット標準プロトコルです。一般的に、SNMP 管理スイート (サーバー上で実行) は、SNMP エージェント (デバイス上で実行) と通信を行います。SNMP エージェントは、MIB (Management Information Base) に基づいて変数の形式でデバイス情報を収集して公開します。SNMP 管理スイートは、SNMP プロトコルを介して ClickShare デバイスにアクセスし、デバイス情報を要求できます。

SNMPv3 がサポートされています。

### 表示方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. *WiFi & Network* ( *WiFi* とネットワーク ) → *Services* ( サービス ) をクリックします。
3. *SNMP* までスクロールします。

画像 6-27 サービス、SNMP

4. [有効にする] の前にあるチェックボックスにチェックを入れます。  
構成フィールドが使用可能になります。

### 設定方法

1. デフォルトのエンジン ID を使用する場合は、デフォルトのエンジン ID を使用 の前にあるチェックボックスにチェックが入っていることを確認します。

デフォルトのエンジン ID は、Barco Enterprise Number と MAC アドレス (eth0) を組み合わせたものです。

2. *SNMP* マネージャーのアドレスを入力します。

これは、TRAP イベント / メッセージを受信するホストアドレスです。  
可能なトラップは次のとおりです。

- CPU 温度がしきい値を超えたことを示すアラーム CPU 温度トラップ。
- ケースファンの回転が遅すぎることを示す Alarm Case Fan Speed トラップ。
- 監視対象プロセスの1つが実行されていないことを示す Alarm Process Not Running トラップ。

3. ユーザー名を入力します。
4. 新しいパスワードを入力し、そのパスワードを確認します。

## 6.18 セキュリティ、セキュリティ レベル

### セキュリティ レベルについて

ClickShare システムの使用においては、セキュリティ レベルを設定できます。デフォルトで、レベル 1 がアクティブ化されています。セキュリティ レベルは事前定義された設定であり、レベルを選択すると自動的に設定されます。

レベル 1: あらゆる組織での一般的かつ日常的な操作をサポートします。

レベル 1 には、以下に示す標準セキュリティ オプションと音声およびビデオデータの暗号化が含まれています。

標準セキュリティ オプション:

- PIN コードによるアクティブ化 (モバイルアプリおよび Button)、
- ログイン管理を伴う HTTPS を介した ClickShare 構成 (WebUI) アクセス、
- ワイヤレス ClickShare 構成 (WebUI) アクセスなし、
- Wi-Fi ネットワークの SSID は非表示。

レベル 2: このレベルでは、より高度なセキュリティが提供されます。セキュリティの問題により敏感な組織に適しています。

レベル 2 では、レベル 1 のセキュリティに加え、モバイル装置の PIN コードが必須です。英数字 PIN コード (モバイルアプリおよび Button) およびペアリングの証明書 (Button)

レベル 3: このレベルは、セキュリティに関して極度に厳しい要件を有する組織で使用されます。

レベル 3 には、レベル 2 のセキュリティに加え、モバイルアプリのブロックが含まれます。また、ファームウェアのダウングレードは不可能で、構成 (WebUI) へのワイヤレス アクセスはできません。

セキュリティ レベルを設定しても、構成で個々のアイテムを使うと、そのセキュリティ レベルに含まれる個々のアイテムを変更できます。個々のアイテムを変更すると、それによってセキュリティ レベル表示が調整されますが、その他の設定が自動的に変更されることはありません。

たとえば、レベル 3 を設定してモバイルアプリのブロックを有効に変更すると、セキュリティ レベル表示がレベル 2 に変化します。ただし、最初からレベル 3 に含まれるその他のアイテムは、すべてレベル 3 のままです。



個々の変更をリセットするには、目的のセキュリティー レベルを選択して [Save changes (変更の保存)] をクリックします。



セキュリティ レベルを変更すると、Button を再度ペアリングすることが必要となります。セキュリティ レベルを 1 からより高いレベルへと変更すると、証明書付き Button (R9861006D01) の互換性設定を変更します。セキュリティ レベルが 1 よりも高いと、再ペア化ができません。

### セキュリティ レベルの設定方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Security (セキュリティ)] → [Security Level (セキュリティ レベル)] をクリックします。



画像 6-28 セキュリティレベル

3. 目的のセキュリティレベルアイコンを選択します。
4. [Save changes (変更の保存)] をクリックして設定を適用します。

## 6.19 セキュリティ、パスワード

### パスワードについて

ClickShare コンフィギュレータにアクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要です。パスワードはいつでも変更できます。これにより、[ClickShare Configuration (ClickShare 構成)] 設定が保護されます。

### ClickShare オンフィギュレータパスワードの変更

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Security (セキュリティ)] → [Passwords (パスワード)] をクリックします。



画像 6-29 パスワード

3. [WebUI パスワード (*WebUI Password*)] (構成パスワード) ペインの [古いパスワード (*Old password*)] の横にある入力フィールドをクリックし、古いパスワードを入力します。
4. [New password (新しいパスワード)] の横にある入力フィールドをクリックし、新しいパスワードを入力します。
5. [Confirm password (パスワードの確認)] の横にある入力フィールドをクリックし、新しいパスワードを再度入力します。
6. [Save changes (変更の保存)] をクリックして設定を適用します。

## 6.20 Base Unit のステータス情報

### ステータス情報

以下の情報を確認できます：

- モデル情報、モデル名、および部品番号
- 製造番号
- ファームウェアのバージョン
- 使用開始日時
- 最後の使用日時
- 現在の稼働時間: 最後のスタートアップからの時間
- 合計稼働時間: 最初のスタートアップからの使用時間
- 一般的なステータス

### Base Unit の再起動

1. コンフィギュレータにログインします。
2. サポート → *Base Unit* のステータスをクリックします。



画像 6-30

- Base Unit を再起動するには、**Base Unit** の再起動をクリックします。  
再起動中は、ClickShare システムの再起動メッセージが進行状況バーと共に表示されます。  
再起動後は、再度ログインする必要があります。

## 6.21 日時の設定、手動

### [Date & Time (日時)] 設定について

日時は、タイムゾーン表示または 1 台以上の NTP サーバーを使って手動で設定できます。

#### 設定方法

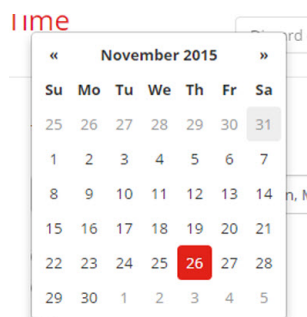
- 構成にログインします。
- [System (システム)] → [Date & Time (日時)] をクリックします。



画像 6-31 手動による日時のアップデート

現在の時間が [Currenttime (現在の時間)] の横に表示されます。

3. タイムゾーンを選択します。[Time zone (タイムゾーン)] の横にあるドロップダウンボックスをクリックし、該当するタイムゾーンを選択します。
4. [Set time and date manually (手動で日時を設定する)] の前にあるラジオボタンをオンにします。
5. 日付を変更する場合は、[Date (日付)] の横にある入力フィールドをクリックします。カレンダーウィンドウが開きます。現在の日付が赤色の背景付きで表示されます。



画像 6-32 日付の選択

6. 月を変更するには、月の横にある左向きまたは右向きの矢印を目的の年および月が表示されるまでクリックします。  
日を設定するには、数字フィールドの数字をクリックします。
7. 時間を変更する場合は、[Time (時間)] の横にある入力フィールドをクリックします。3つのスクロールカウンターが表示されたウィンドウが開きます。



画像 6-33 時間設定

8. 各スクロールカウンターの上下矢印を正しい時、分、および秒が表示されるまでクリックします。



9. [Save changes (変更の保存)] をクリックして設定を適用します。

## 6.22 日時の設定、タイム サーバー

### NTP サーバーの使用について

クロックは外部タイム サーバーと継続的に同期化され、ずれはミリ秒単位です。その他のタイム サーバーを追加できます。

タイム サーバーとの同期を行わない限り、ステータスは無効と表示されます。

### 設定方法

1. 構成にログインします。
2. [System (システム)] → [Date & Time (日時)] をクリックします。



画像 6-34 タイム サーバーの設定

現在の時間が [Currenttime (現在の時間)] の横に表示されます。

3. [Use NTP (NTP を使用する)] の横にあるラジオ ボタンをオンにします。
4. [NTP servers (NTP サーバー)] の横に NTP サーバーのアドレスを入力します。IP アドレスまたはサーバー名を入力します。
  - Note: 複数のサーバー (最大 5 台) を追加できます。追加する場合は、それぞれをカンマで区切ります。
5. [Save changes (変更の保存)] をクリックして設定を適用します。
 

NTP サーバーとの同期が実行されます。ステータス フィールドに進行状況が表示されます。

## 6.23 省電力設定

### スタンバイについて

**Standby after (minutes) (スタンバイ開始 (分後)):** スタンバイ タイムアウト中にクライアントの接続が検出されない場合、Base Unit は選択したスタンバイ モードになります。

デフォルト設定: スタンバイ開始: 10 分後、Base Unit が ECO スタンバイ モードになります。

### ECO モード

Base Unit が ECO スタンバイモードになると、HDMI 出力信号が無効化されます。Base Unit の LED は白色で点滅し、ECO スタンバイモードになっていることを示します。

ECO スタンバイの消費電力: 2.6W

Base Unit の ECO スタンバイモードは、以下のいずれかの操作により解除されます。

- Button に接続している Base Unit またはアプリケーション
- Base Unit のスタンバイボタンを押します。
- Base Unit の USB ポートで Button をペアリングする
- HDMI ディスプレイに差し込む
- CEC イベントが受信されたとき

スタンバイモード

Base Unit がディープスタンバイモードになると、WiFi アクセスポイントや LAN 接続を含むすべてのプロセスをシャットダウンします。Base Unit の LED は消え、このスタンバイモードになっていることを示します。

Base Unit は Base Unit のスタンバイボタンが押された場合にのみ起動します。



画像 6-35 省電力設定

## ディスプレイのタイムアウトの変更方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [System (システム)] → [Energy Savers (省電力設定)] をクリックします。
3. ディスプレイ タイムアウトを設定するには、目的のスタンバイ タイムアウトになるまで、スライダーを左右に移動します。

## 6.24 Button

### Button について

Button ページには、どの Base Unit に Button が接続されているかが示されます。現在の状態も示します。

Base Unit で使用されている Button は、すべて Button 一覧に表示されます。この一覧には、状態、シグナルの強さ、製造番号、ファームウェアのバージョン、接続数、および前回の接続日時が表示されます。

Button のソフトウェアは、WiFi で更新できます。

## 設定を編集するには

1. コンフィギュレータにログインします。
2. システム → *Buttons* をクリックします。



画像 6-36 Button の概要

現在の状態が示され、Button のリストが表示されます。

3. 設定の編集 をクリックします。
4. Button が接続されるアクセスポイントを選択します。 *Button* の接続先の隣にあるドロップダウンリストをクリックし、希望のポイントを選択します。  
 選択、内部アクセスポイントまたは外部アクセスポイントに応じて、設定を入力する必要があります。  
 内部アクセスポイントの場合、設定は必要ありません。

## 6.25 XMSクラウド統合

### 概要

デバイスが登録されておらず、クラウドサービスに接続されていない場合は、次のメッセージが表示されます。 *ClickShare* デバイスはクラウドサービスに接続できません。ネットワーク設定が正しく構成されていることを確認してください。

デバイスが正しく登録されると、次のメッセージが表示されます。 *ClickShare* デバイスが正常に登録されました。



画像 6-37 XMS クラウド

## 可能な操作

1. ネットワーク設定を確認するか、XMS Cloud にデバイスを登録してください。  
41 ページ、XMS Cloud への登録の説明に従って手順を実行します。

## SmartCare

SmartCare パッケージは、各 ClickShare 会議室の購入に含まれています。

当社のワイヤレス会議ソリューションで問題が発生したまれなケースに備えて、最大 5 年間、Barco とパートナーの両方から、予算の予測可能性、迅速なハードウェア交換、専門家によるサポートを提供するサービスパッケージ SmartCare を開始しました。

## 6.26 ファームウェア更新

### ファームウェア更新について

Base Unit のファームウェアは、Web インターフェイスを使って更新できます。ファームウェアの最新バージョンは Barco の Web サイトで入手できます。



画像 6-38 ファームウェア更新

## 自動ファームウェア更新について

自動更新の設定には 3 つの方法があります：

- 自動: システムは自動的にファームウェアの更新を検出し、使用されていないときにインストールします。
- 通知: システムはファームウェアの更新を自動的に検出し、Web インターフェイスのダッシュボードおよびファームウェアページで通知します。更新は、サポート&アップデート > ファームウェア ページで開始します。
- オフ: システムはファームウェアの更新を検出せず、通知もしません。

## 手動ファームウェア更新

1. ファームウェアの最新バージョンを Barco の Web サイトからダウンロードします。
2. コンフィギュレータにログインします。
3. [サポートと更新 (Support & Updates)] → [ファームウェア (Firmware)] をクリックします。
4. ファームウェアのバージョンをアップロードするには、[ファームウェアのアップロード... (Upload firmware...)] をクリックします。  
参照のためのウィンドウが開きます。
5. 新しいファームウェアが格納されたファイルを参照し、[開く (Open)] をクリックするとアップロードが開始します。
  - 📄 Note: このファイルは .enc ファイルです。Barco の Web サイトからダウンロードしたファイルを解凍しなければならない場合もあります。
  - 📄 Note: Base Unit ソフトウェアを更新するには、数分がかかります。処理状況は会議室のディスプレイに表示されます。

Base Unit ソフトウェアが更新されます。



Base Unit でファームウェアのダウンロードが必要な場合、ファームウェアのダウングレードを許可するの前のチェックボックスをオンにします。

## コンフィギュレータを使用せずにファームウェアを更新

コンフィギュレータを使用してファームウェアをアップグレードするには、次の方法もあります。

- デバイスがネットワークに接続され、XMS (クラウド) 管理プラットフォームを介して管理されている場合、この管理ソリューションを介してファームウェアをアップグレードできます。この方法でファームウェアをアップグレードする方法の詳細については、XMS の Barco Web ページ (<https://www.barco.com/en/page/xms-cloud-management-platform>) を参照してください。
- USB スティックにファームウェアをダウンロードし、この USB をデバイスに接続します。詳しくは、98 ページ、CX-20 ファームウェアの更新 をご参照ください。 を参照してください。

## 6.27 サポートとアップデート、トラブルシューティング、ログ設定

### ログ作成について

Button および Base Unit のログデータは、Base Unit のログファイルに保存されます。これらのログファイルには、デバッグ情報が含まれていることがあります。また、ローカルコンピュータにダウンロードして、Base Unit でクリアできます。デバッグのログが網羅するのは、上書きされるまでの数時間です。そのため、作成されたログは、すぐにダウンロードしてシステムの問題を発見することが重要です。

### 使用方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Support & Updates (サポートとアップデート)] → [Troubleshoot (トラブルシューティング)] をクリックします。



画像 6-39 トラブルシューティング、ログ作成

3. デバッグのログを作成するには、[Enable debug logging (デバッグのログ作成を有効にする)] の横にあるチェックボックスをオンにします。
4. 報告する問題を再現します。
5. 現在のログファイルをダウンロードするには、[Download logs (ログのダウンロード)] をクリックします。
6. 現在のログファイルをクリアするには、[Clear logs (ログの消去)] をクリックします。

## 6.28 トラブルシューティング、すべての設定を消去

### すべての設定の消去について

すべての設定を消去すると、デバイス設定はデフォルトに戻ります。オンボーディング手順を実行する必要はありません。



XMS クラウドの組織アカウントからデバイスが削除されることはありません。

### 消去方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Support & Updates (サポートとアップデート)] → [Troubleshoot (トラブルシューティング)] をクリックします。
3. すべての設定を消去してデフォルトに戻すには、すべての設定を消去をクリックします。



画像 6-40 トラブルシューティング、すべての設定を消去

## 6.29 工場出荷時の設定にリセット

### リセットについて

リセットを工場出荷時のデフォルトに適用すると、デバイス設定は工場出荷時のデフォルトに戻ります。さらに、Base Unit は、XMS クラウドの組織アカウントから削除され、デバイスが出荷された場合と同様に、初回のセットアップ手順が開始されます。



初回のセットアップを完了するには、ユニットをインターネットに接続する必要があります。

### リセット方法

1. コンフィギュレータにログインします。
2. [Support & Updates (サポートとアップデート)] → [Troubleshoot (トラブルシューティング)] をクリックします。



画像 6-41 工場出荷時の設定に戻す

3. **[Reset to factory defaults (工場出荷時のデフォルトにリセット)]** をクリックします。  
以下のメッセージが表示されます。「This action will remove all settings of the Base Unit and replace them with the default settings. Are you sure you want to continue? (このアクションにより、Base Unitのすべての設定が削除され、デフォルトの設定が復元されます)。操作を実行してもよろしいですか?」
4. 操作を実行するには **[Yes, remove all settings (はい、すべての設定を削除します)]** をクリックします。実行しない場合は **[No, I changed my mind (いいえ、操作を実行しないでください)]** をクリックします。  
[はい] をクリックすると、システムの再起動が開始されます。



# ファームウェア更新

# 7

## 7.1 CX-20 ファームウェアの更新



装置を初めて起動するときは、ソフトウェアの更新が必要です。この更新はネットワーク経由でのみ行うことができます。

### ファームウェア更新について

Base Unit ソフトウェアを更新するには、様々な方法があります。

- ネットワークに接続されている場合、またはデバイスが XMS クラウドで構成されている場合の自動更新。
- 構成を使用する (詳しくは、92 ページ、ファームウェア更新 をご参照ください。 を参照)。
- ソフトウェアを USB スティックにコピーする

### Base Unit ソフトウェアを USB スティックにコピーして更新するには

1. ファームウェアの最新バージョンを Barco の Web サイト [www.barco.com/clickshare](http://www.barco.com/clickshare) からダウンロードします。サポートをクリックし、お使いのデバイスタイプの更新ファームウェア Button を選択します。
2. zip ファイルを解凍します。
3. ENC ファイルを USB スティックにコピーします。  
同じスティックで複数のデバイスタイプに対して複数のファームウェアを入れることができます。
4. USB スティックを Base Unit の前面にある USB ポートに挿入します。
5. 会議室のスクリーンに表示される指示に従ってください。
6. プロセスが終了したというメッセージがスクリーンに表示されたら、USB スティックを取り外します。  
Base Unit が再起動します。

# トラブルシューティング

# 8

## 8.1 トラブルシューティング一覧

### 問題解決

問題	原因	解決策
会議室のディスプレイに表示される画像の質がよくない	<p>Base Unit およびディスプレイ間のケーブルの品質または長さ、あるいはその接続</p> <p>ディスプレイの解像度が適切でない</p> <p>システムは平均的なラップトップの解像度 (3 メガピクセル) を処理できます。ただし、会議室のディスプレイで拡大または縮小が行われると、アーチファクトが発生する原因となる場合があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケーブルを交換してください。</li> <li>別のケーブルを使用してください。</li> </ul> <p>Web インターフェイスで解像度を変更し、会議室のディスプレイのネイティブ解像度と一致させてください。</p>
ワイヤレス接続状態がよくない。Button から Base Unit への接続が頻繁に切断される。	<p>ワイヤレスの輻輳状態</p> <p>信号の届く距離が短い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WiFi スキャナーを使って空きワイヤレスチャネルを探し、Web インターフェイスでそれを選択してください。この作業には、市販されているツールおよび inSSIDer や Xirrus などの無料オンラインツールを使用できます。「WiFi 設定」を参照してください。</li> <li>Base Unit を会議室テーブルの近くに置いてください。</li> <li>Base Unit の背面にあるアンテナの向きを変えてください。</li> <li>Button および Base Unit 間にある障害物をできるだけ取り除くか、制限してください。</li> </ul>
Web インターフェイスにアクセスできない	<p>ブラウザ</p> <p>接続できない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>別のブラウザ (バージョン) を使用してください。</li> <li>ブラウザの設定を確認してください。</li> <li>Web インターフェイスにアクセスするには 3 つの方法があります。説明書の該当する章を参照してください。</li> <li>プロキシ設定を確認してください。</li> </ul>
Button をラップトップに挿入しても ClickShare ドライブが認識されない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドライブが自動更新されていない</li> <li>Windows がすでに予約済みのドライブ文字に ClickShare ドライブを割り当てようとする</li> </ul> <p>ラップトップの USB ポートの接続がよくない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラップトップの表示を更新してください。</li> <li>Microsoft Windows の「ディスクの管理」を使用して、空きドライブに割り当ててください。</li> <li>USB ポートに再度接続してください。</li> <li>別の USB ポートを使ってください。</li> <li>ラップトップを再起動してください。</li> </ul>

問題

原因

解決策

	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の USB デバイスが、会社のポリシーによりブロックされている。</li> <li>ラップトップの USB ポートの設定により、バッテリー使用時に使える USB デバイスがハイパワー USB デバイスに限定されている。</li> </ul>	<p>可能な場合は、ラップトップの USB ポートポリシーを変更してください。</p>
<p>ビデオパフォーマンスがよくない</p>	<p>ラップトップのパフォーマンス</p> <p>ワイヤレスの接続状態</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラップトップの画面解像度を下げてください。</li> <li>ビデオのハードウェアアクセラレーターを無効にしてください。</li> <li>ビデオを表示する際、ディスプレイの一部のみを使用してください。</li> <li>システムトレイの ClickShare アイコンを右クリックし、[キャプチャモード] をクリックして現在の設定を切り替えます。</li> </ul> <p>「ワイヤレス接続状態がよくない」を参照してください。</p>
<p>ビデオが画面に表示されない</p>	<p>プレイヤーがオーバーレイを使用している</p>	<p>ビデオプレイヤーの基本設定でオーバーレイの使用を無効にしてください。</p>
<p>Windows の一部プログラムがディスプレイに表示されない</p>	<p>GPU におけるオーバーレイ、3D、またはハードウェア アクセラレーションの使用。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GPU でオーバーレイまたはハードウェアアクセラレーションを無効にしてください。</li> <li>Windows 7 では Aero グラスを無効にしてください。</li> <li>Base Unit ソフトウェアを最新バージョンにアップグレードしてください。</li> </ul>
<p>Windows 7 を使用していると、Windows Aero の配色に関する以下のメッセージが表示される: 「コンピュータのパフォーマンスが低下していることが検出されました。Windows Aero の画面の配色を実行する十分なリソースがないことが原因である可能性があります。パフォーマンスを上げるには...」</p>	<p>ClickShare は GPU からのリソースを使用します。Windows 7 では、他にも GPU からのリソースを使用する他のプログラムが実行されている場合、このメッセージが表示され、ラップトップのパフォーマンスを向上するために Aero を無効にするよう提案することがあります。</p>	<p>このメッセージを無視して [現在の画面の配色を使います] を選択しても問題ありません。</p>
<p>Button を押ししてもディスプレイに画面が表示されない</p>	<p>画面上の共有ビデオの数を超過しています。ルームドックを使用する場合、1 人の参加者だけが画面を共有できます。</p> <p>ClickShare ソフトウェアが稼働していない。</p>	<p>全画面表示機能を使用するには、Button をクリックして 2 秒間押したままにしてください。</p> <p>ClickShare ドライブに移動してソフトウェアを実行します。</p>
<p>コンテンツがディスプレイから非表示になり、Button の LED が白色で点滅している</p>	<p>Base Unit への接続が失われています。</p>	<p>ClickShare が自動的に接続の復元を試みます。復元できない場合、Button の LED が赤色で点滅し始めます。</p>

問題	原因	解決策
ディスプレイにまったく何も表示されない。	<p>ディスプレイの電源がオフになっている。</p> <p>ディスプレイケーブルが適切に接続されていない。</p> <p>ディスプレイが Base Unit の出力解像度を認識しないか、表示できない。</p> <p>Base Unit が待機モードになっている</p>	<p>ラップトップから Button を取り外し、新しい Button を使用してみてください。</p> <p>ディスプレイの電源をオンにします。</p> <p>ディスプレイケーブルをディスプレイおよび Base Unit に挿入します。</p> <p>Web インターフェイスを使用して該当する設定を変更します。</p> <p>Base Unit の待機 Button を短く押すか、Button を挿入して ClickShare ソフトウェアを実行します。</p>
WiFi 接続状態がよくない	<p>ワイヤレスチャンネルが輻輳状態である</p> <p>金属製キャビネット、壁、建築材などが、ワイヤレス信号の反射する原因となり、接続状態を悪化させることがあります。</p> <p>Button および Base Unit 間に障害物があると、ワイヤレス信号の強度および質が低下する原因となります。</p>	<p>ワイヤレスネットワークスキャンツールを使って、空きチャンネルまたは最も輻輳状態でないチャンネルを探してください。</p> <p>Base Unit を部屋の別の場所に移動してください。</p> <p>キャビネットの中、吊天井、テーブルの下、壁の後ろ、別の部屋などには置かないでください。</p> <p>Base Unit のアンテナの向きの変更</p> <p>WiFi に関する ClickShare のホワイトペーパーを <a href="http://www.barco.com/clickshare">www.barco.com/clickshare</a> で参照してください。</p>
Web インターフェイスに、「WiFi アクセスポイントデーモン」および/または「DHCP サーバー」プロセスでエラーが発生したと表示される	構成ファイルが破損している	Web インターフェイスの [構成] タブに移動し、[デフォルト設定のロード] をクリックしてください。
ClickShare Base Unit が適切に起動しない	構成ファイルが破損している	Web インターフェイスの [構成] タブに移動し、[デフォルト設定のロード] をクリックしてください。
Base Unit で LAN 接続できない	IP アドレスが間違っている	IP アドレスがお使いの LAN 範囲内ではない。 DHCP が有効になっていない。
Base Unit との WiFi 接続なし	SSID が正しくない	正しい SSID を入力してください

発生している問題を下表で検索し、解決策を実行してください。

## Barco ナレッジベースと YouTube 動画

Barco の Web サイトの製品ページに移動し、右側のサポートで選択します。Barco のナレッジベースと最新のチュートリアル動画にアクセスできます。その他の YouTube 動画については、<https://www.youtube.com/user/barcoTV> にアクセスして ClickShare を選択してください。









R5900102JA /02 | 2020-09-16

Barco NV | Beneluxpark 21, 8500 Kortrijk, Belgium  
Registered office: Barco NV | President Kennedypark 35, 8500 Kortrijk, Belgium  
[www.barco.com](http://www.barco.com)